日田市埋蔵文化財調査報告書第81集

祇園原遺跡Ⅱ

（弥生・古墳時代遺構編）

2007年

日田市教育委員会

第34図　7・8号掘立柱建物実測図（1/100）…… 30
第35図　円形周溝遺構実測図（1/80）…… 30
第36図　1～5号甕棺墓実測図（1/30）…… 32
第37図　甕棺実測図（1/8）…… 33
第38図　3～9号土坑実測図（1/50）…… 35
第39図　11～15号土坑実測図（1/50）…… 36

表目次

第1表　ウッドコンビナート建設に伴う有田塚ヶ原遺跡群の調査および関連文献表 …… 2
第2表　竪穴住居計測表 …… 37
第3表　掘立柱建物計測表 …… 37
第4表　甕棺墓計測表 …… 38
第5表　甕棺観察表 …… 38
第6表　土坑計測表 …… 38

挿入写真目次

写真1　試掘調査風景
写真2　表土除去風景
写真3　調査風景
写真4　4号竪穴住居南西ピット遺物出土状況
写真5　5号竪穴住居北壁～東壁川原石出土状況
写真6　23号竪穴住居内土坑遺物出土状況
写真7　26号竪穴住居遺物出土状況

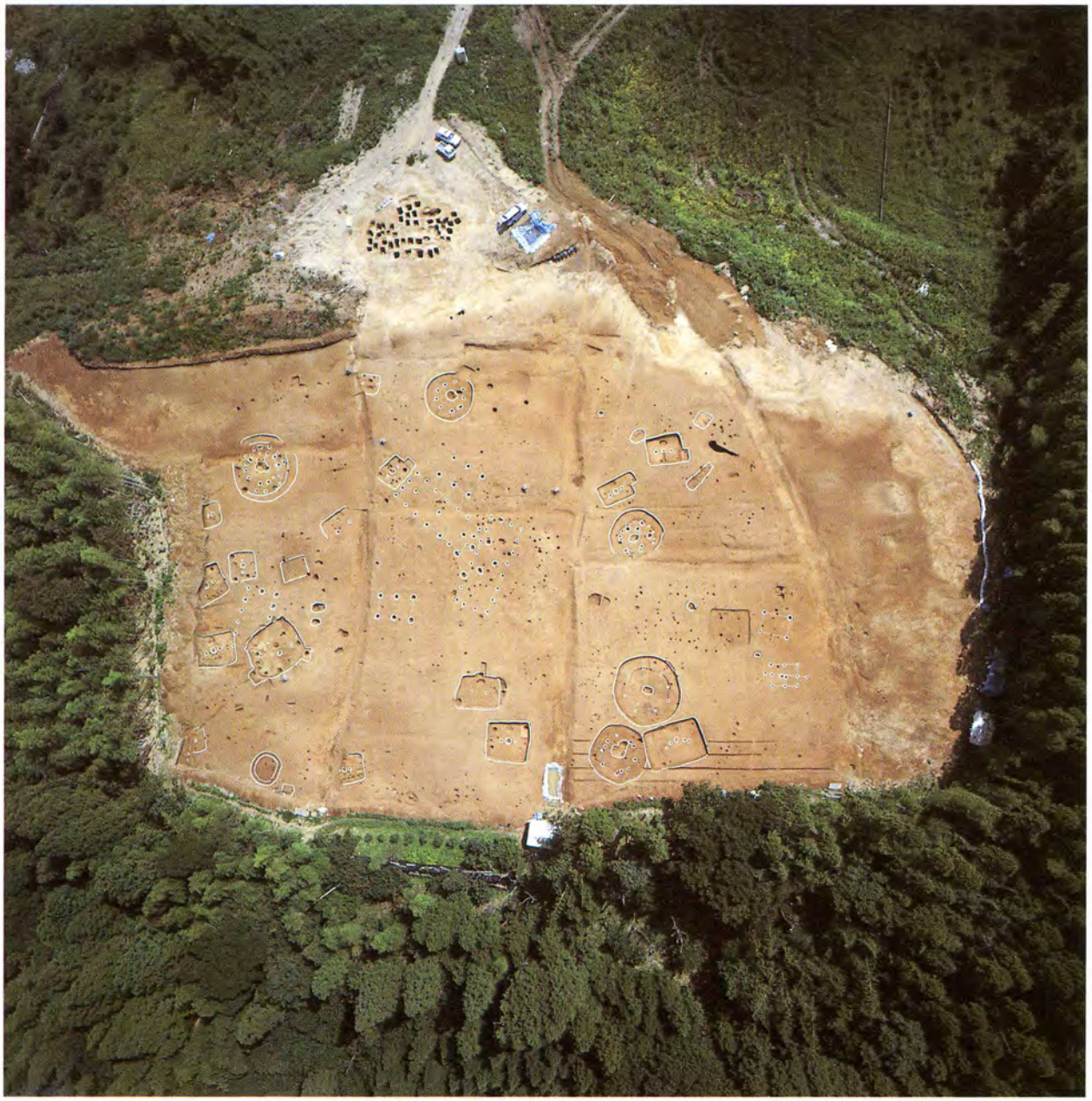
写 真 図 版 目 次

巻頭写真図版 1　祇園原遺跡から有田川を望む
巻頭写真図版 2　祇園原遺跡全景（真上から）
巻頭写真図版 3　5 号竪穴住居全景（真上から）
巻頭写真図版 4　19 号竪穴住居遺物出土状況（真上から）

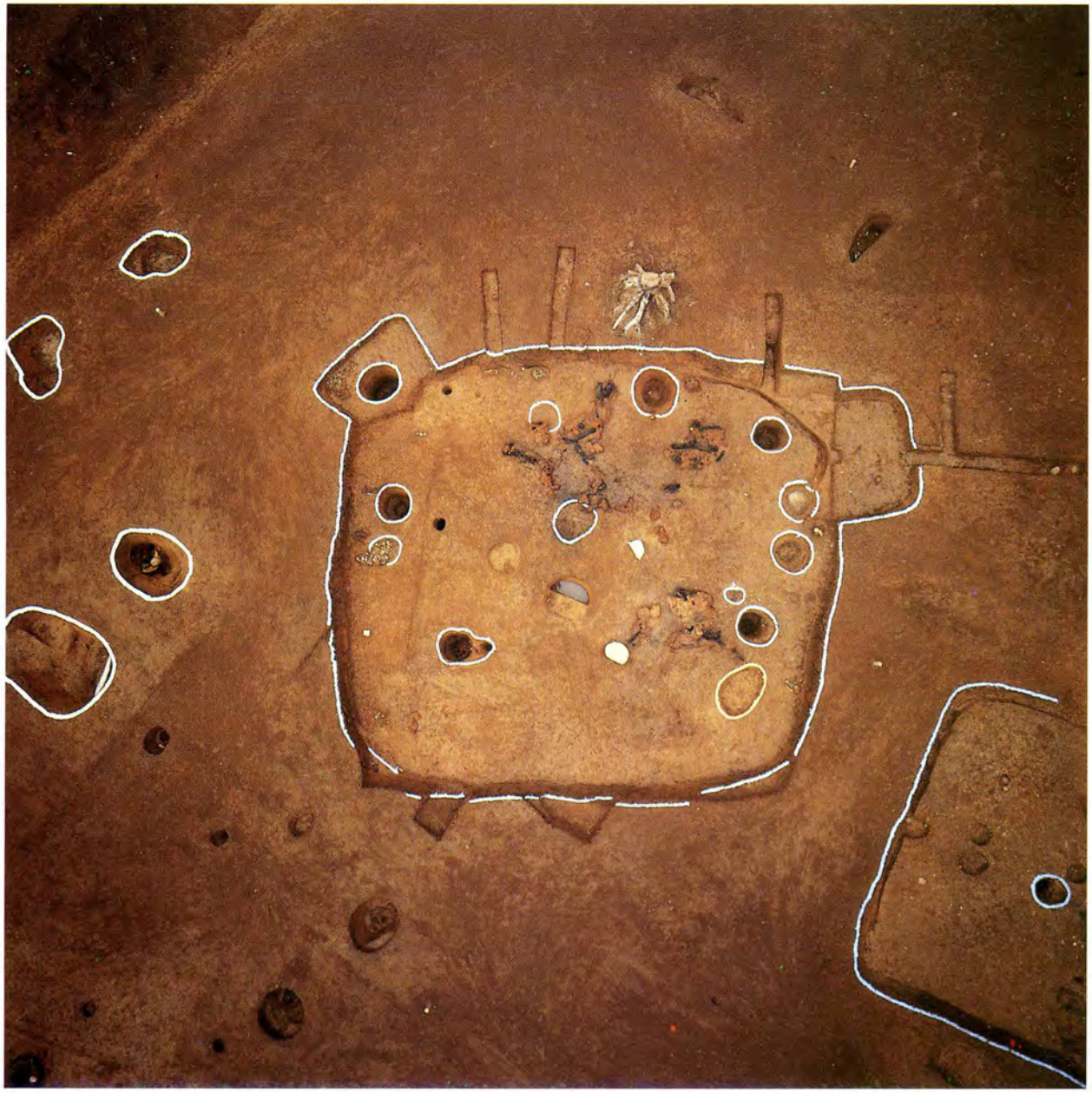
写真図版 1　1 ～ 5 号竪穴住居
写真図版 2　5 号竪穴住居
写真図版 3　7 ～ 9・10 号竪穴住居
写真図版 4　11 ～ 13・14 号竪穴住居
写真図版 5　13 ～ 15・17 号竪穴住居
写真図版 6　16・18 ～ 20 号竪穴住居
写真図版 7　18 ～ 19 号竪穴住居
写真図版 8　19 ～ 20 号竪穴住居
写真図版 9　20 ～ 22 号竪穴住居
写真図版 10　21 ～ 25 号竪穴住居
写真図版 11　23 ～ 25 号竪穴住居
写真図版 12　25・26 号竪穴住居、1 ～ 5 号掘立柱建物
写真図版 13　2・3・5 号掘立柱建物
写真図版 14　1・4・6 号掘立柱建物
写真図版 15　7・8 号掘立柱建物
写真図版 16　11 号竪穴住居・円形周溝遺構、1 ～ 2 号甕棺墓
写真図版 17　1 ～ 4 号甕棺墓
写真図版 18　5 号甕棺墓、8・15 号土坑

写真 3　調査風景

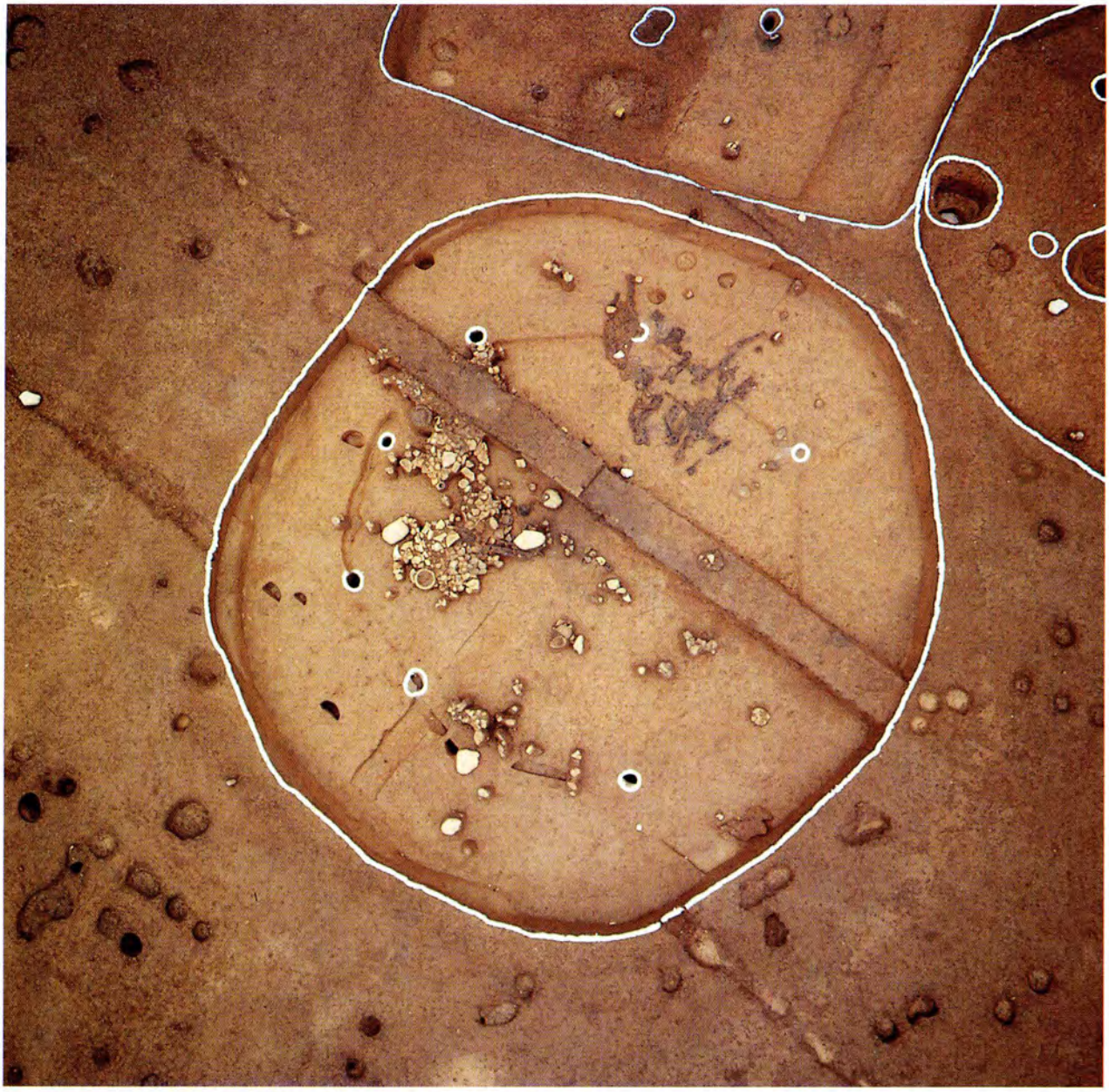
祇園原遺跡から有田川を望む



祇園原遺跡全景（真上から）



5号竪穴住居全景（真上から）



19 号竪穴住居遺物出土状況（真上から）

序　　文

大分県日田市は、市街地のある小さな盆地を中心として、それを取り囲む山林が市域約666 k㎡の85%を占める山間都市です。この地形的特性を生かした林業は「日田杉」というブランドを創出し、近代以降の日田の経済を支えてまいりました。しかし90年代初頭に訪れたバブル崩壊により当市の林業も危機に瀕し、この基幹産業を守るべく計画されたウッドコンビナート（日田高度総合木材加工団地）は、現在では日田の木材の一大集積地としての機能を担っております。さらに敷地内の一角では、昨年11月より間伐材や建設廃材などの木屑を燃料とする国内最大級の木質バイオマス発電施設も稼動をはじめ、産業の発展と環境保全の両立を推進しております。

本書はこのウッドコンビナート建設事業に伴いまして発掘調査を実施した有田塚ヶ原遺跡群のひとつ、祇園原遺跡の調査内容の一部をまとめたものです。この調査では、弥生時代から古墳時代に営まれた丸ごとひとつの集落と、江戸時代の墓地が見つかりましたが、今回は前者のみについて報告いたします。

貴重な遺跡の調査成果をまとめました本書が、文化財の保護や地域の歴史などの普及啓発に、また学術研究等にご活用いただければ幸いです。

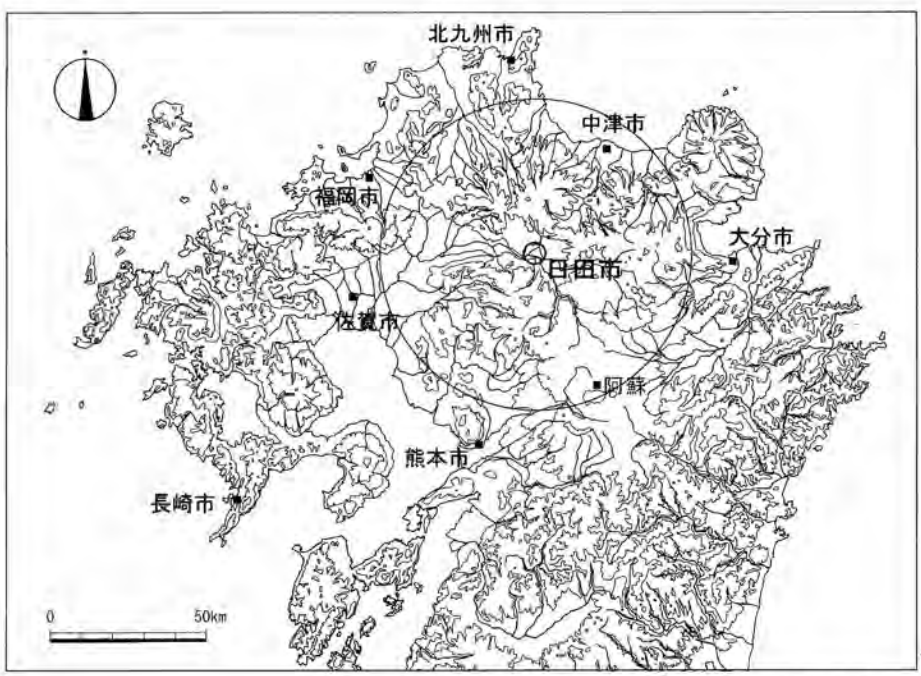
最後になりましたが、調査にご協力いただきました地権者および関係者の方々、そして寒暖なく作業に従事いただきました地元の皆様方に対して、心から厚くお礼を申し上げます。

平成19年3月

日田市教育委員会
教育長　諫　山　康　雄

例　言

1. 本書は、市林政課が計画・実施したウッドコンビナート建設推進事業に先立ち、平成6年度～9年度に市教育委員会が実施した有田塚ヶ原遺跡群発掘調査のうち、平成7～8年度に実施した祇園原遺跡の発掘調査報告書の第1分冊（弥生～古墳時代遺構編）であり、ウッドコンビナート建設推進事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の4冊目にあたる。第2分冊は近世墓および遺物編として、次年度報告予定である。
2. 祇園原遺跡は平成9・10年度に市道田島有田線改良工事に伴って2次調査が実施されており、2001年に報告書が刊行されている。そのため、この2次調査分を「祇園原遺跡Ⅰ」と位置づけ、今回報告分を「祇園原遺跡Ⅱ」とする。
3. 調査にあたっては、市林政課、工事関係者、大分県教育委員会および地元の方々にさまざまなご協力をいただいた。記して感謝申し上げます。
4. 本書に掲載した遺構実測は調査担当者が行い、製図は担当者のほか中川照美（日田市文化財保護課調査補助員）の協力を得た。
5. 空中写真撮影は株式会社スカイサーベイに委託し、その成果品を使用した。
6. 遺物の写真撮影は有限会社雅企画　長谷川正美氏に委託し、その成果品を使用した。
7. 挿図中の方位はすべて真北であり、文中の方位角も真北で示している。
8. 出土遺物および図面・写真類は、日田市埋蔵文化財センターにて保管している。
9. 本書の執筆・編集は行時志郎（日田市農林経済部農政推進課）の協力のもと行時桂子が行った。



日田市の位置

本 文 目 次

Ⅰ はじめに
(1) 調査にいたる経過 …… 1
(2) 祇園原遺跡の調査 …… 3
(3) 調査組織 …… 3

Ⅱ 遺跡の立地と環境 …… 5

Ⅲ 調査の内容 …… 9
(1) 調査の概要 …… 9
(2) 弥生時代から古墳時代の遺構 …… 9
1) 竪穴住居 …… 9
2) 掘立柱建物 …… 25
3) 円形周溝遺構 …… 30
4) 甕棺墓 …… 31
5) 土坑 …… 34

写真１ 試掘調査風景

写真２ 表土除去風景

挿 図 目 次

第 1 図　ウッドコンビナート計画位置図（1/15,000）…… 1
第 2 図　ウッドコンビナート計画地（1 期工事）遺跡位置図（1/10,000）
…… 2
第 3 図　周辺遺跡分布図（1/20,000）…… 6
第 4 図　遺構配置図（1/500）…… 7～8
第 5 図　1 号竪穴住居実測図（1/80）…… 9
第 6 図　2・3 号竪穴住居実測図（1/80）…… 10
第 7 図　4 号竪穴住居実測図（1/80）…… 11
第 8 図　5 号竪穴住居実測図（1/100）…… 12
第 9 図　5 号竪穴住居川原石出土状況実測図（1/30）…… 12
第 10 図　6～8 号竪穴住居実測図（1/80）…… 13
第 11 図　9・10 号竪穴住居内土坑実測図（1/50）…… 14
第 12 図　9・10 号竪穴住居実測図（1/100）…… 14
第 13 図　11・12 号竪穴住居実測図（1/80）…… 15
第 14 図　13 号竪穴住居実測図（1/100）…… 16
第 15 図　14 号竪穴住居実測図（1/80）…… 16
第 16 図　15 号竪穴住居実測図（1/80）…… 17
第 17 図　16 号竪穴住居実測図（1/80）…… 17
第 18 図　17 号竪穴住居実測図（1/80）…… 18
第 19 図　18 号竪穴住居実測図（1/80）…… 18
第 20 図　19 号竪穴住居実測図（1/100）…… 19
第 21 図　20 号竪穴住居実測図（1/80）…… 20
第 22 図　20 号竪穴住居内ピット実測図（1/50）…… 21
第 23 図　21 号竪穴住居実測図（1/80）…… 21
第 24 図　22 号竪穴住居・カマド実測図（1/80・1/30）…… 22
第 25 図　23 号竪穴住居実測図（1/80）…… 23
第 26 図　24 号竪穴住居実測図（1/80）…… 23
第 27 図　25 号竪穴住居実測図（1/80）…… 24
第 28 図　26 号竪穴住居実測図（1/80）…… 24
第 29 図　1 号掘立柱建物実測図（1/100）…… 25
第 30 図　2・3 号掘立柱建物実測図（1/100）…… 26
第 31 図　4 号掘立柱建物実測図（1/100）…… 27
第 32 図　5 号掘立柱建物実測図（1/100）…… 28
第 33 図　6 号掘立柱建物実測図（1/100）…… 29

Ⅰ　はじめに

（1） 調査にいたる経過

祇園原遺跡はウッドコンビナート（日田高度総合木材加工団地）建設地内で確認された遺跡である。

ウッドコンビナート事業は、日田市の基幹産業である林業の長期不況等の諸問題を打開し、また大分県が県西部の林業・木材産業の活性化を目指し策定したグリーンポリス構想に基づき、木材供給基地として日田市に計画されたもので、平成5年度には日田市役所内にウッドコンビナート推進室が設置され、平成7年度から平成10年度までの4年間を第1期とする、開発面積677,315㎡もの広大な面積の建設工事が進められることとなった。

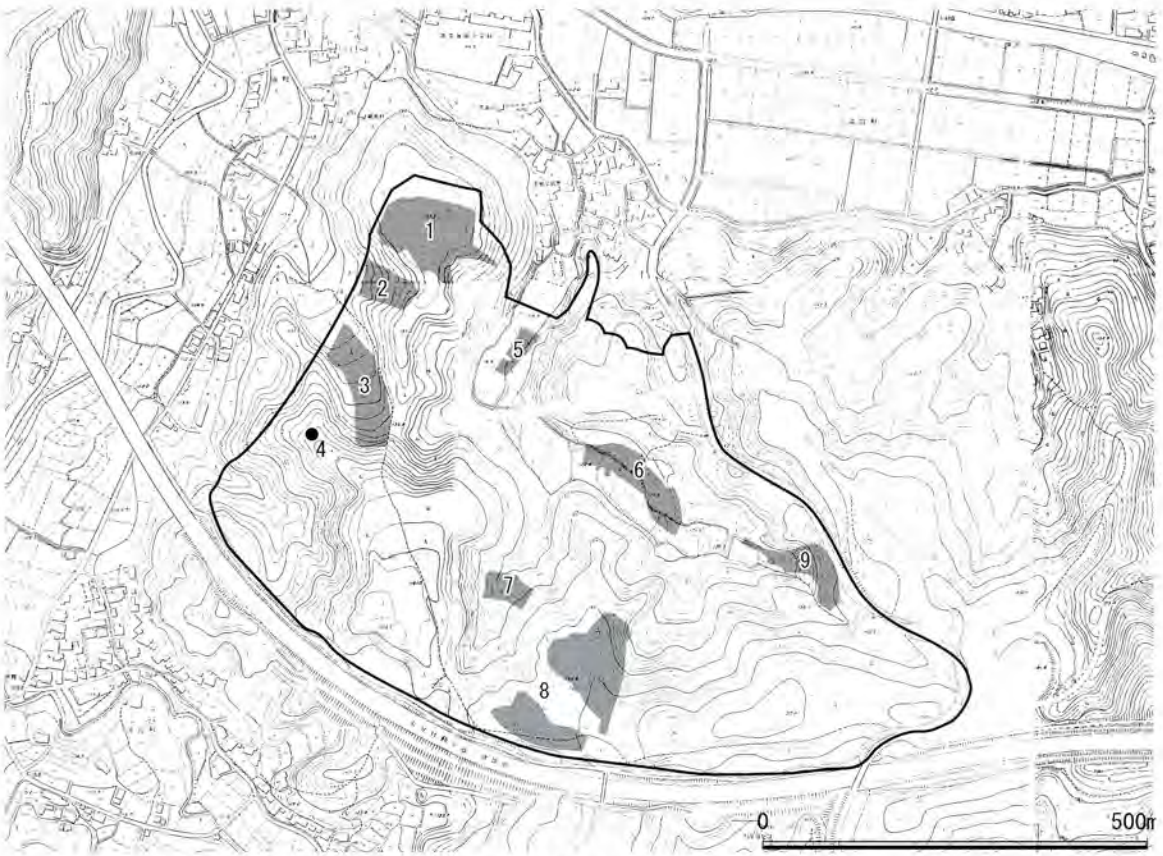
この工事着手に先立ち、平成6年度より予定地内の分布調査および試掘調査を実施し、7ヶ所で遺跡の存在が確認されたことから、これらの取扱いについて事業主体であるウッドコンビナート推進室と協議を行い、その結果これらは有田塚ヶ原遺跡群として、用地買収や樹木の伐採が終了した場所から随時発掘調査を行うこととなった。平成7年2月の平島横穴墓群の調査開始に始まり、石ヶ迫遺跡A・B地区、クビリ遺跡、有田塚ヶ原遺跡、祇園原遺跡、尾漕2号墳、長迫遺跡の順に進め、平成9年7月には尾漕2号墳と長迫遺跡の調査終了をもって現地でのすべての作業を完了した。整理作業は平成7年度から14年度まで行い、整理作業が終了した平成15年度から調査報告書を順次発行している。

なお、有田塚ヶ原遺跡群として調査を行った遺跡とその関連文献については次頁の表のとおりである。

第1図　ウッドコンビナート計画位置図（1/15,000）

第１表　ウッドコンビナート建設に伴う有田塚ヶ原遺跡群の調査および関連文献表

遺跡名	調査年度	関連文献名	報告書
平島横穴墓群	平成６～７年度	行時志郎他／「5　平島横穴墓群」『平成６年度（1994 年度）日田市埋蔵文化財年報』／日田市教育委員会 /1996 年 行時志郎他／「2　平島横穴墓群（ＨＳＹ）」『平成７年度（1995 年度）日田市埋蔵文化財年報』／日田市教育委員会 /1997 年	未報告
石ヶ迫遺跡Ａ・Ｂ地区	平成７年度	行時桂子／『石ヶ迫遺跡』／日田市教育委員会 /2004 年 松下桂子／「4　石ヶ迫遺跡（ＩＳＧ）」『平成７年度（1995 年度）日田市埋蔵文化財年報』／日田市教育委員会 /1997 年	報告済
クビリ遺跡	平成７年度	行時桂子／『クビリ遺跡・有田塚ヶ原遺跡』／日田市教育委員会 /2005 年 行時志郎他／「6　クビリ遺跡（ＫＢＲ）」『平成７年度（1995 年度）日田市埋蔵文化財年報』／日田市教育委員会 /1997 年	報告済
有田塚ヶ原遺跡	平成７年度	行時桂子／『クビリ遺跡・有田塚ヶ原遺跡』／日田市教育委員会 /2005 年 行時志郎他／「9　有田塚ヶ原遺跡（ＡＴＨ）」『平成７年度（1995 年度）日田市埋蔵文化財年報』／日田市教育委員会 /1997 年	報告済
祇園原遺跡	平成７～８年度	行時志郎他／「10　祇園原遺跡（ＧＯＢ）」『平成７年度（1995 年度）日田市埋蔵文化財年報』／日田市教育委員会 /1997 年 行時志郎他／「1　祇園原遺跡（ＧＯＢ）」『平成８年度（1996 年度）日田市埋蔵文化財年報』／日田市教育委員会 /1998 年	本報告
尾漕２号墳	平成８～９年度	行時桂子／『尾漕２号墳』／日田市教育委員会 /2006 年 行時志郎他／「5　尾漕２号墳（ＯＫＧ -2）」『平成８年度（1996 年度）日田市蔵文化財年報』／日田市教育委員会 /1998 年 行時志郎他／「1　尾漕２号墳（ＯＫＧ -2）」『平成９年度（1997 年度）日田市埋蔵文化財年報』／日田市教育委員会 /1999 年	報告済
長迫遺跡Ａ・Ｂ地点	平成８～９年度	行時志郎／「7　長迫遺跡（ＮＳＫ）」『平成８年度（1996 年度）日田市埋蔵文化財年報』／日田市教育委員会 /1998 年 行時志郎他／「2　長迫遺跡Ａ・Ｂ地点（ＮＳＫ－Ａ・Ｂ）」『平成９年度（1997 年度）日田市埋蔵文化財年報』／日田市教育委員会 /1999 年	未報告
有田塚ヶ原遺跡群全般	－	『有田塚ヶ原遺跡群』（概要報告）／日田市教育委員会 /1999 年	－



第２図　ウッドコンビナート計画地（１期工事）遺跡位置図（1/10,000）

1. 祇園原遺跡　2. 長迫遺跡Ｂ区　3. 長迫遺跡Ａ区　4. 尾漕２号墳　5. 石ケ迫遺跡Ａ地区
6. 石ケ迫遺跡Ｂ地区　7. クビリ遺跡　8. 有田塚ケ原遺跡　9. 平島横穴墓群

（2） 祇園原遺跡の調査

祇園原遺跡は、求来里川と有田川沿いに広がる沖積地を見おろす比高差30 mほどの丘陵上に立地している。この丘陵は東西約140 m、南北約150 m、全体的には約2haものほぼ平坦な地形を呈し、調査前はその土地条件を利用して野菜などの畑作経営が行われていた。このため畑の境には排水用の大きな溝が設けられ、また雨水を溜める貯水施設なども見られた。また、丘陵上の最も高い位置には近世期の墓地群が営まれ、その痕跡を示す墓石や川原石などがクヌギ林に点在していた。

表土除去作業では、畑地部分は重機で面的に表土除去を行い、約30～100 cmほどで黄褐色の地山とともに弥生時代や古墳時代の遺構が確認された。また近世墓地周辺については、伐採後墓石等の位置を測量して表土除去を行った結果、墓石の数よりもはるかに多い墓壙が検出された。

これらの遺構は掘り下げ・写真撮影・実測作業を順次行っていったが、近世墓群ではほとんどの墓壙内から人骨が出土したため、その実測など諸処理は、九州大学の田中良之助教授（当時）に依頼した。

調査は比較的順調に進み、10月3日には調査を終了した。その経過等は以下のとおりである。

平成7年度

3月7～29日　重機による表土除去・遺構検出

3月21・22日　九州大学　田中良之助教授（当時）による近世墓の人骨実測・取り上げ

3月28・29日　別府大学　橘昌信教授による調査指導

平成8年度

4月3日～7月31日　九州大学による近世墓の人骨実測・取り上げ

4月17日　基準点測量完了

8月29日　別府大学　後藤宗俊教授による調査指導

9月2日　福岡大学　小田富士雄教授による調査指導

9月5日　九州大学工学部　山本輝雄教授による調査指導

9月6日　空撮

10月3日　機材撤収、現地での調査終了

（3） 調査組織

発掘調査から報告書作成までの関係者は以下のとおりである（職名は当時のまま）。

平成7～8・10年度／発掘調査・整理作業

調査主体　日田市教育委員会

調査責任者　加藤正俊（日田市教育委員会教育長）

調査指導　田中良之（九州大学）、山本輝雄（九州大学／H8）、橘　昌信（別府大学／H7）後藤宗俊（別府大学／H8）、小田富士雄（福岡大学／H8）、渋谷忠章・西　哲弘（大分県教育委員会文化課／H8）、山田拓伸（大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館／H8）坂本嘉弘（大分市歴史資料館／H8）

調査協力　江田　豊（H7）・吉田博嗣（H7～8）・豊田徹士（H8）（大分県教育委員会文化課）

調査事務　原田良伸（日田市教育委員会文化課長／H7）、原田俊隆（同課長／H8・10）財津寅日出（同課長補佐兼文化財係長／H7）、長尾幸夫（同課長補佐兼文化財係長／H8・10）、森山一宏（同主任／H8）、佐々木豊文（同主査／H10）

佐々木美保（H7）・衛藤和美（H8）・竹原里香（H8）（同臨時職員）

調査担当　行時志郎（同主事／H7、同主任／H8・10）、松下桂子（同主事補／H7、同主事／H8）、森山敬一郎（同嘱託／H7～8）

調査員　土居和幸（同主任）、吉田博嗣（同主事／H10）、永田裕久（同主事補／H7～8）
若杉竜太・山路康弘（同嘱託／H10）

来訪者　賀川光夫（別府大学）、清水宗昭（大分県教育委員会文化課）

発掘作業員　秋月貴雄、穐本　進、穐本文雄、秋ヤエ子、秋吉タミエ、秋吉ミユキ、安達義男
荒木邦彦、有冨　力、有富雪子、池内　剛、池田智之、諫山三代子、諫山洋介
伊藤キヨ子、伊藤フジエ、井上大輔、井上ノブエ、猪熊スミ子、猪熊忠孝、猪熊　誠
猪熊ヨネ、宇藤モト、梅木鈴子、梅山和久、江藤勝義、江藤キミ子、荏隈キミエ
荏隈　哲、荏隈典子、荏隈ふみ、荏隈マサ子、荏隈政子、大関　洋、大坪伸介
小埜純一郎、小野多美子、鍛冶谷アサヨ、鍛冶谷節子、梶原英治、梶原シゲ子
梶原シゲヨ、梶原英俊、梶原みとし、加納健作、河原　猛、北澤幾子、木下カネ
木下富三郎、江田美代子、五島勇美子、五反田静子、小山龍彦、財津勲子
財津静子、財津真弓、財津利枝、財津由太、酒井光敏、坂本アキノ、坂本今朝人
坂本都美子、貞清百合子、佐藤カスミ、佐藤和也、佐藤節子、佐藤み代子、島田けさみ
清水忠造、庄内武子、菅田クマエ、菅田初夫、菅田ミヤ子、園田　大、園田光子
園田義雄、高倉厚巳、高倉ハナ子、高倉秀雄、高倉冨美子、高倉美津子、高倉美利
高倉六郎、高村笑美子、武内アイ子、武内公平、田中　昇、谷頭忠雄、津江久徳
手嶋トシエ、中島カズ子、中島ツネ子、中島トミエ、中野哲朗、中野ヨシ子、鍋倉啓祐
野内太一郎、原田直宏、樋渡松代、福沢洋一、藤本裕之、前　善知、益永　勇
松岡登美子、松岡初次、松竹智之、松本トキエ、毛利四郎三、森川實夫、矢羽田圭
矢羽田賢二、山口勇介、山本タケ、横尾テル子、吉野牧夫、和田徹二郎、渡辺千美子
渡辺　暢、渡辺芳五郎

【九州大学】石井博司、大森　円、小沢佳憲、上角智希、金　宰賢、辻田淳一郎、舟橋京子

整理作業員　穴井こずえ、穴井トヨ子、石松裕美、伊藤弘子、井上とし子、今井由美子、宇野富子
宇野理紗、荏隈香苗、大口友里子、小埜和美、鍛冶谷節子、梶原聖子、梶原ヒトエ
川原君子、河原直美、甲能京子、酒井貴代美、坂口豊子、坂本和代、坂本智子
坂本則子、相良由香、佐々木美保、佐藤美和、澁谷美智子、田中静香、出野　梢
豊田愛子、中原琴枝、樋口恭子、聖川暢子、平川優子、藤原亜衣、松岡弘子
溝口さや香、森山奈美江、横尾久美子、吉田千津子、和田ケイ子

平成18年度／報告書作成

調査主体　日田市教育委員会

調査責任者　諫山康雄（日田市教育委員会教育長）

調査事務　後藤　清（日田市教育委員会文化財保護課長）、高倉隆人（同課長補佐兼埋蔵文化財係長）
田中正勝・伊藤京子（同専門員）、中村邦宏（同主事補）

報告書担当　行時桂子（同主任）

調査員　今田秀樹・若杉竜太・渡邊隆行（同主任）、矢羽田幸宏（同主事）

Ⅱ　遺跡の立地と環境

大分県西部、筑後川上流域に位置する日田市は、標高80m前後の沖積地に広がる市街地の周囲を標高約150mの阿蘇溶岩台地が巡り、その外周に標高200～600mの耶馬溪溶岩台地が、市の境界域には700～1,000m級の山々が連なって盆地の景観を形成する。この山々を源とする大小の河川は溶岩台地の合間を縫って沖積地へ流れ込み、南流する花月川や西流する玖珠川などが合流して筑後川となり有明海へ注ぐ。

祇園原遺跡のある有田塚ヶ原遺跡群は盆地東部の大字東有田に属し、花月川支流の有田川と求来里川が合流する東側に立地する。有田地域はいわゆる「盆地」内とは文化圏を異にし、近世期日田盆地が江戸幕府の直轄地であった頃には東隣の森藩（玖珠）領となっていた地域である。有田塚ヶ原遺跡群の各遺跡は阿蘇溶岩台地を中心に立地し、全体的には急な斜面部が多く見られる。このような遺跡の立地条件は盆地周辺部では一般的であり、台地上には古い集落や古墳が造られ、谷部や小沖積地には比較的時代の下った集落跡が広がっている。祇園原遺跡はこのような地勢の丘陵上平坦部に営まれている。

この有田塚ヶ原遺跡群では本報告のほかに、鉄器や装身具類など多数の副葬品が出土した大規模な墓地・平島横穴墓群（29）、縄文時代早期の集石と古墳時代～古代の集落跡・石ヶ迫遺跡A・B地区（27・28）、古代の鍛冶に関する遺構・遺物が出土したクビリ遺跡（30）、縄文時代の落し穴と古代の建物群・有田塚ヶ原遺跡（32）、凝灰岩の箱式石棺を主体部とする古墳時代中期の円墳・尾漕2号墳（26）、古墳～奈良時代の大集落・長迫遺跡A・B区（24）が調査されており、順次報告を行っているところである。

また有田塚ヶ原遺跡群の周辺ではほ場整備などの開発に伴う発掘調査が数多く実施されている。まず求来里川流域では弥生～古墳時代と中近世の集落や大量の銭貨を副葬する中世墓が発見された尾漕遺跡（25）、単室の横穴式石室を主体部とする円墳の尾漕1号墳（31）、縄文時代晩期の埋甕などが発見された森ノ元遺跡（34）、古墳時代の集落跡や古代の土壙墓が確認された馬形遺跡（35）などがある。上流域では求来里平島遺跡（39）や町ノ坪遺跡（38）、金田遺跡（37）・小西遺跡（41）など広範囲にわたって弥生時代～近世の集落跡や溝などが見つかっており、なかでも求来里平島遺跡や町ノ坪遺跡・金田遺跡では、カマド初現期の竪穴住居や初期須恵器が発見され、日田市では資料の乏しい古墳時代中期の様相が続々と明らかになりつつある。

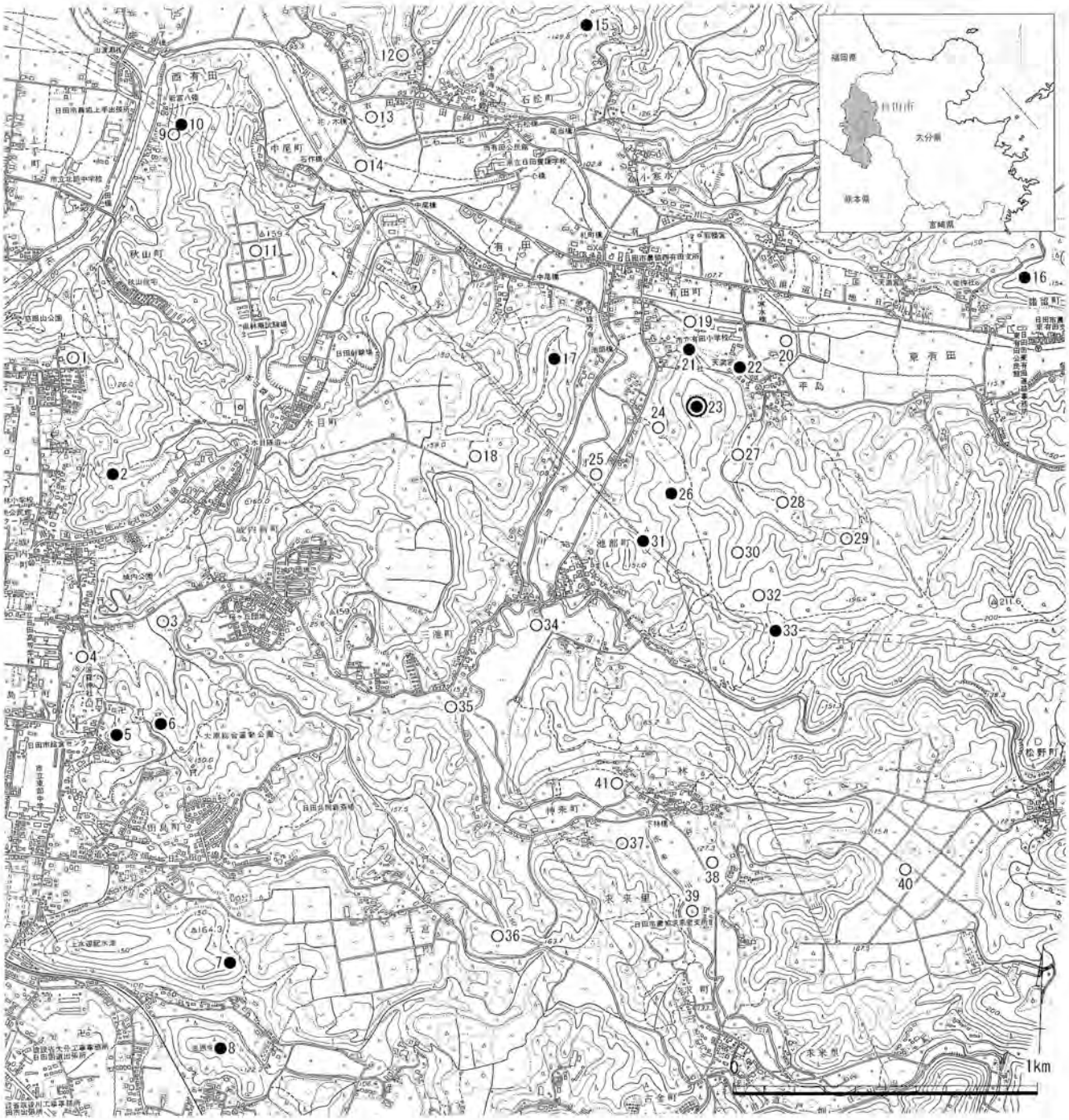
有田川流域に目を転じると、単室両袖式の横穴石室を主体部とする円墳・塔ノ本古墳（21）、市史跡の円墳・平島古墳（22）、弥生時代後期の環濠集落と古墳時代後期の集落・平島遺跡（19・20）、5世紀の前方後円墳・城山古墳（16）など古墳時代を中心とした遺跡が分布しており、下流には横穴式石室から初期須恵器や　製鏡などが出土した有田古墳（15／消滅）、古墳～古代の集落跡・大行事遺跡（12）、弥生時代と古代の集落や墓・内ノ下遺跡（13）、古代の集落や墓・川原田遺跡（14）、弥生時代の集落や墳墓・佐寺原遺跡（11）など広い時代にわたる遺跡が位置する。

このほか、本遺跡群の西方の「盆地」には箱式石棺を主体とする夕田古墳（10）、その近くの斜面に築かれた40数基にものぼる夕田横穴墓群（9）、中世大蔵氏の関連施設とされる慈眼山瀬戸口遺跡（1）、縄文～中世の生活痕が発見された赤迫遺跡（3）、奈良時代の墨書土器が発見された大波羅遺跡（4）、直径約35mを測る円墳・薬師堂山古墳（5）、装飾古墳1基を含む円墳7基の法恩寺山古墳群（8）などがある。

《参考文献》

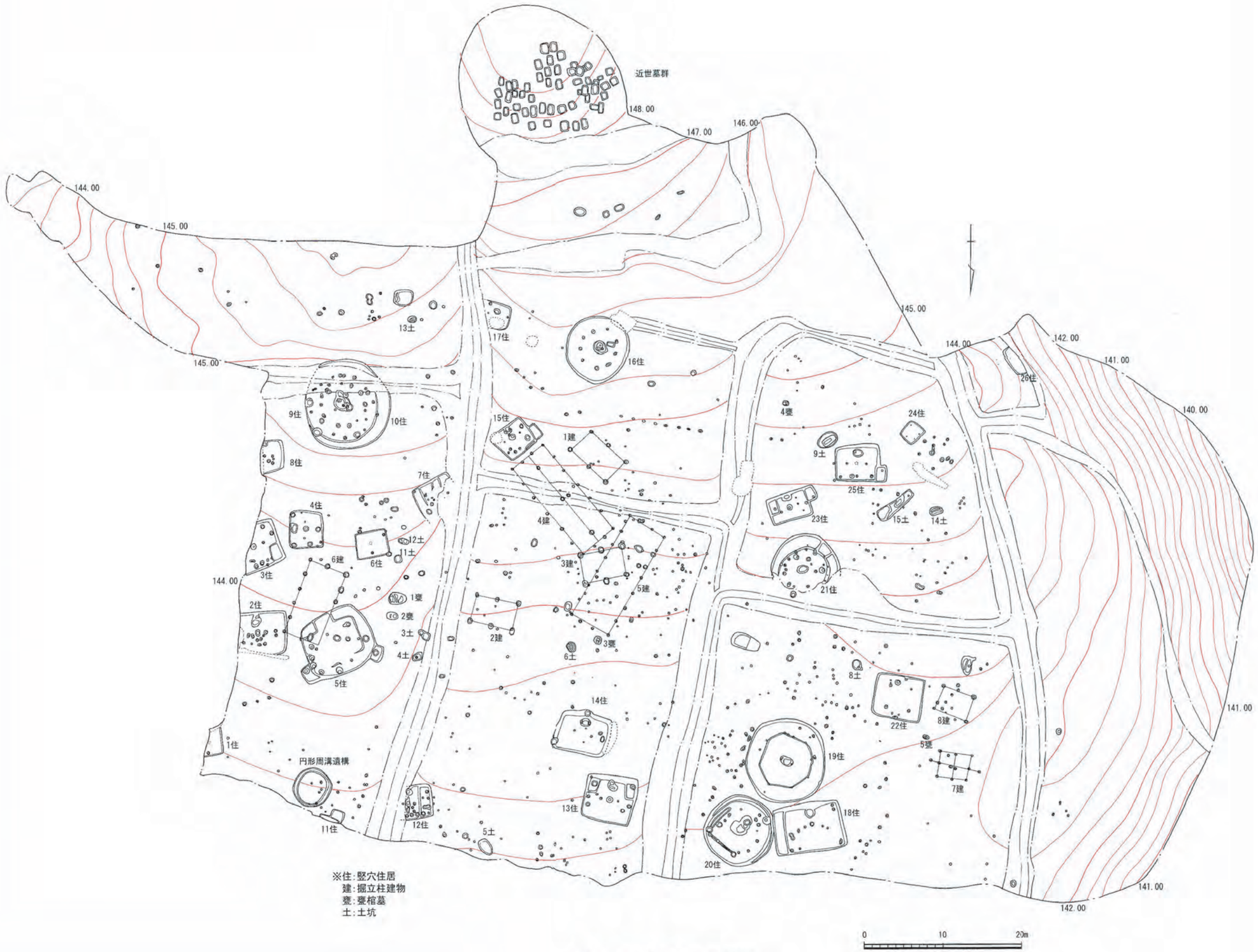
千田　昇「日田・玖珠地域の地形－とくに台地地形について－」『日田・玖珠地域－自然・社会・教育－』大分大学教育学部　1992
行時志郎編『有田塚ヶ原遺跡群』日田市教育委員会　1999

「平成４年度（1992）～16年度（2004）日田市埋蔵文化財年報」 日田市教育委員会 1994～2005
「日田市史」 日田市 1990 ほか



1 慈眼山瀬戸口遺跡
2 丸山古墳
3 赤迫遺跡
4 大波羅遺跡
5 薬師堂山古墳
6 丸尾神社古墳
7 北向古墳
8 法恩寺山古墳群
9 夕田横穴墓群
10 夕田古墳
11 佐寺原遺跡
12 大行事遺跡
13 内ノ下遺跡
14 川原田遺跡
15 有田古墳（消滅）
16 城山古墳
17 中尾古墳群
18 中尾原遺跡
19 平島遺跡D・E区
20 平島遺跡A～C区
21 塔ノ本古墳
22 平島古墳
23 祇園原遺跡
24 長迫遺跡
25 尾漕遺跡
26 尾漕２号墳
27 石ヶ迫遺跡A地区
28 石ヶ迫遺跡B地区
29 平島横穴墓群
30 クビリ遺跡
31 尾漕1号墳
32 有田塚ヶ原遺跡
33 有田塚ヶ原古墳群
34 森ノ元遺跡
35 馬形遺跡
36 元宮遺跡
37 金田遺跡
38 町ノ坪遺跡
39 求来里平島遺跡
40 町野原遺跡
41 小西遺跡

第３図 周辺遺跡分布図（1/20,000）



第4図　遺構配置図（1/500）

Ⅲ　調査の内容

(1) 調査の概要（第４図）

祇園原遺跡で確認された遺構は主として弥生時代のものが中心であるが、遺跡周辺部においてもこの時代の遺跡が広く分布していることがこれまでの発掘調査で確認されている。遺跡西側の求来里川沿いの沖積地上には池辺地区県営圃場整備事業に伴い発掘調査が行なわれた尾漕遺跡４次調査区があり、弥生時代中期後半から後期前半の竪穴住居や小児用甕棺墓などが発見されている。また、祇園原遺跡北側の丘陵裾部には、市道田島有田線建設事業に伴い発掘調査が行なわれた平島遺跡Ｄ地点や畑地造成事業に伴い発掘調査が行なわれた平島遺跡Ｅ地点があり、弥生時代後期後半頃と考えられる竪穴住居や大型成人用甕棺墓などが確認されている。さらに、有田川沿いの沖積地上には、諸留地区圃場整備事業に伴い発掘調査が行なわれた平島遺跡Ａ地点や県道白地日田線建設工事に伴い発掘調査が行なわれた平島遺跡Ｂ地点で、弥生時代後期中頃から終末期にかけての竪穴住居や環濠などが確認されている。このように祇園原遺跡の遺跡立地の背景には周辺の遺跡との関連性がうかがわれる。

祇園原遺跡での最終的に確認された主な遺構の数は竪穴住居26軒、掘立柱建物８棟、円形周溝遺構１基、小児用甕棺墓５基、土坑15基、近世墓54基である。近世墓以外のものについて、以下遺構ごとに説明を加えることにする。

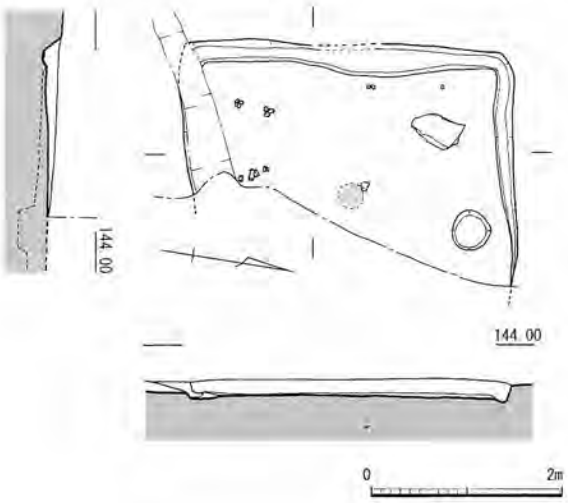
(2) 弥生時代から古墳時代の遺構

1) 竪穴住居

竪穴住居は調査区内で計26軒が検出された。その内訳は弥生時代の円形住居６軒、方形住居18軒、古墳時代の住居２軒である。竪穴住居の配置を見ると、丘陵上の限られた区域を利用し、中央を空白地として取り囲むように並んでいる状況がうかがえた。また住居同士の切り合い関係もほとんどなく、隣接する場所に２～３軒程度が一つのグループのようにまとまって検出された。以下説明を加えることにする。

１号竪穴住居（第５図、写真図版１）

調査区北東隅で検出された平面長方形プランを呈すると推定される住居である。調査区東側半分は調査区外に続き、住居南側はゴボウトレンチャーにより撹乱を受けていた。住居の周囲には壁面に沿って周溝が巡り、住居のほぼ中央には炉跡と見られる焼成面が確認されたが、主柱穴と考えられるピットは検出できなかった。この住居内からは、土器片等の遺物が出土している。



第５図　１号竪穴住居実測図（1/80）

2号竪穴住居

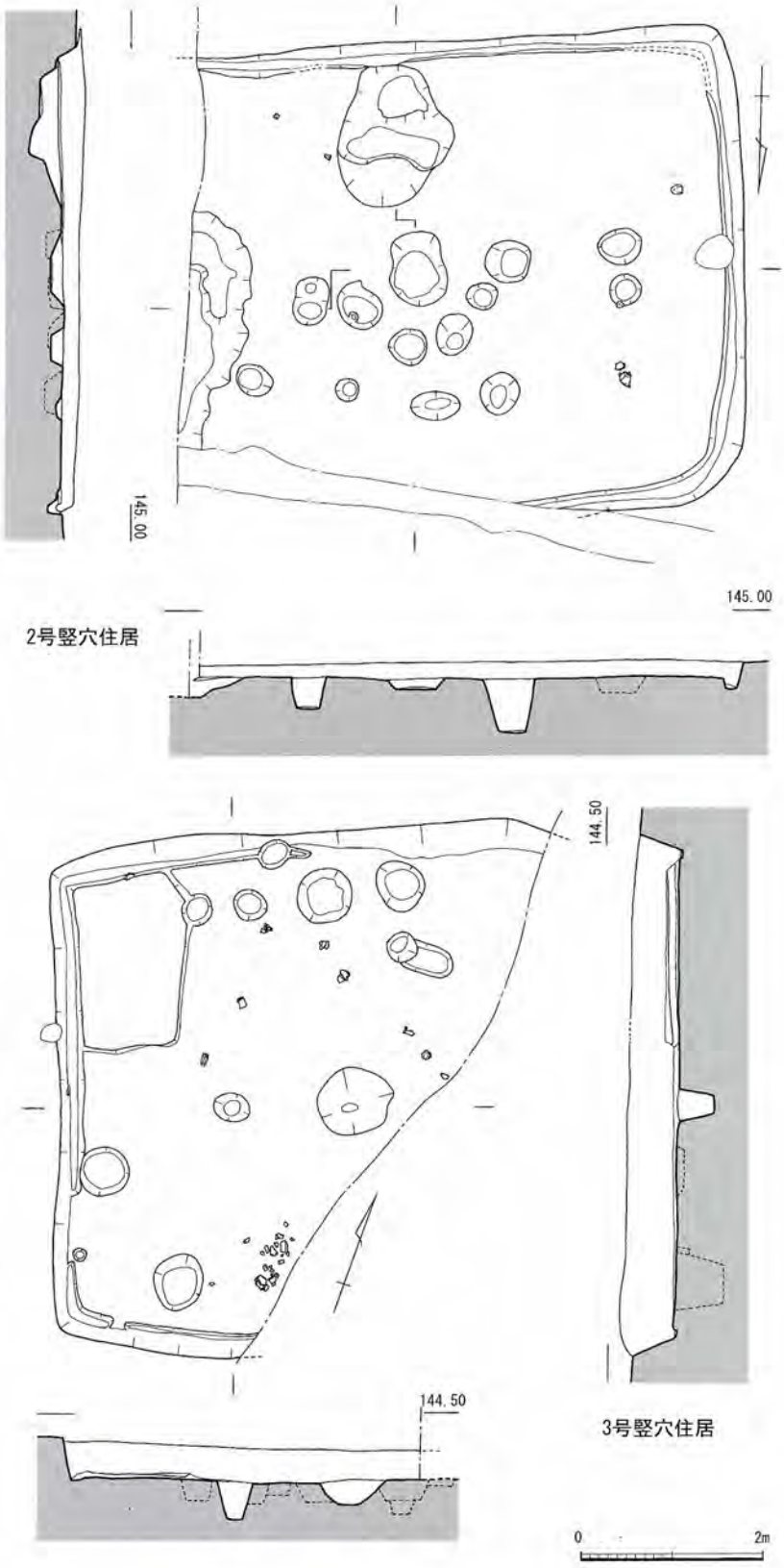
（第6図、写真図版1）

調査区東端で検出された平面長方形プランを呈すると推定される住居である。調査区東側壁面付近は調査区外に続き、また住居北側はゴボウのトレンチャーにより撹乱を受けていた。住居の周囲には壁面に沿って周溝が巡り、住居のほぼ中央には炉跡、その両側には2本の主柱穴が確認された。また、炉跡の南側には住居に伴う土坑が付設されていた。この住居内からは、土器や砥石などの遺物が出土している。

3号竪穴住居

（第6図、写真図版1）

調査区東端で検出された平面長方形プランを呈すると推定される住居である。東側半分は調査区外に続く。住居の中央と思われる位置には炉跡、この西側には主柱穴と考えられるピットが検出された。住居北東隅にはベッド状遺構が見られ、壁面に沿って周溝が巡らされていた。この住居内からは土器片や砥石などの遺物が出土している。

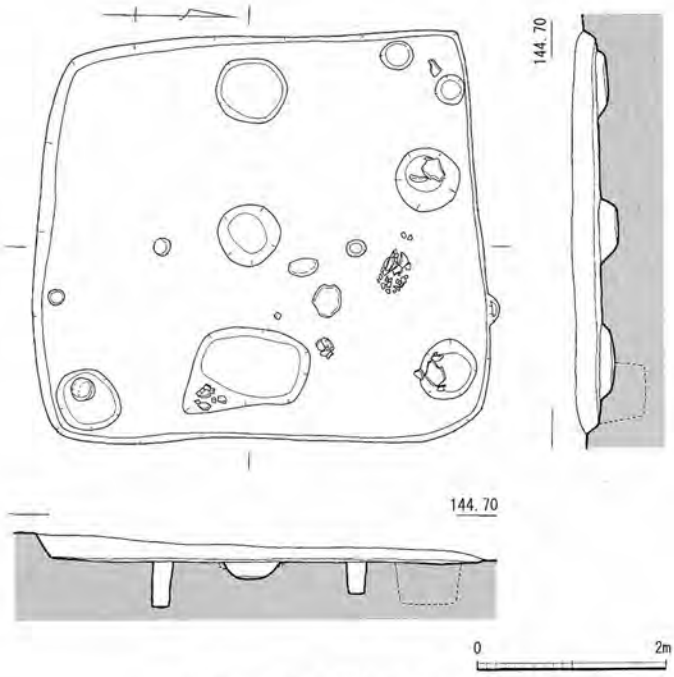


第6図　2・3号竪穴住居実測図（1/80）

4号竪穴住居

（第7図、写真図版1）

調査区東側で3号竪穴住居に隣接して検出された平面方形プランを呈する住居である。住居のほぼ中央には炉跡があり、その両側には2本の主柱穴が確認された。炉跡の東側には住居に付設された土坑が検出された。また住居のコーナー付近にはこの住居に伴うと考えられる掘り方がしっかりとした大きなピットがあり、中からは意図的に投棄されたと考えられる土器片などがまとまって出土した。



第7図　4号竪穴住居実測図（1/80）

5号竪穴住居（第8・9図、写真図版1・2）

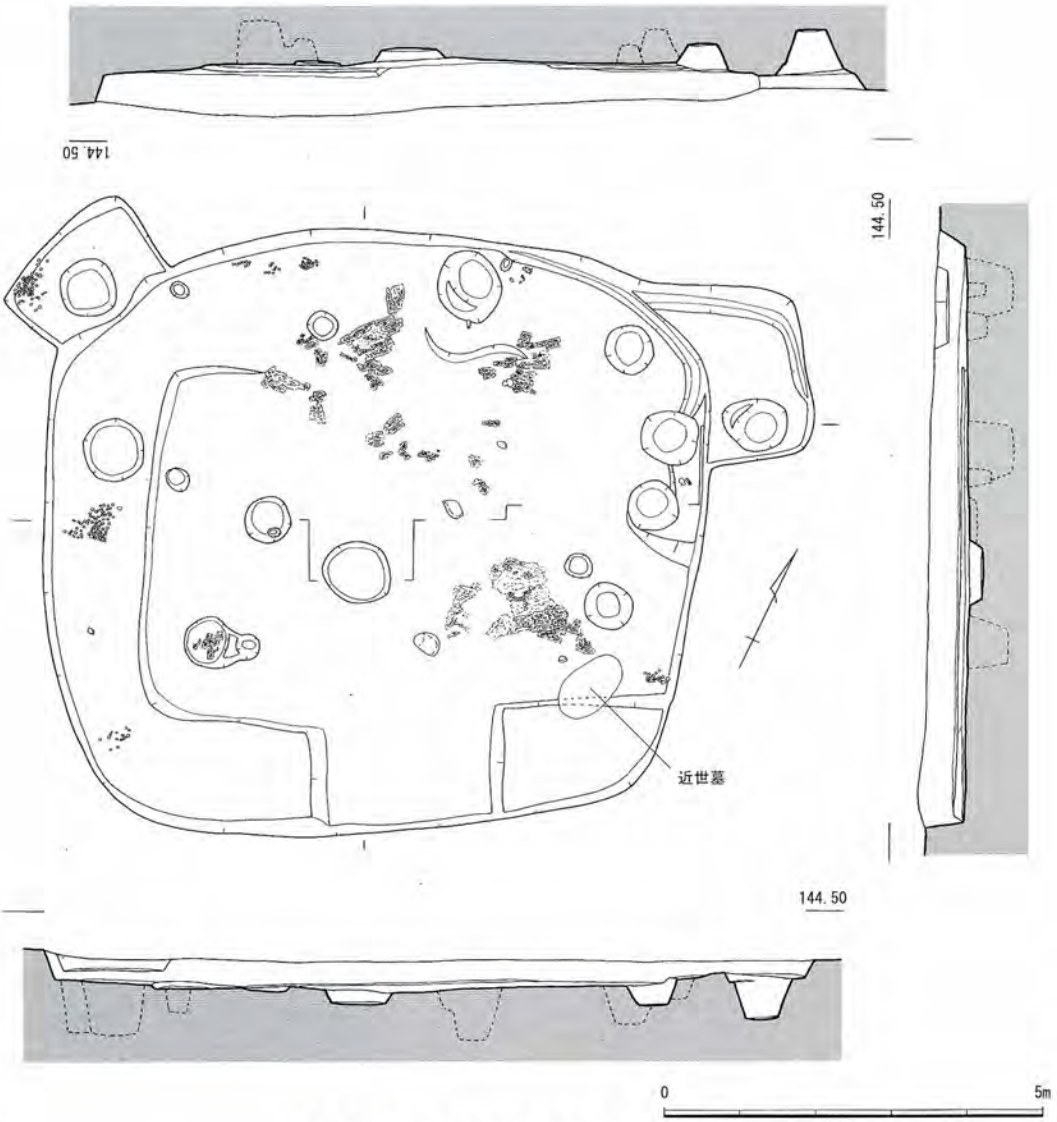
調査区東側で2号竪穴住居に隣接して検出された平面隅丸方形プランを呈する住居である。住居のほぼ中央付近には焼土が多く出土した炉跡と考えられる浅い窪みが確認され、住居西側から南側にかけてはベッド状遺構が配置されている。住居の北西コーナーおよび北東コーナー付近には住居よりも一段高くした張出部が設けられていた。この住居の主柱穴は不明であるが、これらの張出部や住居北壁付近には掘り方のしっかりした直径70～90㎝ほどのピット群が見られ、これらが主柱穴の役割を果たしていた可能性がある。

この住居内からは、床面上に広く炭化材や焼土が検出されており、焼失住居であった可能性が高い。さらに、張出部や住居壁面付近には3～5㎝程度の大きさの川原石がまとまって出土しており、何か袋のようなものに入れられていたのではないかと推測される。またこの住居内からは、炭や焼土とともに、完形の小さな壺形土器や袋状鉄斧、鉄鏃などの遺物が床面上で出土している。

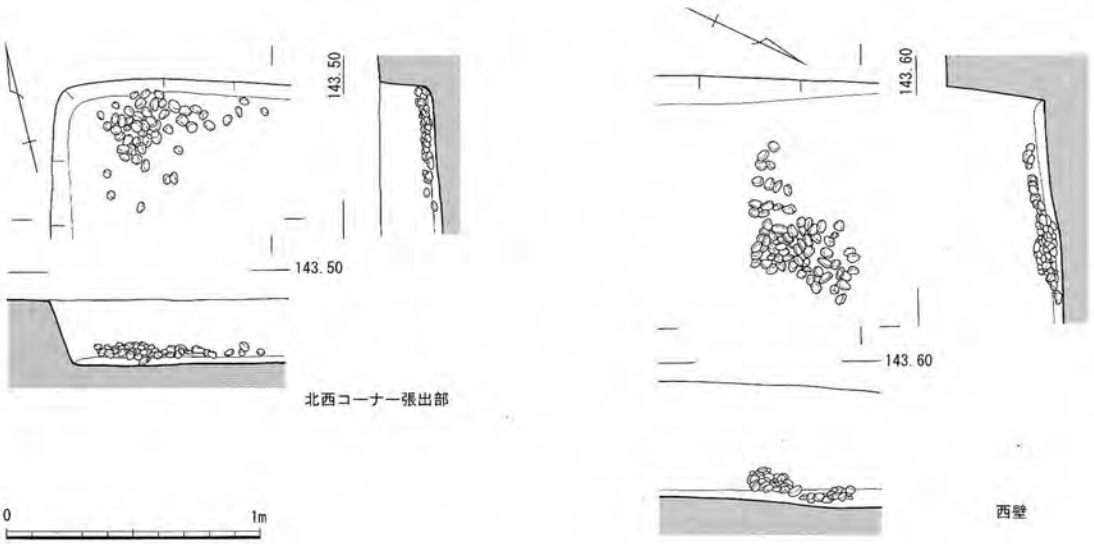
なおこの住居の遺構検出時には上面から掘り込まれた近世墓1基が見つかっている。

写真4　4号住居南東ピット遺物出土状況

写真5　5号竪穴住居北壁～東壁
川原石出土状況



第８図　５号竪穴住居実測図（1/100）



第９図　５号竪穴住居川原石出土状況実測図（1/30）

6 号竪穴住居（第 10 図）

調査区東側で検出された平面長方形プランを呈する小型の住居である。住居のほぼ中央には、掘り込みはほとんどないものの焼土が広がっており、ここに炉跡が存在したと考えられる。また、この住居では明確な主柱穴と見られるピットは確認されなかった。この住居内からは土器片がまとまって出土した。

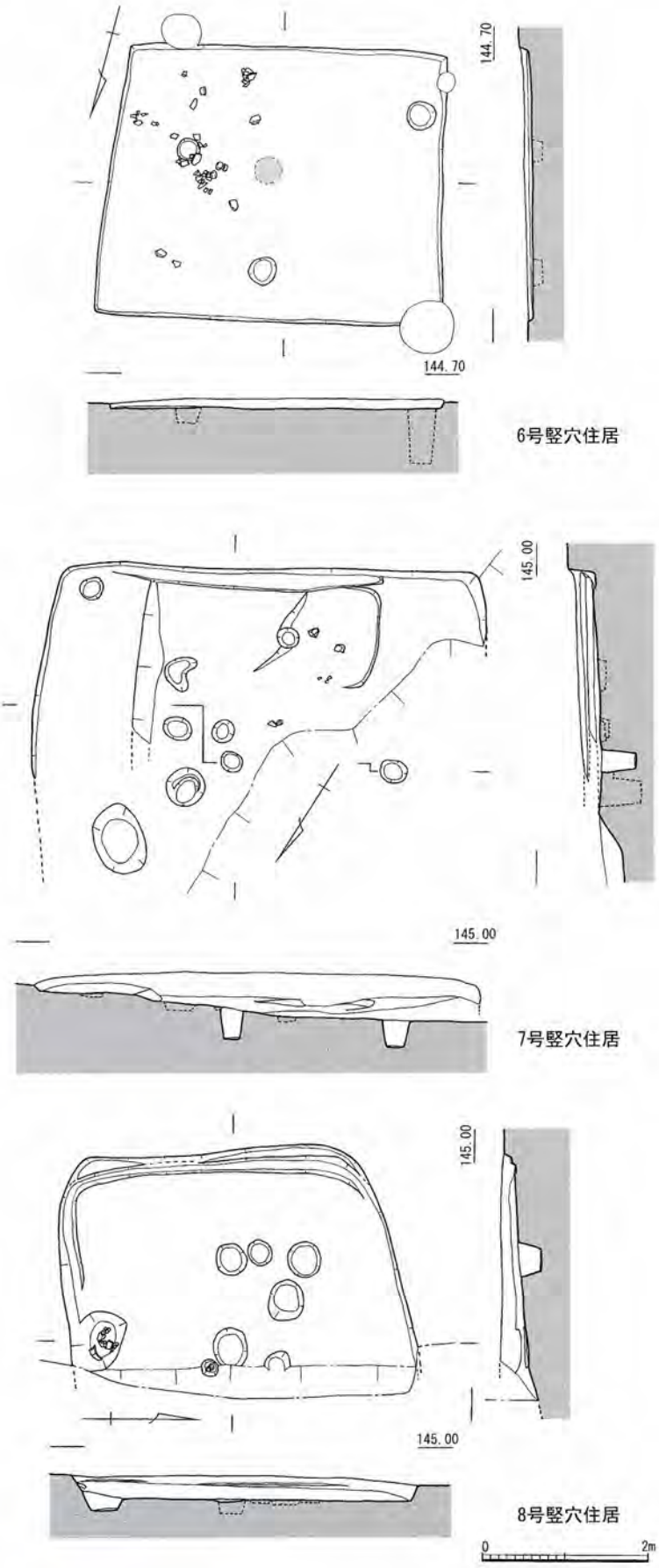
7 号竪穴住居（第 10 図、写真図版 3）

調査区東側で 6 号竪穴住居に隣接して検出された平面長方形プランを呈すると考えられる住居である。住居西側は畑の境界溝により削平を受けていた。住居のほぼ中央には 2 本の主柱穴が検出されたが、この間にあるべき炉跡は確認できなかった。また南側壁面沿いほぼ中央には住居に付設された土坑が、住居東側にはベッド状遺構が検出された。住居内からは土坑周辺より土器片が出土した。

8 号竪穴住居

（第 10 図、写真図版 3）

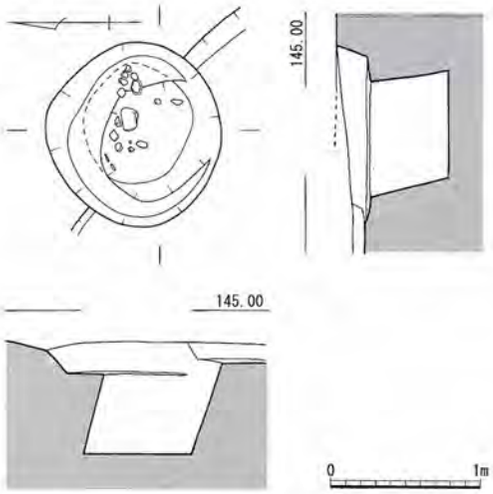
調査区東端で検出された平面長方形プランを呈すると考えられる住居である。住居東側は調査区外へ続く。住居のほぼ中央と考えられる位置には炉跡が、またこの炉跡の西側には主柱穴と考えられるピットが確認された。さらに炉跡の南側には住居に付設された土坑が検出され、住居の西側壁面沿いには周溝が巡らされていた。住居内からは土坑などからまとまって遺物が出土している。



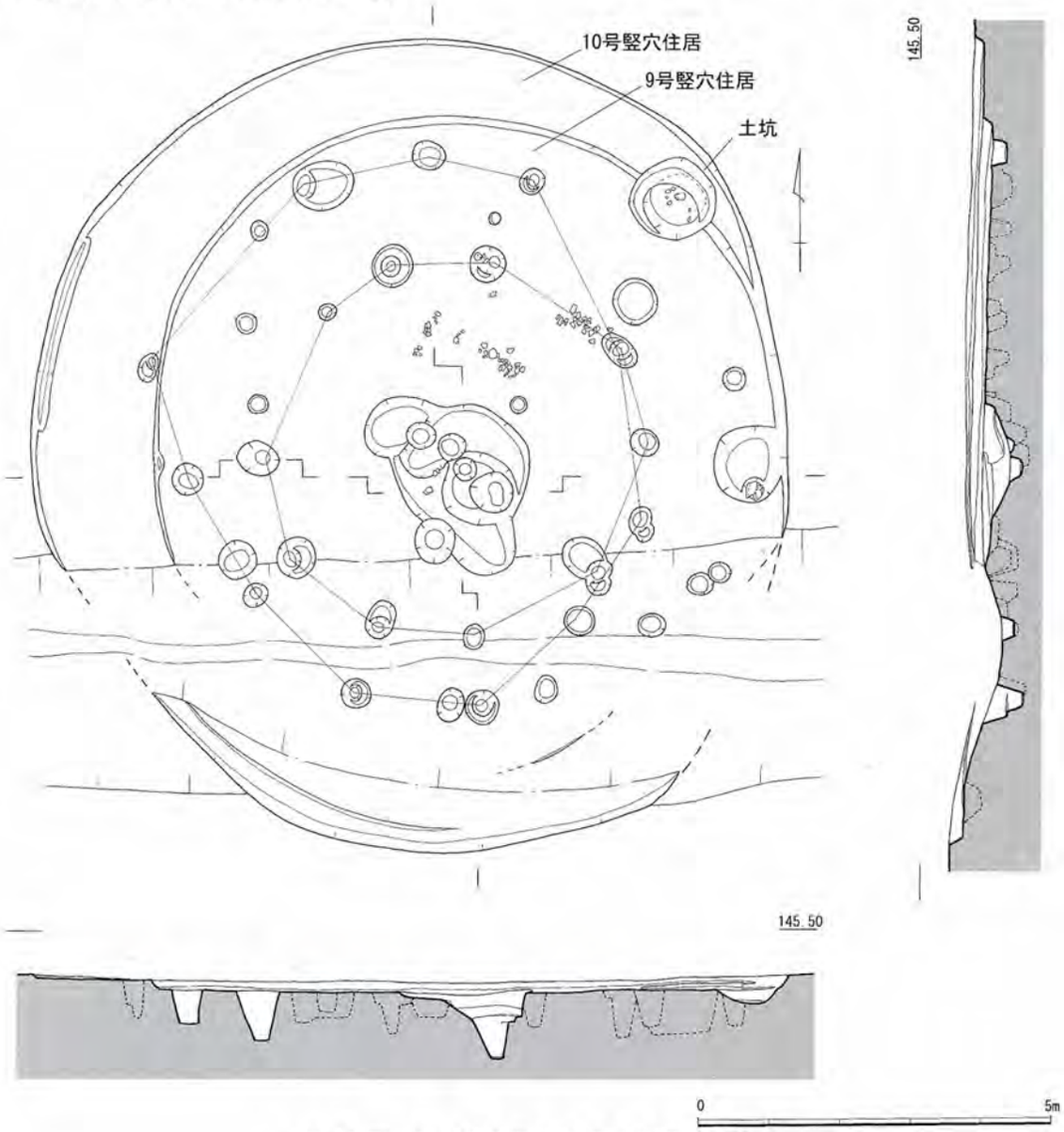
第 10 図　6 ～ 8 号竪穴住居実測図（1/80）

9・10号竪穴住居（第11・12図、写真図版3）

調査区南東側で検出された2軒が切り合う平面円形プランの住居である。住居南側は畑の境界溝で削平を受けている。当初は1軒と想定して掘り進めていたが、調査の途中で切り合いのあることが確認された。切り合いは、先に小型の9号がつくられ、それを埋めて住居を拡張するように10号がつくられている。住居のほぼ中央には炉跡と考えられる焼土や炭がまとまって出土した深い掘り込みがあり、その周囲を主柱穴と考えられるピット群が取り巻く形で配置されている。また、住居東側壁面沿いには、住居に伴うと考えられる直径1m程度の土坑が確認された。これらの住居内からは遺物がまとまって出土している。



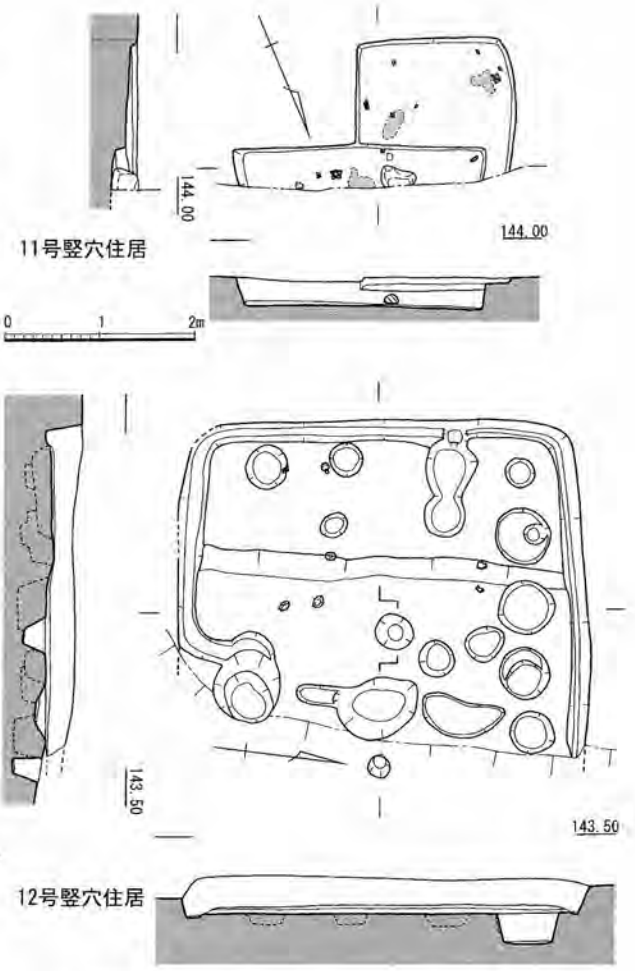
第11図　9・10号竪穴住居内土坑実測図（1/50）



第12図　9・10号竪穴住居実測図（1/100）

11 号竪穴住居（第 13 図、写真図版 4・16）

調査区北端で検出された住居で、大部分が調査区外へ続く。確認面では「L」字状にベッド状遺構が付設されていたのではないかと推測していたが、掘り下げた状況から張出部であった可能性が高い。2 軒の住居が切り合うケースも想定されたが、埋土の状況は住居南側の張出部から住居本体に至るまで炭や焼土が面的に広がりを見せており、1 軒の住居として取り扱うことにした。この住居は全体的に調査範囲が狭いため、炉跡や柱穴等については不明である。



第 13 図　11・12 号竪穴住居実測図（1/80）

12 号竪穴住居（第 13 図、写真図版 4）

調査区北東側で検出された平面長方形プランを呈すると考えられる住居である。住居東側は畑の境界溝により削平を受けていた。住居のほぼ中央には炉跡、その両側には 2 本の主柱穴が検出された。また、住居の西側にはベッド状遺構が付設され、住居の壁面沿いには周溝が巡らされていた。この住居には 3 号竪穴住居や 4・5 号竪穴住居で見られたように、壁面沿いにピットが並んで検出されており、住居に伴う何らかの施設であった可能性がある。この住居内からは土器片などが出土している。

13 号竪穴住居（第 14 図、写真図版 4・5）

調査区北側で検出された平面長方形プランを呈する住居である。住居の周囲には壁面に沿って周溝が巡らされ、住居のほぼ中央には炉跡、その両側には 2 本の主柱穴が確認された。また、住居南東と南西コーナー付近にはベッド状遺構が付設されており、さらにこのベッド状遺構など住居の壁面付近にはこの住居に伴うと考えられるピットが検出された。床面上では炭化材や焼土が広い範囲にわたって検出されており、焼失住居の可能性が考えられる。この住居内からは遺物がまとまって出土した。

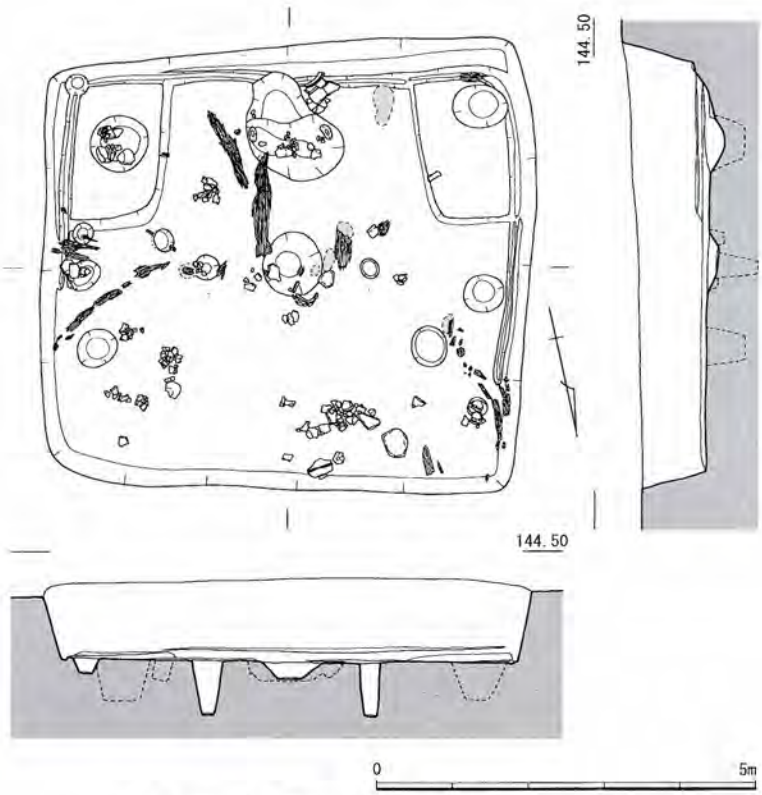
14 号竪穴住居（第 15 図、写真図版 4・5）

13 号竪穴住居のすぐ南側で検出された平面長方形プランを呈する住居である。住居の周囲には壁面に沿って周溝が巡らされ、住居のほぼ中央付近には 2 本の主柱穴が確認されたが、本来存在していたと考えられる炉跡は確認できなかった。また南側壁面ほぼ中央付近には土坑が付設されてい

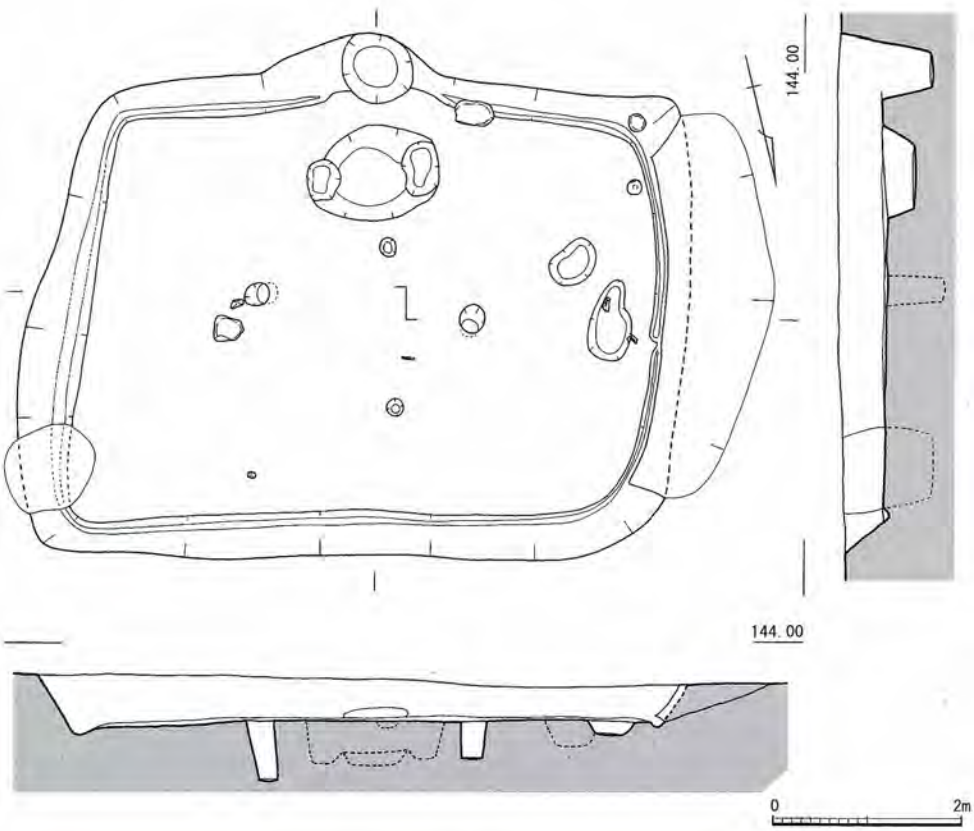
たが、この土坑の両側には小さなピットが検出された。この住居内からは土器片や砥石などが出土している。

15 号竪穴住居（第 16 図、写真図版 5）

調査区南側で検出された平面長方形プランを呈する住居で、西側には張出部が付設されている。住居南東コーナー付近は撹乱を受けていた。住居のほぼ中央には炉跡、その両側には 2 本の主柱穴が確認された。また、南側壁面中央には住居に伴う土坑が確認され、その両側には小さなピットが検出された。この他、他の住居と同様に張出部付近にはこの住居に伴うと考えられる遺物を含んだピットが検出された。住居内からは炉跡周辺で焼けた炭化材や土器片がまとまって出土した。



第 14 図　13 号竪穴住居実測図（1/100）

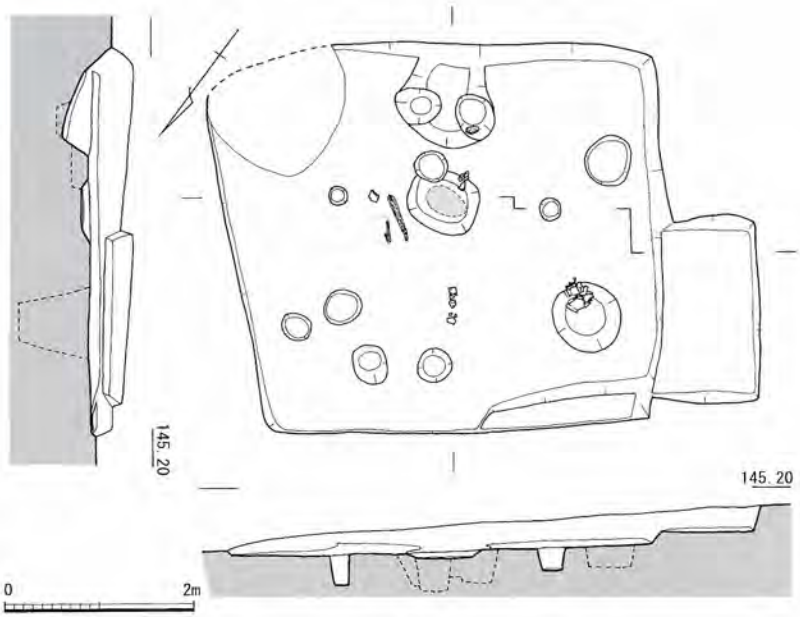


第 15 図　14 号竪穴住居実測図（1/80）

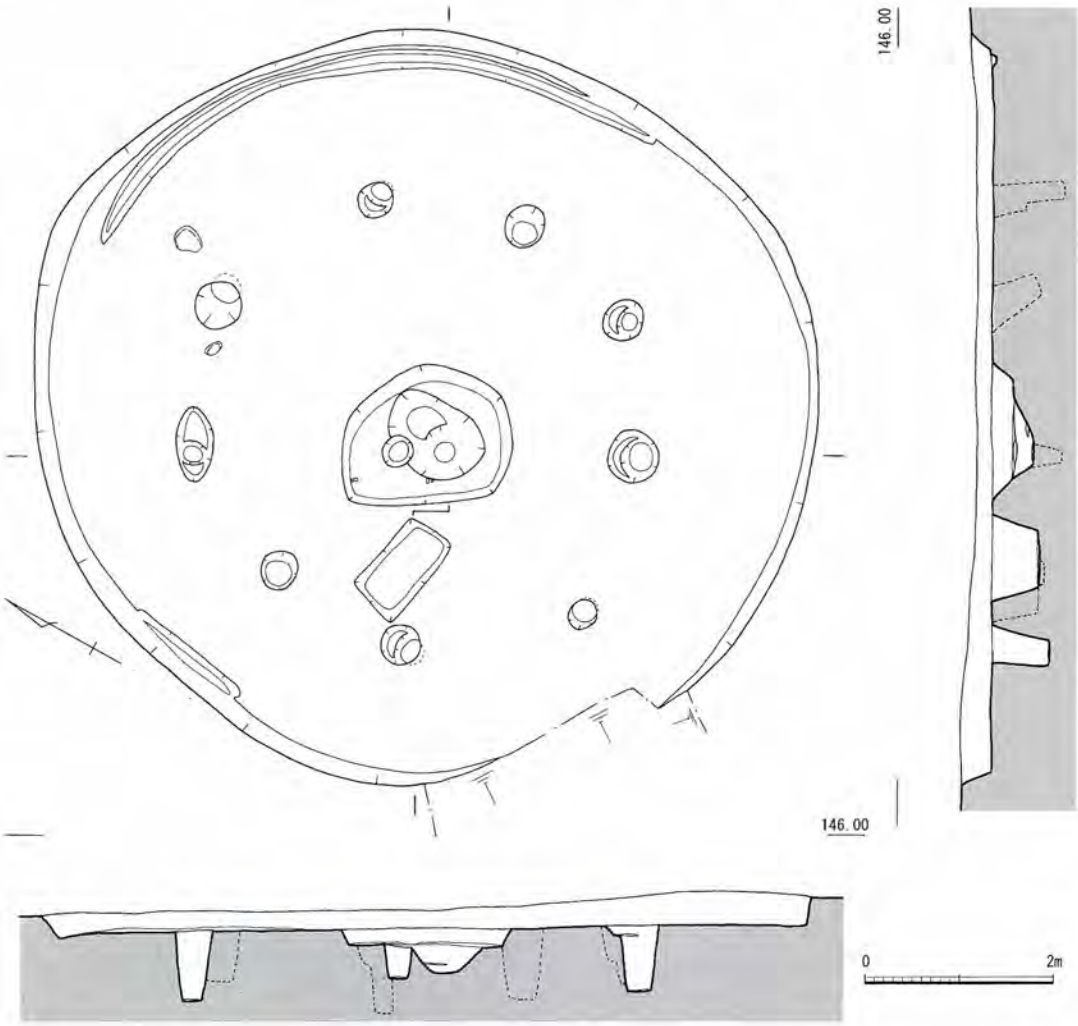
16 号竪穴住居

（第 17 図、写真図版 6）

調査区南側で検出された平面円形プランを呈する住居である。住居のほぼ中央には炉跡と考えられる焼土や炭がまとまって出土した掘り込みがあり、その周囲を円形に取り巻くように計 9 個の主柱穴が配置されている。壁面沿いには部分的に周溝も確認された。この住居内からは、土器片などが出土している。



第 16 図　15 号竪穴住居実測図（1/80）



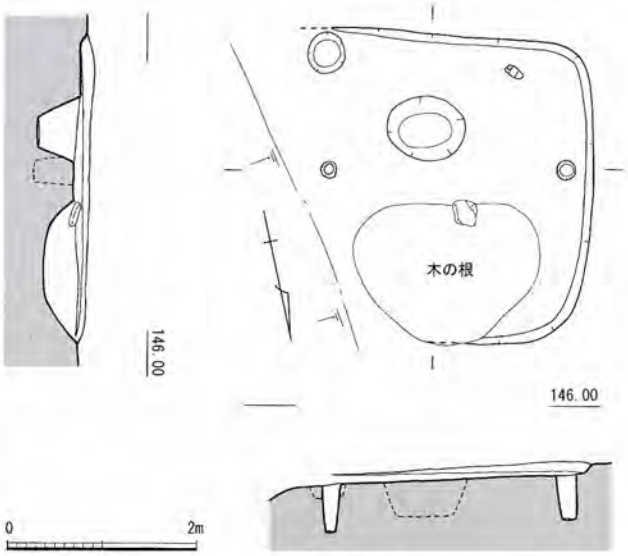
第 17 図　16 号竪穴住居実測図（1/80）

17 号竪穴住居（第 18 図、写真図版 5）

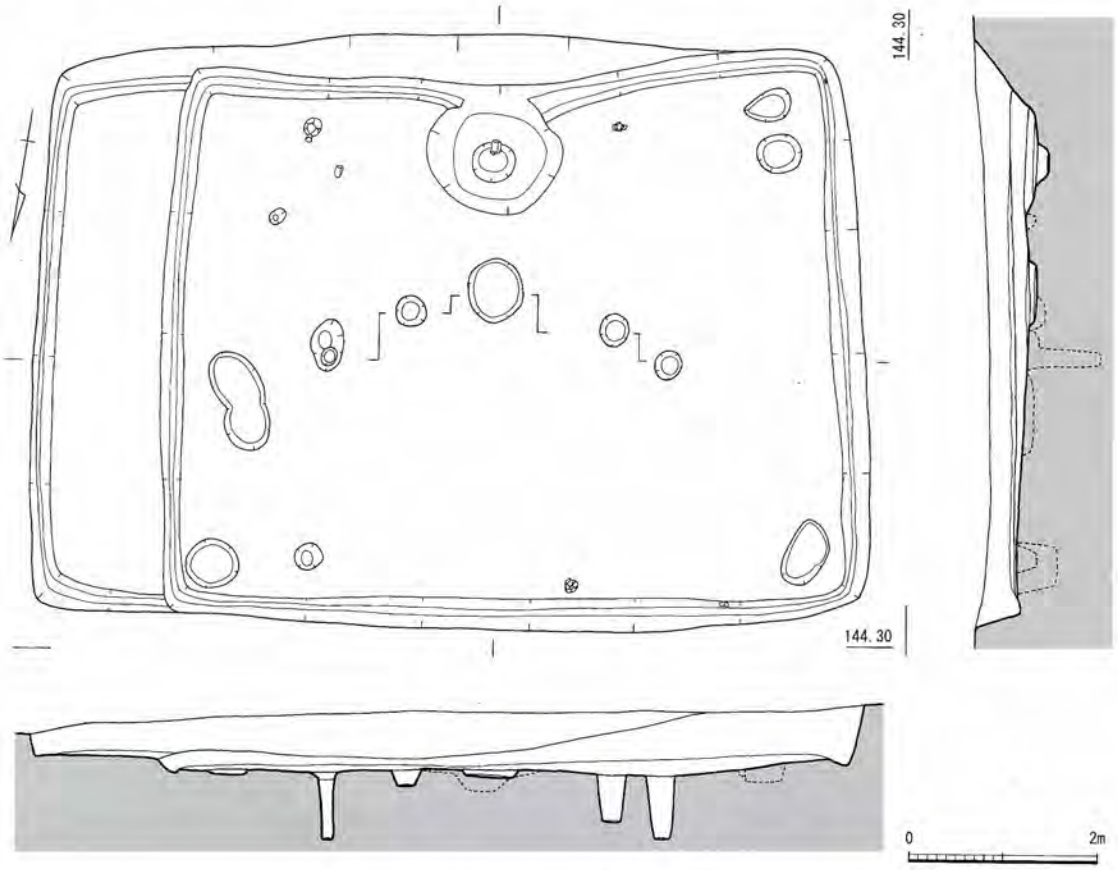
調査区南側で検出された平面方形プランの小型の住居である。遺構の東側は畑の境界溝によって削平を受け、また住居西側も木根により撹乱を受けている。住居の中央よりやや南側には炉跡と推測される浅い掘り込みが検出され、その両側にやや離れて主柱穴と見られるピットが 2 つ確認された。この住居内からは遺物が少量ながら出土している。

18 号竪穴住居（第 19 図、写真図版 6・7）

調査区北側で検出された平面長方形プランの住居で、20 号住居を切っている。住居の中央には炉跡、またその両側には 2 本ずつ配置された主柱穴、その南側には屋内土坑が確認された。また住居の東側にはベッド状遺構が付設され、壁面沿いには周溝を巡らせている。この住居からは土器や石器などが出土している。



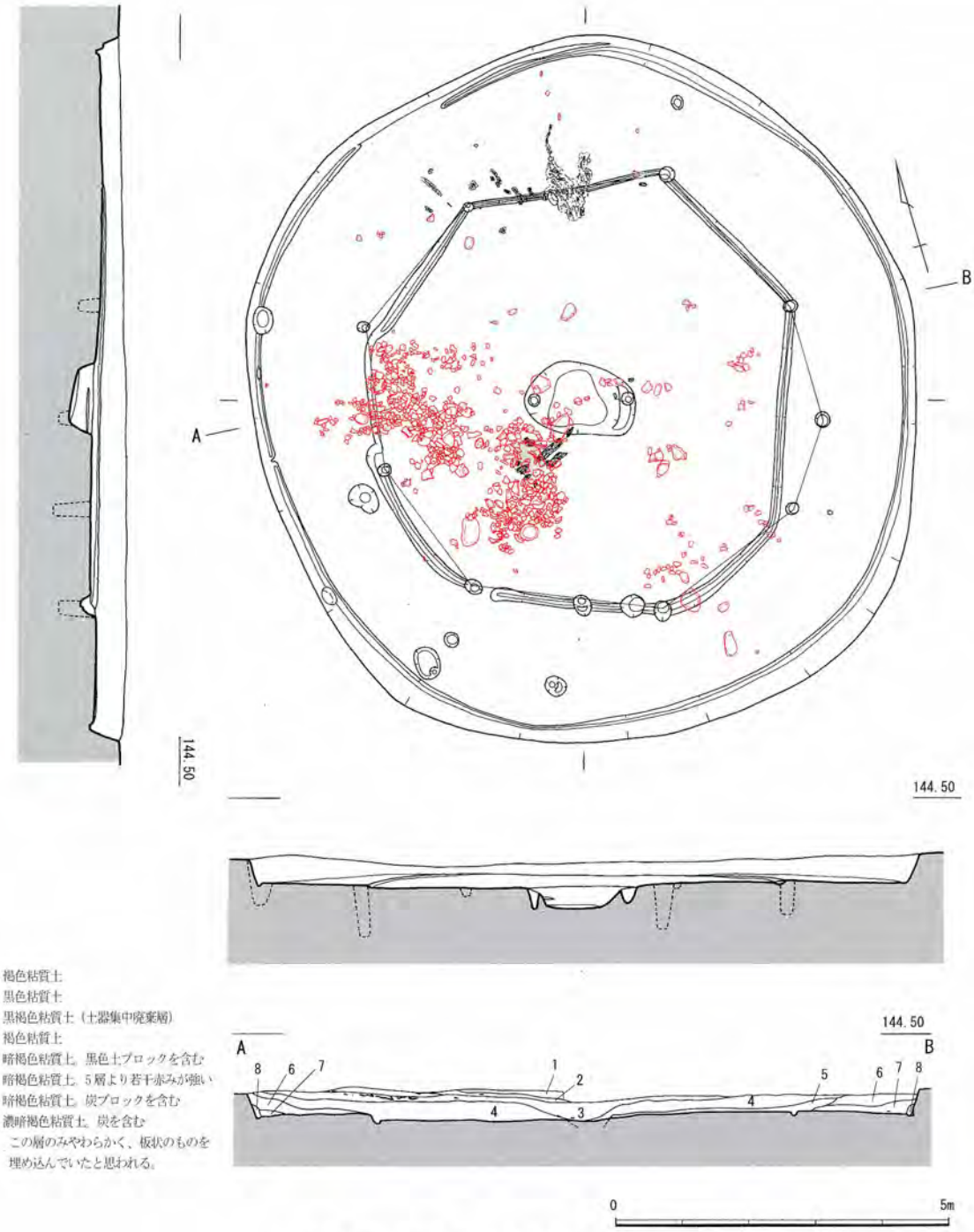
第 18 図　17 号竪穴住居実測図（1/80）



第 19 図　18 号竪穴住居実測図（1/80）

19 号竪穴住居（第 20 図、写真図版 6 ～ 8）

調査区北側で検出された平面円形プランを呈する住居である。住居のほぼ中央には炉跡と考えられる焼土や炭がまとまって出土した掘り込みがあり、その両端には小さいピットが検出された。この炉跡を円形に取り巻くように計 10 個の主柱穴が配置されている。この主柱穴を結ぶように溝が巡らされ、その外側はベッド状遺構のように一段高くつくられている。また壁面沿いにも周溝が巡らされている。住居床面には炭化材等も確認され焼失住居の可能性がある。さらに、この住居の埋土上層からは、住居西側で大量に遺物が出土している。

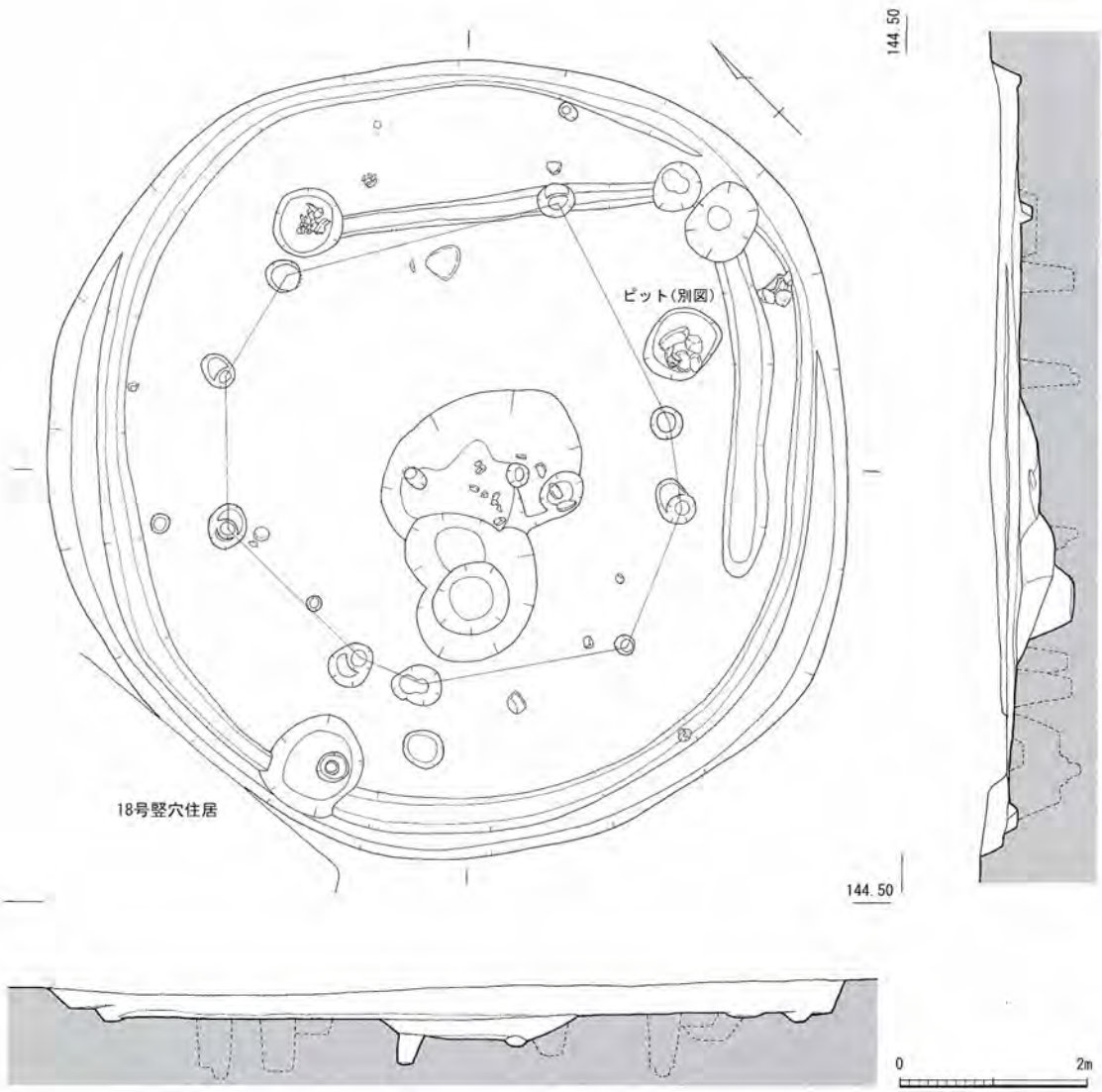


1：褐色粘質土
2：黒色粘質土
3：黒褐色粘質土（土器集中廃棄層）
4：褐色粘質土
5：暗褐色粘質土、黒色土ブロックを含む
6：暗褐色粘質土、5 層より若干赤みが強い
7：暗褐色粘質土、炭ブロックを含む
8：濃暗褐色粘質土、炭を含む
この層のみやわらかく、板状のものを埋め込んでいたと思われる。

第 20 図　19 号竪穴住居実測図（1/100）

20 号竪穴住居（第 21・22 図、写真図版 6・8・9）

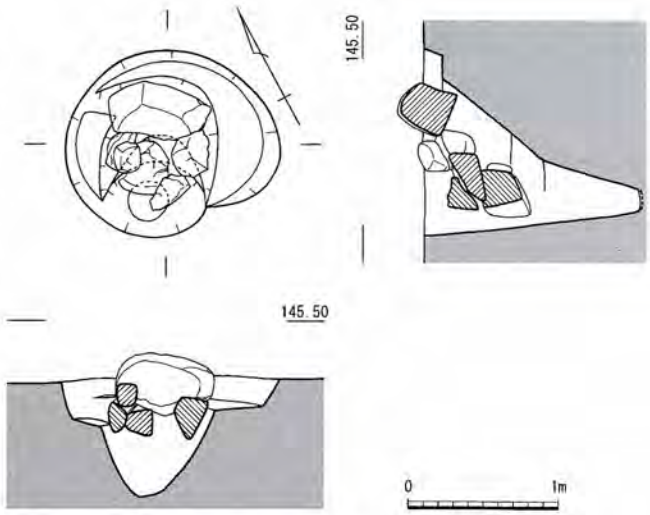
調査区北側で検出された平面円形プランを呈する住居で、西側の一部を 18 号竪穴住居に切られている。住居のほぼ中央には炉跡と考えられる焼土や炭がまとまって出土した掘り込みがあり、その両端には小さいピットが検出された。この炉跡を円形に取り巻くように計 9 個の主柱穴が配置されている。また、この住居内にはこれに伴うと考えられる遺物を含んだピットが数箇所認められ、それを直線的に結ぶような溝が見られたほか、壁面沿いにも周溝が巡らされている。この住居内からはまとまって遺物が出土している。



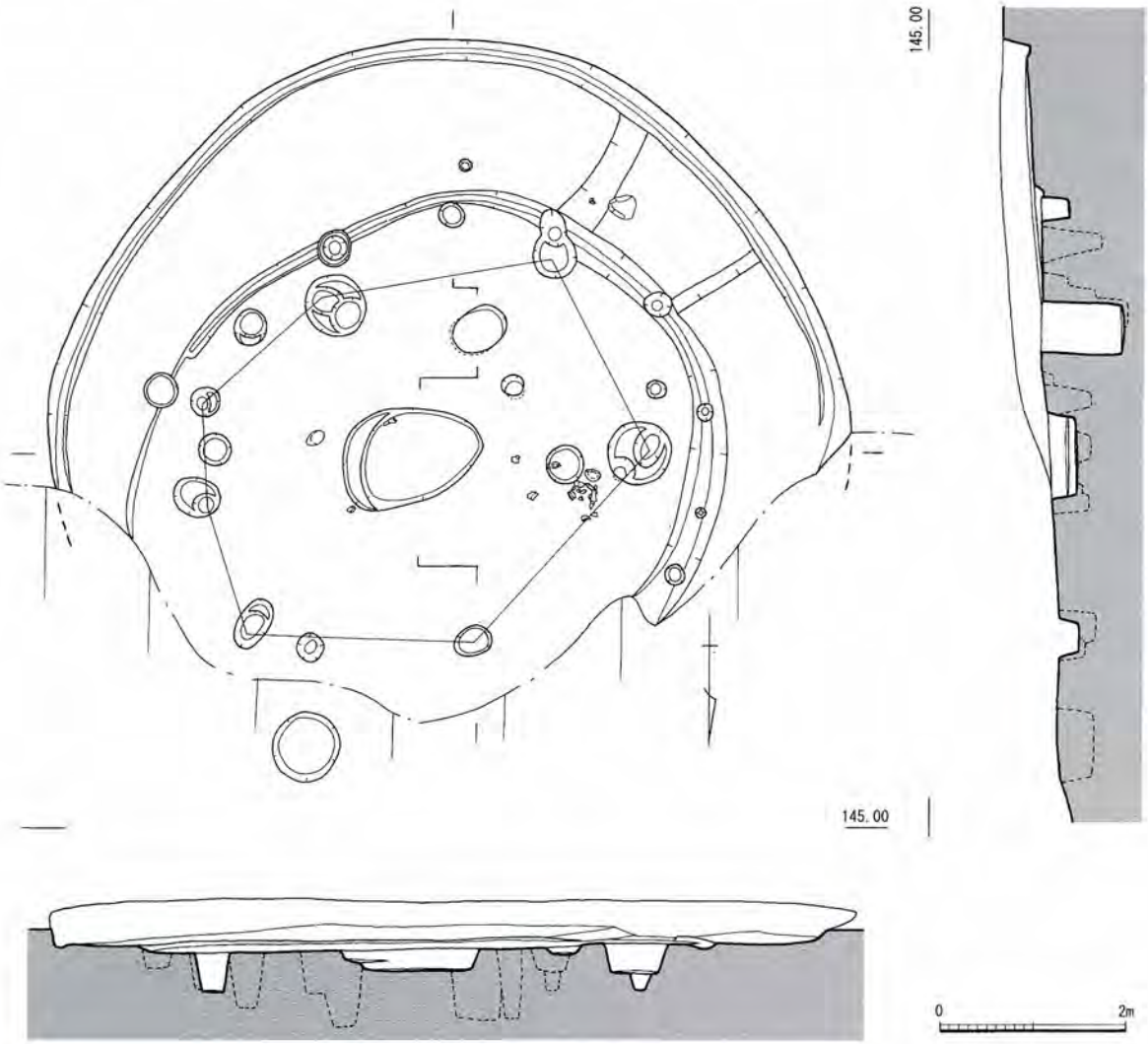
第 21 図　20 号竪穴住居実測図（1/80）

21 号竪穴住居（第 23 図、写真図版 9・10）

調査区ほぼ中央で検出された平面円形プランを呈する住居で、北側は畑の境界溝により削平を受けている。住居のほぼ中央には炉跡と考えられる焼土や炭がまとまって出土した掘り込みがあり、この炉跡を円形に取り巻くように計 7 個の主柱穴が配置されている。また、その外側には溝が円形に巡り、この中にも柱穴が 1 m間隔で配置されていた。この溝より外側は 19 号竪穴住居と同様にベッド状遺構のように一段高くなっており、そのさらに外側の壁面沿いにも周溝が巡らされていた。この住居内からは土器片や砥石などが出土している。



第 22 図　20 号竪穴住居内ピット実測図（1/50）



第 23 図　21 号竪穴住居実測図（1/80）

22 号竪穴住居

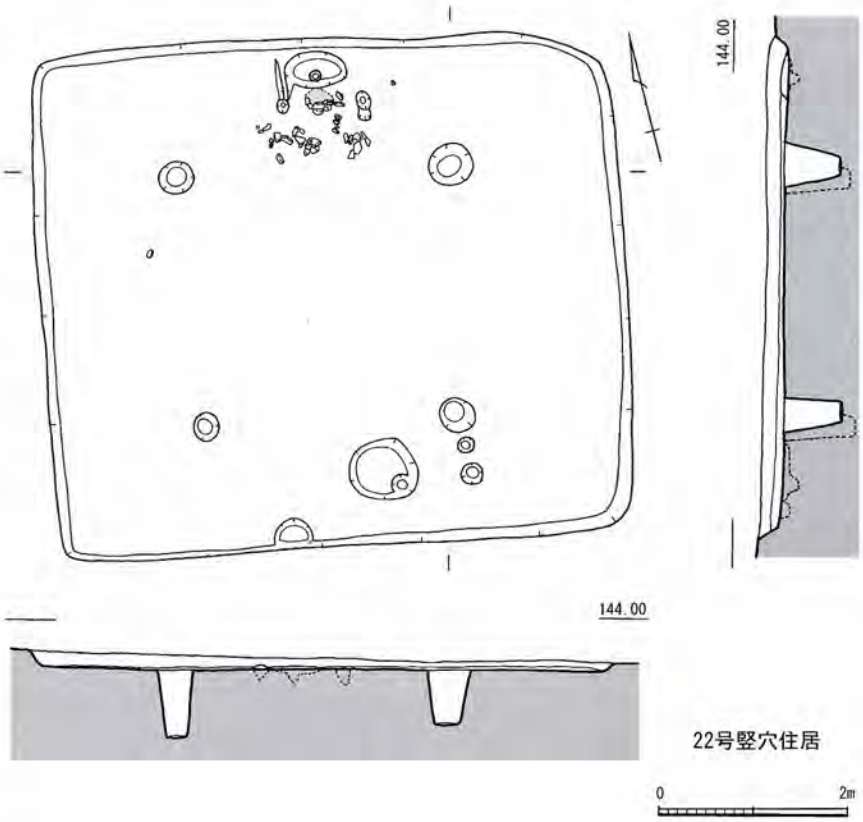
（第 24 図、写真図版 9・10）

調査区西側で検出された平面方形プランの住居である。丘陵上に存在するカマドを持つ竪穴住居はこれ一軒のみであり、特別な意図を持った住居と考えられる。この住居の北側壁面中央にカマドが付設されており、主柱穴も 4 本検出された。この住居からは、土器片などが出土している。

22 号竪穴住居跡カマド

（第 24 図、写真図版 9）

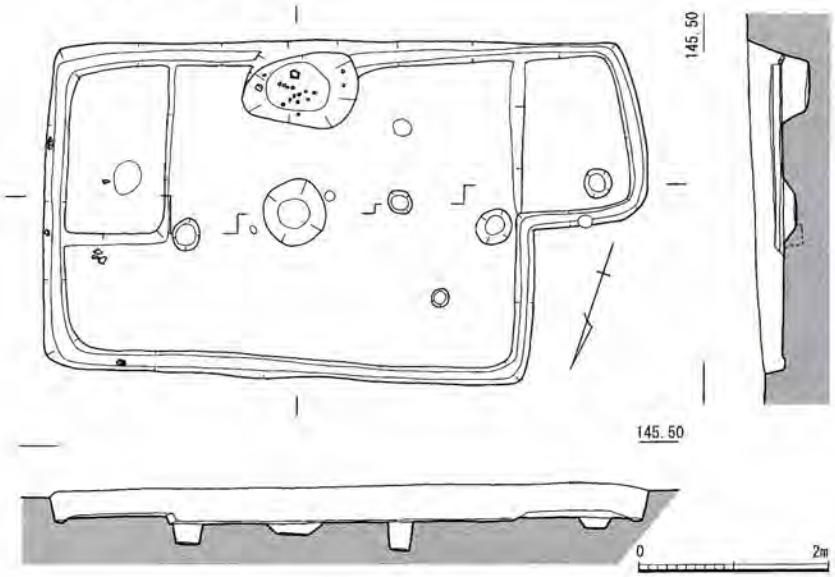
カマドは、左袖の粘土部分が残っているほかは、袖石はすべて抜きとられており、掘り方のみが確認された。またカマド内には支脚が存在したと見られる抜き取り痕が確認された。両袖間に焚口があり、焼成を受け硬く赤褐色に変色していた。この支脚痕跡の周辺は焚口付近よりも浅く掘りくぼめられている。カマド周辺には袖石に使用されたと考えられる凝灰岩の板石が割られた状態で散在していることから、廃棄時にはすでに壊されていたと考えられる。



第 24 図　22 号竪穴住居・カマド実測図（1/80・1/30）

23 号竪穴住居（第 25 図、写真図版 10・11）

調査区南西側で検出された平面長方形プランの住居で、西側には張出部が付設されている。住居の中央には炉跡、またその両側には 2 本の主柱穴、南側には屋内土坑が確認された。また住居の東側にはベッド状遺構が付設され、壁面沿いには周溝を巡らせている。この遺構の屋内土坑からは、5 号竪穴住居で見られたような、小さな川原石がまとまって出土したほか、住居内からは土器片などが出土している。

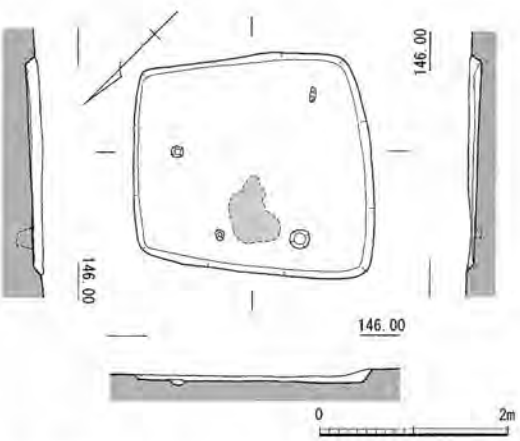


第 25 図　23 号竪穴住居実測図（1/80）

写真 6　23 号竪穴住居内土坑
遺物出土状況

24 号竪穴住居（第 26 図、写真図版 10・11）

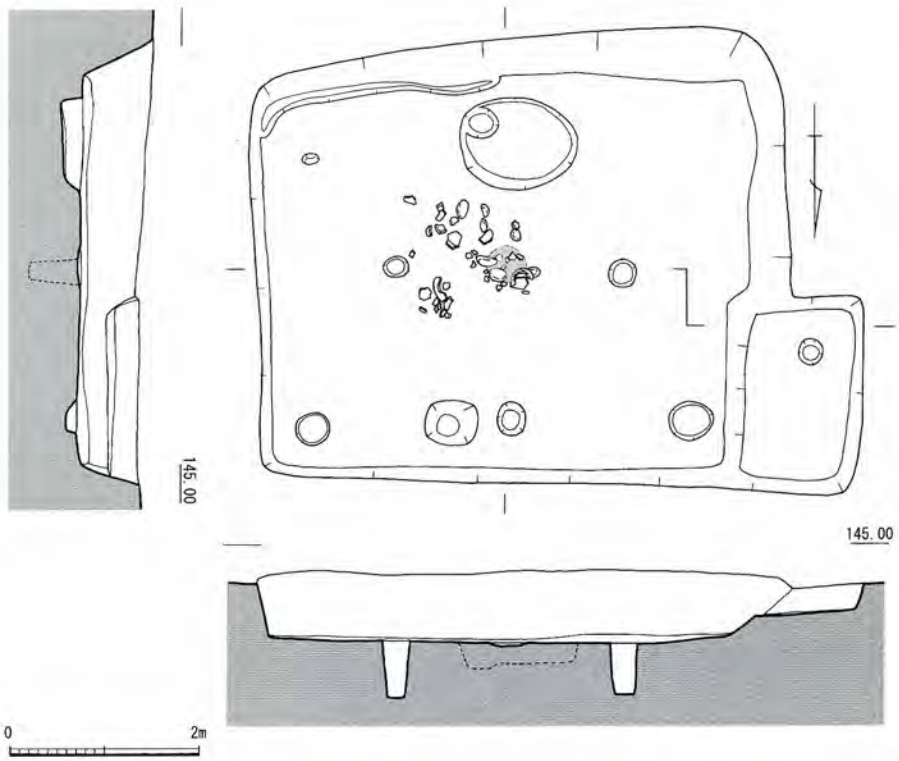
調査区南西側で検出された平面方形プランの小型の住居である。住居の中央よりやや西側には焼土がまとまって検出され、掘り込みはないものの炉が存在したと推測されるが、この住居に伴うと見られる主柱穴は確認できなかった。この住居内からは遺物が少量ながら出土している。



第 26 図　24 号竪穴住居実測図（1/80）

25 号竪穴住居（第 27 図、写真図版 10 ～ 12）

調査区南西側で検出された平面長方形プランの住居で、西側には張出部が付設されている。住居の中央に炉跡と推測される焼土面が見られ、またその両側には 2 本の主柱穴、南側には屋内土坑が確認された。この住居内からは土器や石器などが出土している。

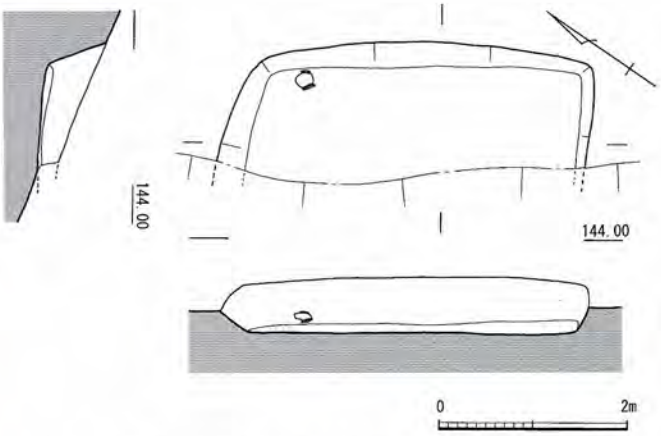


第 27 図　25 号竪穴住居実測図（1/80）

26 号竪穴住居（第 28 図、写真図版 12）

調査区南側斜面で検出された平面不定形プランの住居である。斜面に営まれているため主柱穴等の存在は不明である。この住居内からは遺物が少量ながら出土している。

写真 7　26 号竪穴住居遺物出土状況



第 28 図　26 号竪穴住居実測図（1/80）

2）掘立柱建物

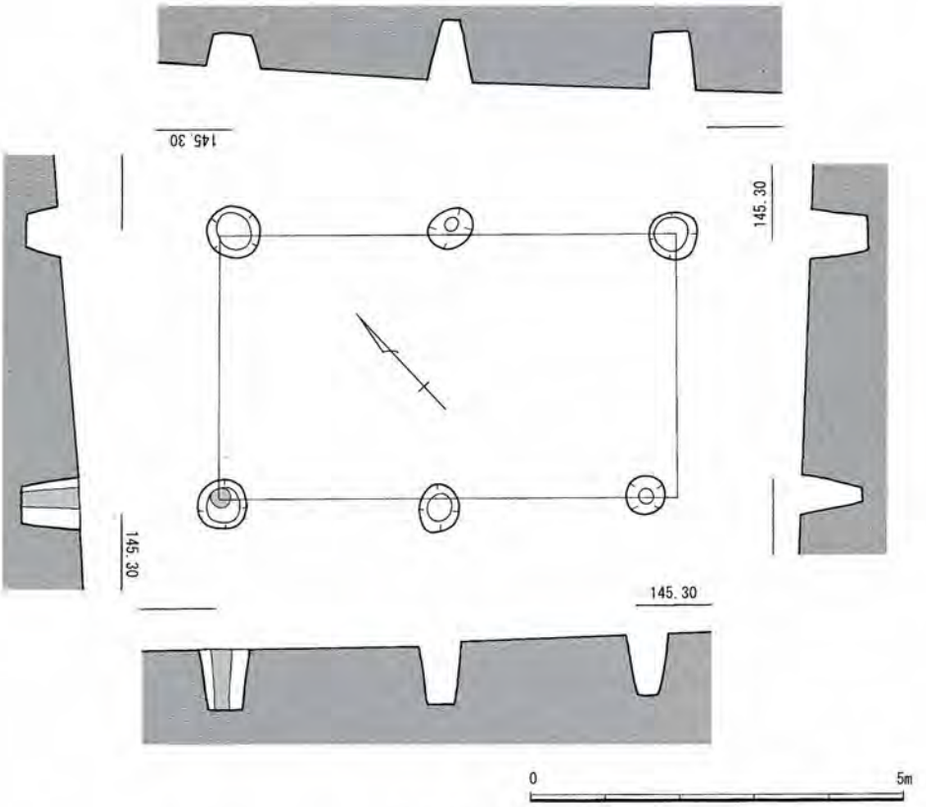
建物は全部で8棟確認されたが、その多く（1～5号）は竪穴住居に囲まれた広場的な空間地に建てられていた。内訳は1間×2間の高床式倉庫とみられる建物3棟、3間×6間及び3間×7間の延床面積が50㎡を越える大型建物が2棟である。この他竪穴住居群の西側でも2棟が離れて確認されている。以下それぞれの建物ごとに説明を加える。

1号掘立柱建物（第29図、写真図版12・14）

調査区南側で確認された1間（約3.5ｍ）×2間（約6.0ｍ）の建物である。建物延床面積は約21㎡で、建物の軸方位はN－43°－Eである。検出面での柱穴掘り方の規模は50～70㎝、深さは45～85㎝を測る。

2号掘立柱建物（第30図、写真図版12・13）

調査区中央で確認された1間（約3.3ｍ）×2間（約5.4ｍ）の建物である。建物延床面積は約18㎡で、建物の軸方位はN－11°－Eである。検出面での柱穴掘り方の規模は50～90㎝、深さは60～80cmを測る。



第29図　1号掘立柱建物実測図（1/100）

3号掘立柱建物

（第30図、写真図版12・13）

調査区中央で確認された1間（約3.6m）×2間（約5.3m）の建物である。建物延床面積は約19㎡で、建物の軸方位はN－11°－Wである。検出面での柱穴掘り方の規模は70～90㎝、深さは60～80㎝を測る。5号掘立柱建物に切られている。

4号掘立柱建物

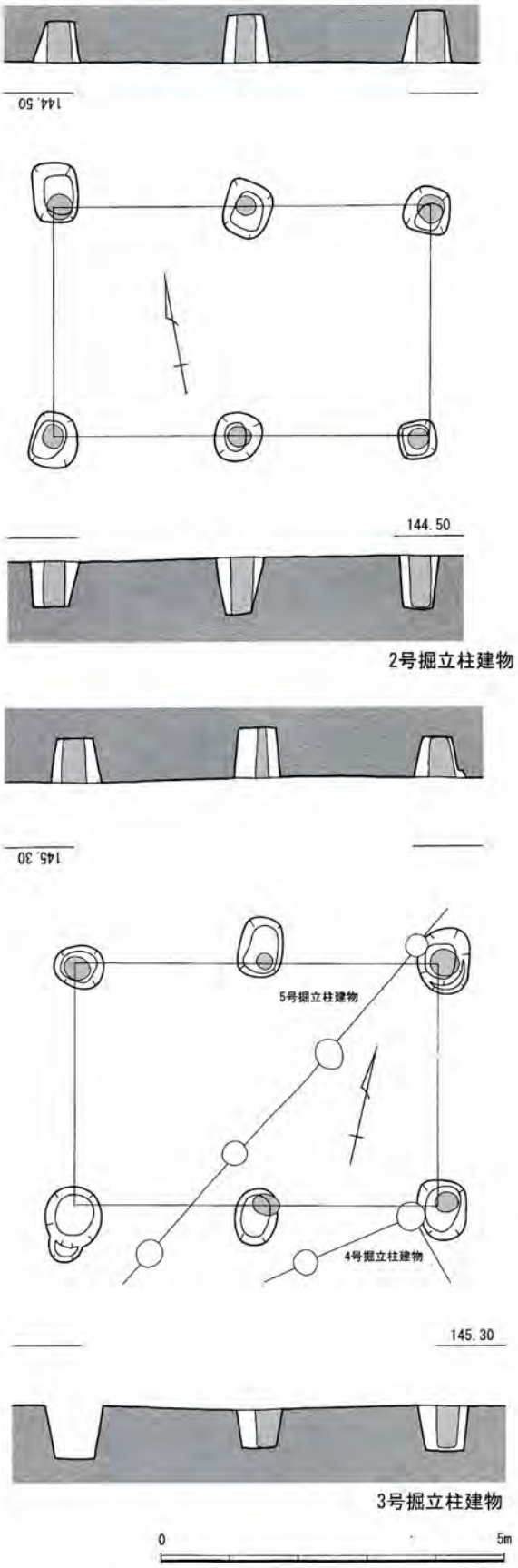
（第31図、写真図版12・14）

調査区中央で確認された3間（約5.0m）×6間（約14.0m）の建物で、柱間平均は梁間方向で約1.7m、桁行方向で約2.3mを測る。建物延床面積は約70㎡で、建物の軸方位はN－50°－Eである。この建物の内側には建物に付随する3個の柱穴が建物の桁行方向に沿って並んで検出された。建物検出面での柱穴掘り方の規模は30～70㎝、深さは40～130㎝を測る。

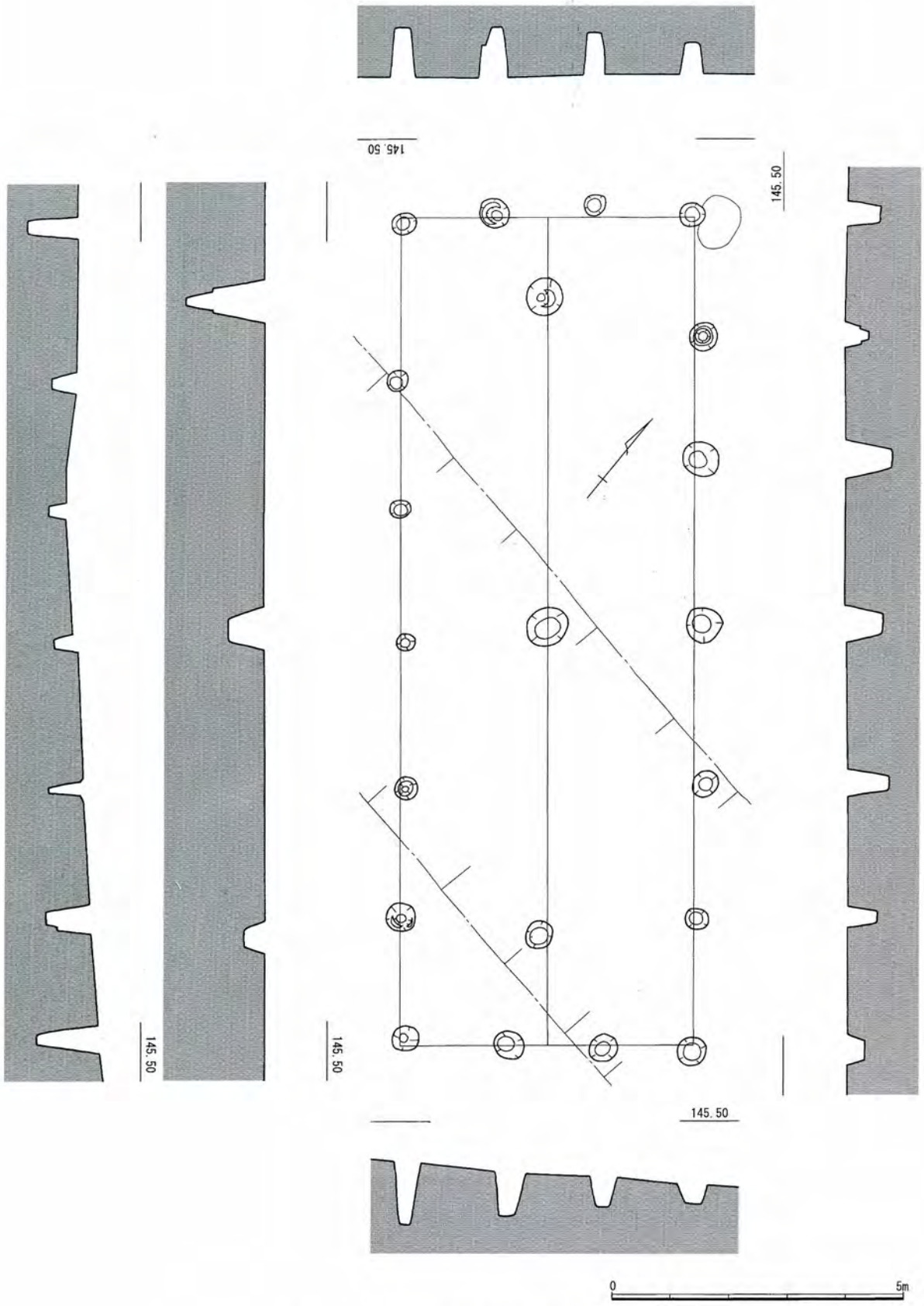
5号掘立柱建物

（第32図、写真図版12・13）

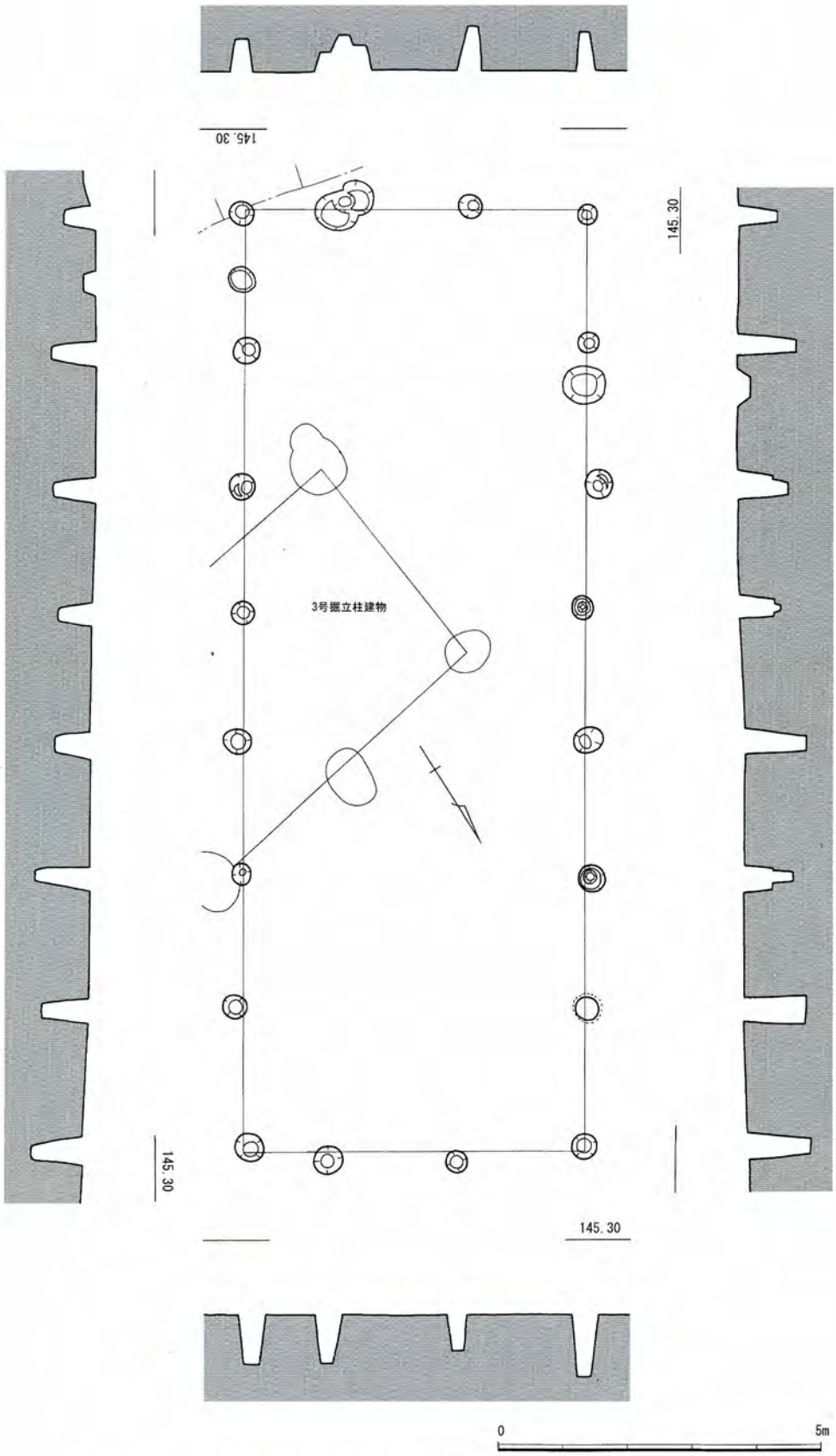
調査区中央で確認された3間（約5.2m）×7間（約14.4m）の建物で、柱間平均は梁間方向で約1.7m、桁行方向で約2.1mを測る。建物延床面積は約75㎡で、建物の軸方位はN－61°－Wである。建物検出面での柱穴掘り方の規模は35～45㎝、深さは50～100㎝を測る。3号掘立柱建物を切る。



第30図　2・3号掘立柱建物実測図（1/100）



第 31 図　4 号掘立柱建物実測図（1/100）

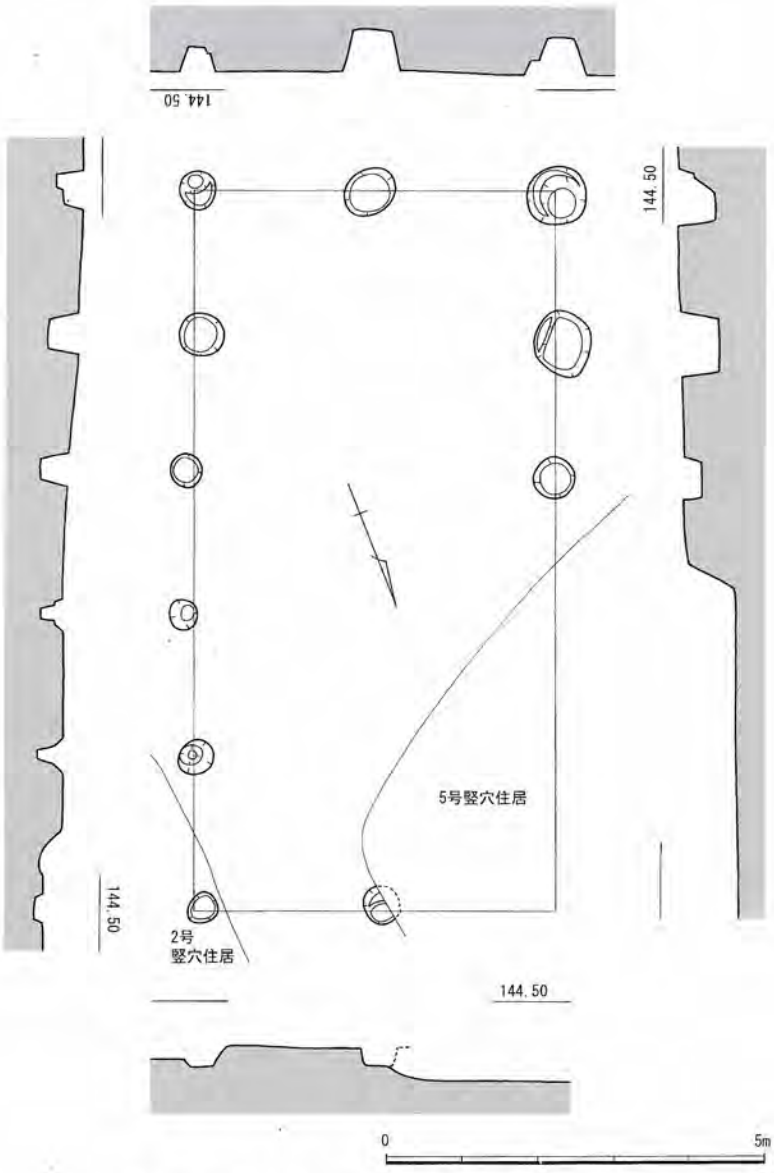


第 32 図　5 号掘立柱建物実測図（1/100）

6号掘立柱建物

（第33図、写真図版14）

調査区東側で確認された2間（約4.8ｍ）×5間（約9.5ｍ）の建物で、柱間平均は梁間方向で約2.4ｍ、桁行方向で約1.9ｍを測る。建物延床面積は約46㎡で、建物の軸方位はＮ－69°－Ｗである。建物検出面での柱穴掘り方の規模は40～90㎝、深さは30～50㎝を測る。5号竪穴住居に切られる。



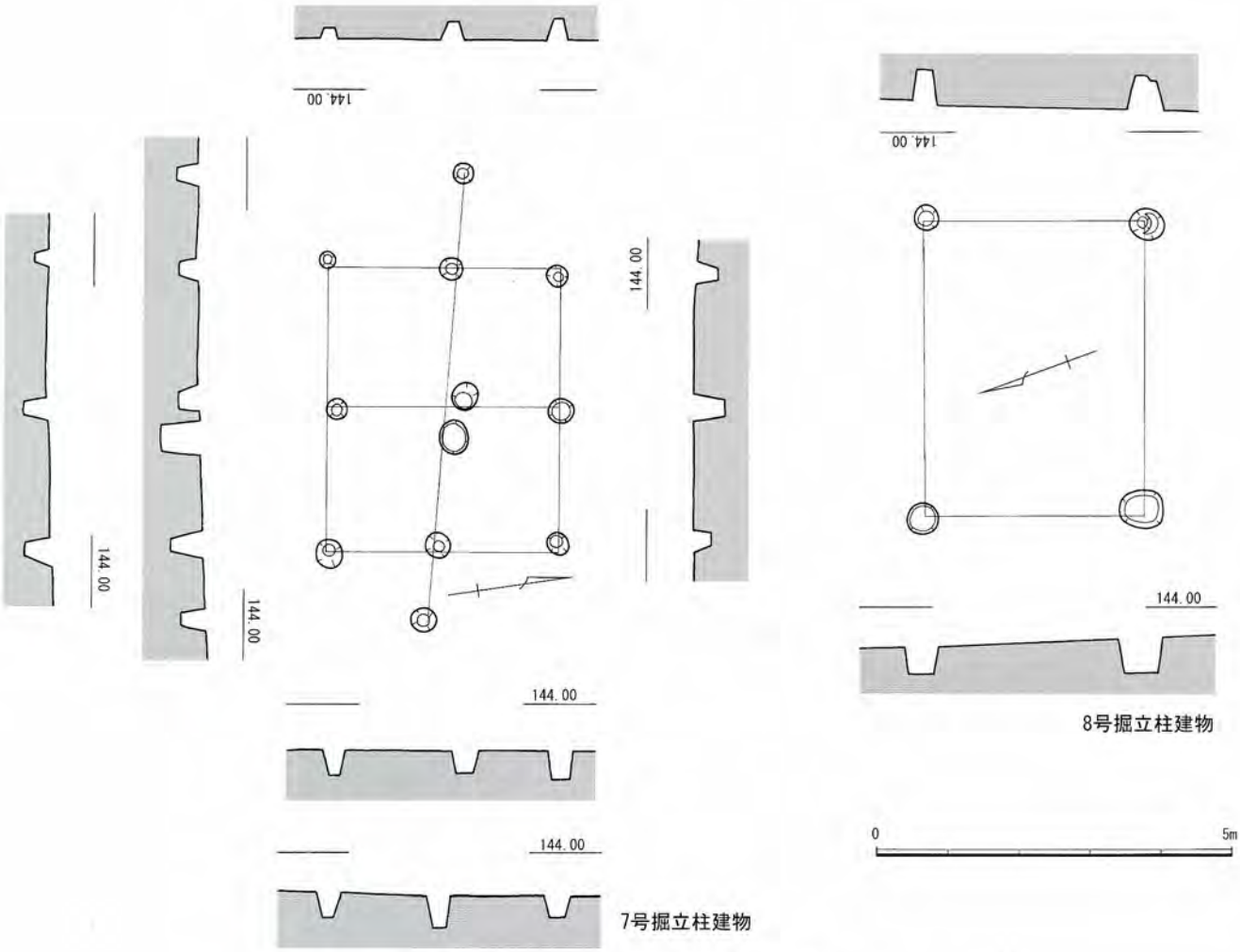
第33図　6号掘立柱建物実測図（1/100）

7号掘立柱建物（第34図、写真図版15）

調査区西側で確認された2間（約3.3ｍ）×2間（約4.0ｍ）の総柱建物で、建物両側に棟持柱がつく。建物延床面積は約13㎡で、建物の軸方位はＮ－8°－Ｅである。建物検出面での柱穴掘り方の規模は25～50㎝、深さは15～55㎝を測る。

8号掘立柱建物（第34図、写真図版15）

7号掘立柱建物と並行するように調査区西側で確認された1間（約3.1ｍ）×1間（約4.1ｍ）の建物である。建物延床面積は約13㎡で、建物の軸方位はＮ－20°－Ｅである。建物検出面での柱穴掘り方の規模は35～60㎝、深さは40～50㎝を測る。

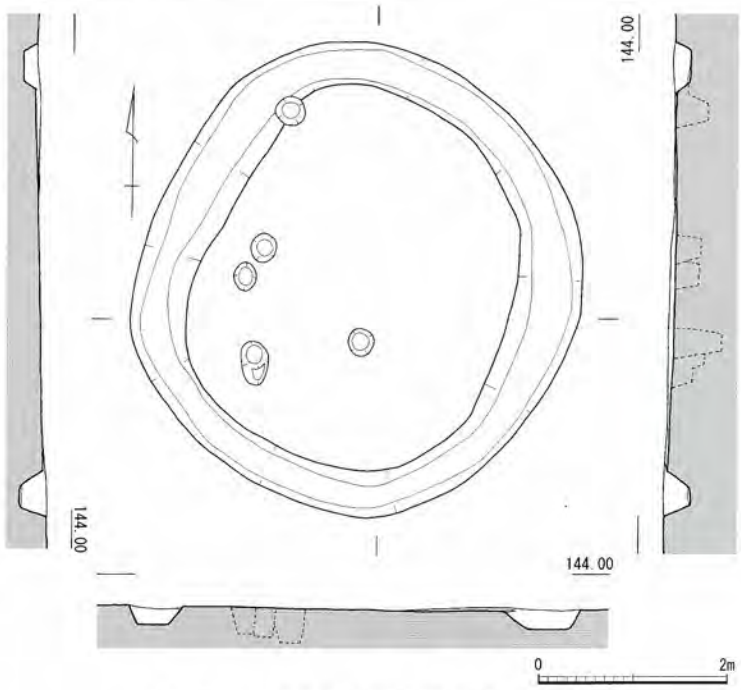


第 34 図　7・8 号掘立柱建物実測図（1/100）

3）円形周溝遺構

（第 35 図、写真図版 16）

本遺跡からは 1 基のみ調査区北東端で検出された。長軸約 5.0 m、短軸約 4.7 mを測り、溝の幅約 70 cm、深さ約 20cm を測る。中央部分にはいくつかのピットが確認されたが、遺構の性格から伴うものではないと判断される。また溝の内部からの出土遺物はなかった。



第 35 図　円形周溝遺構実測図（1/80）

4）甕棺墓

甕棺墓は調査区内で計5基が確認された。いずれも住居にほど近い位置につくられた小児用甕棺墓で、合口甕棺墓2基、石蓋甕棺墓1基、石蓋壺棺墓1基、壺棺墓1基の割合である。

1号甕棺墓（第36・37図、写真図版16・17）

調査区東側、5号竪穴住居のそばで検出された主軸を東西にとる石蓋甕棺墓である。墓壙検出面での掘り方の規模は、長軸約2.2m、短軸約1.5mを測る。墓壙は2段掘りを呈し、そこから斜め方向に甕棺を挿入する。甕棺の上蓋は1枚の安山岩の板石を使用していた。甕棺の埋置角度は約35°を測る。甕棺口縁部は端部をつまみあげる跳ね上げ状口縁を呈し、頸部下に断面三角形の2条の突帯を巡らせる。底部は平坦である。

2号甕棺墓（第36・37図、写真図版16・17）

調査区東側、1号甕棺墓と並んで検出された主軸を東西にとる壺棺墓である。墓壙検出面での掘り方の規模は、長軸約1.4m、短軸約1.1mを測る。墓壙は2段掘りを呈していた。壺棺はほとんど割れた状態で検出された。壺棺の口縁部は須玖式の特徴をもち、口唇部には計5個の円盤状粘土を貼付する。頸部に1条、胴部に2条の断面三角形の突帯を巡らせている。底部は平坦である。

3号甕棺墓（第36・37図、写真図版17）

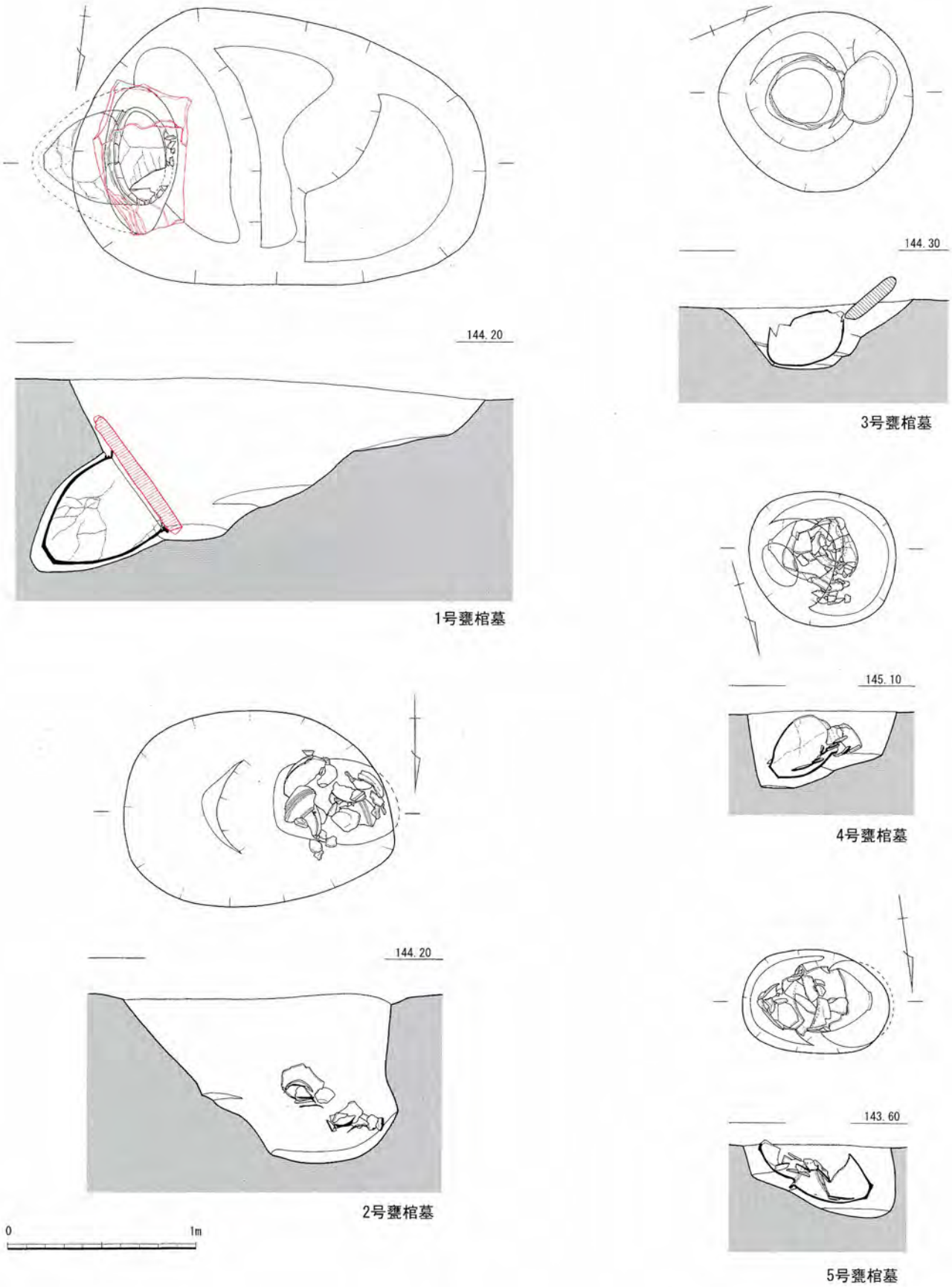
調査区中央、5号掘立柱建物のそばで検出された石蓋壺棺墓である。墓壙検出面での掘り方の規模は、長軸約1.0m、短軸約0.9mを測る。壺棺の上蓋は1枚の安山岩の扁平石を使用していたが、後世の開墾により蓋石本来の位置からずれている。壺棺の埋置角度は約40°を測る。壺棺の口縁部は須玖式の特徴をもち、口唇部には計2個の円盤状粘土を貼付する。頸部に3条、胴部中位に1条の断面三角形の突帯を巡らせる。底部はほぼ平坦であるが、ややレンズ底に近い感がある。

4号甕棺墓（第36・37図、写真図版17）

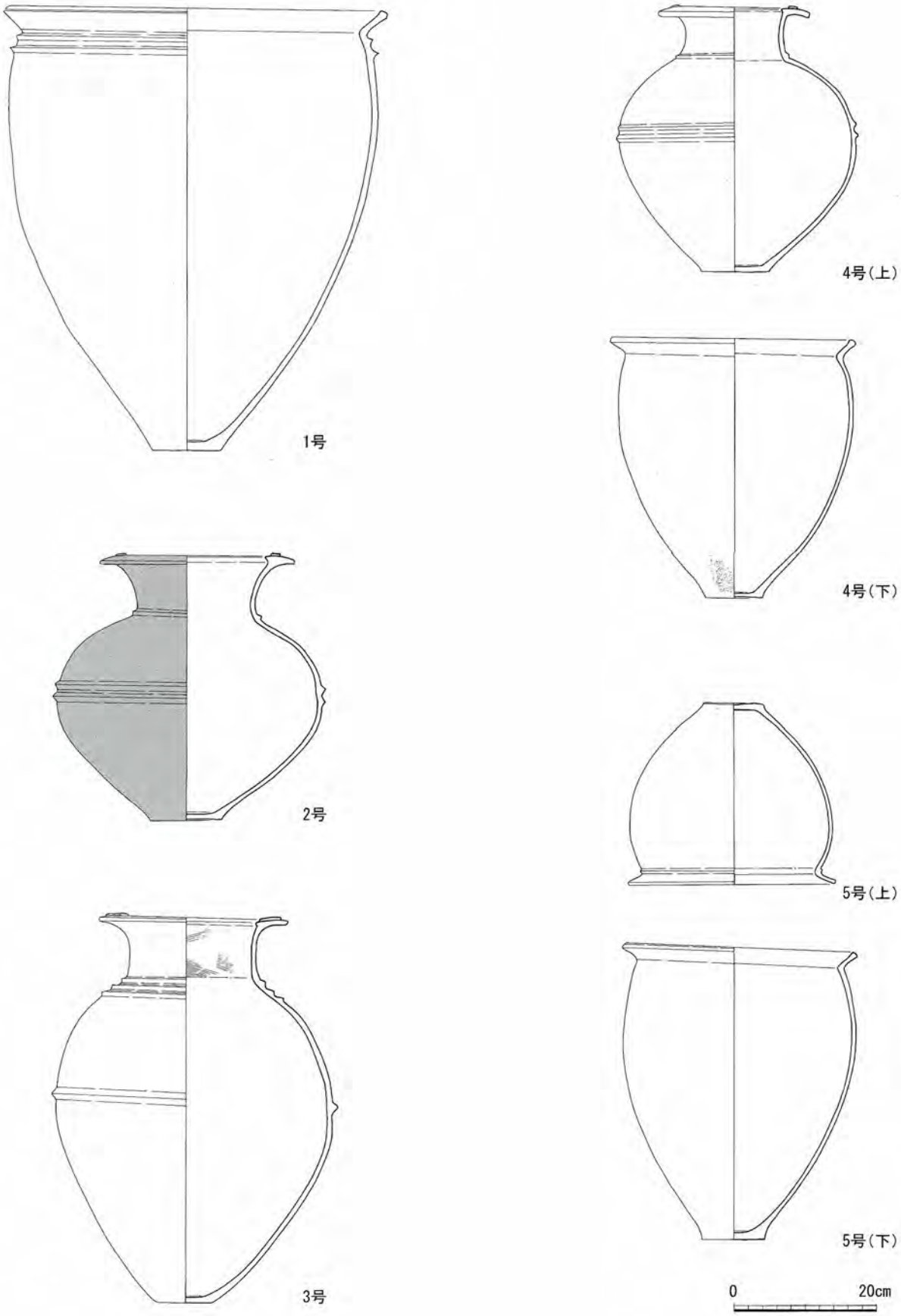
調査区南側、25号竪穴住居の近くで検出された合口甕棺墓である。墓壙検出面での掘り方の規模は、長軸約0.8m、短軸約0.7mを測る。墓壙は2段掘りを呈し、そこから斜め方向に甕棺を挿入する。甕棺の上蓋は壺を用いていたが、多くは下甕の中に流れ込んでいた。全体の1/2程度しかなく、割れた破片を利用して下甕の上に被覆していた可能性が高い。甕棺の埋置角度は約41°を測る。上甕の壺は須玖式口縁の特徴をもち、口唇部には計3個の円盤状粘土を貼付する。頸部に1条、胴部に2条の断面三角形の突帯を巡らせている。下甕は跳ね上げ状口縁を呈し、底部は平坦である。

5号甕棺墓（第36・37図、写真図版18）

調査区西側、7・8号掘立柱建物の近くで検出された合口甕棺墓である。墓壙検出面での掘り方の規模は、長軸約0.8m、短軸約0.5mを測る。墓壙は2段掘りを呈し、そこから斜め方向に甕棺を挿入する。甕棺の上蓋上半は後世の開墾により破壊されていた。甕棺の埋置角度は約25°を測る。上甕は鉢を用い、口縁部は跳ね上げ状口縁の特徴をもち、頸部に1条の突帯を巡らせる。底部は平坦である。下甕も上甕と同様の口縁部の特徴をもち、底部は平坦である。



第 36 図　1 ～ 5 号甕棺墓実測図（1/30）



第 37 図　甕棺実測図（1/8）

5）土坑

土坑は全部で11基検出された。なお、土坑番号は、調査時点で振り分けた番号で説明を加えることにするが、その後に甕棺墓に変わったものもあるため、番号と遺構数が一致していない（第6表参照）。以下説明を加えることにする。

3号土坑（第38図）

調査区東側で検出され、平面不定形プランを呈する。検出面での規模は、長軸約1.7 m、短軸約1.2 m、底面までの深さは約60 cmを測る。

4号土坑（第38図）

調査区東側で検出され、平面不定形プランを呈する。検出面での規模は、長軸約1.3 m、短軸約1.0 m、底面までの深さは約80cmを測る。底面はほぼ平坦で、底面中央からは1か所浅いピットが検出された。落とし穴遺構と推測される。

5号土坑（第38図）

調査区北側で検出され、平面不定形プランを呈する。検出面での規模は、長軸約2.2 m、短軸約1.3 m、底面までの深さは約20cmを測る。底面はほぼ平坦で、焼土が浮いた状態で検出された。

6号土坑（第38図）

調査区中央で検出され、平面不定形プランを呈する。検出面での規模は、長軸約1.2 m、短軸約1.1 m、底面までの深さは約20cmを測る。底面はほぼ平坦で中央には浅い掘り込みが確認された。中からは焼土が浮いた状態で検出された。

8号土坑（第38図、写真図版18）

調査区西側で検出され、平面楕円形プランを呈する。検出面での規模は、長軸約1.3 m、短軸約1.1 m、底面までの深さは約35 cmを測る。底面はほぼ平坦で、中からは土器がまとまって出土した。

9号土坑（第38図）

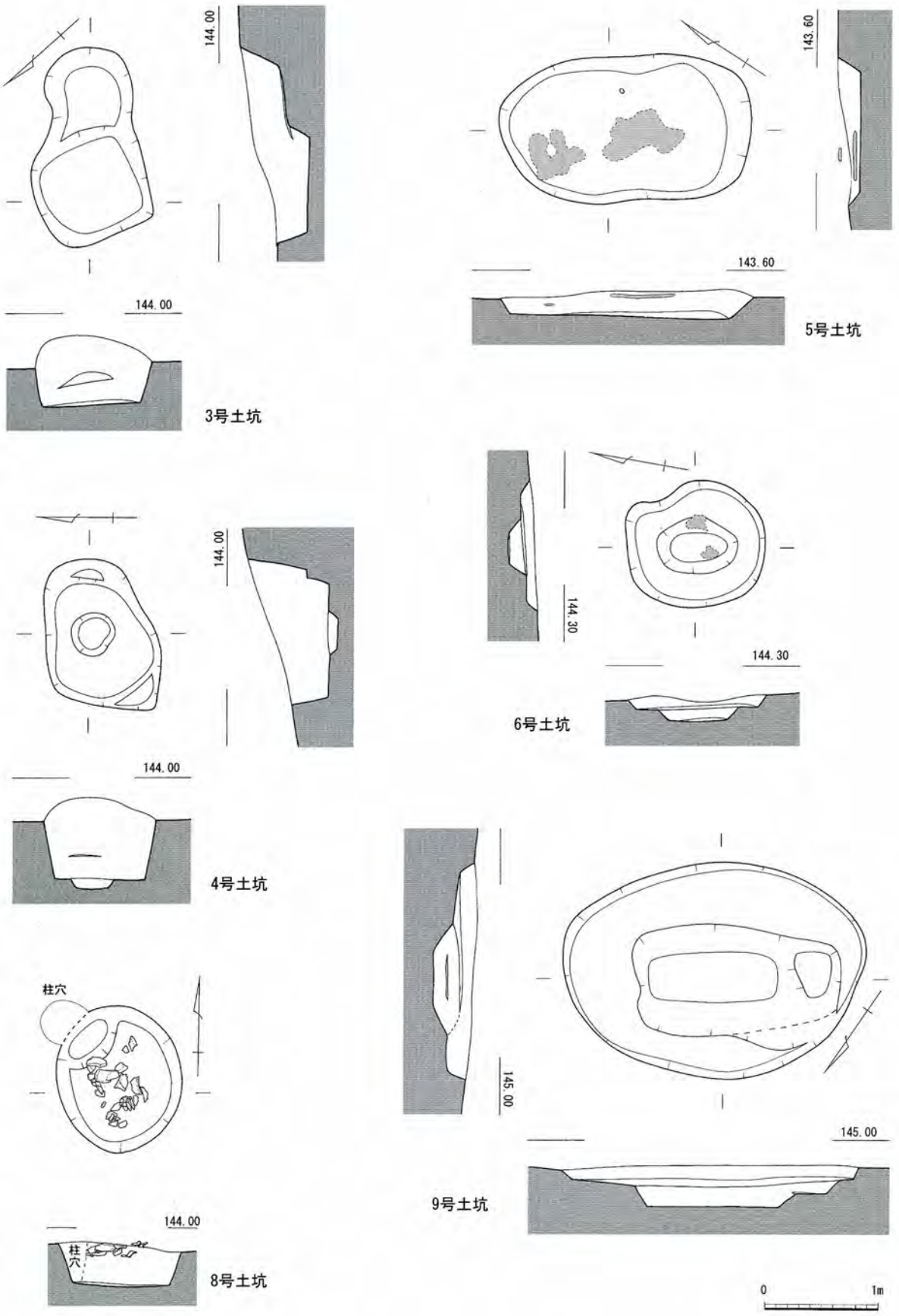
調査区南側で検出され、平面楕円形プランを呈する。検出面での規模は、長軸約2.6 m、短軸約1.9 m、底面までの深さは約15cmを測る。底面からさらに長軸約1.75 m、短軸約1.0 m、深さ15 cmの長方形プランの掘り方が確認されており、土壙墓の可能性もある。

11号土坑（第39図）

調査区東側で検出され、平面隅丸方形プランを呈する。検出面での規模は、長軸約1.0 m、短軸約0.9 m、底面までの深さは約90 cmを測る。底面はほぼ平坦である。

12号土坑（第39図）

調査区東側で検出され、平面不定形プランを呈する。検出面での規模は、長軸約1.3 m、短軸約



第38図　3～9号土坑実測図（1/50）

0.7 m、底面までの深さは約 75 cmを測る。掘り方は 2 段掘りとなっている。

13 号土坑（第 39 図）

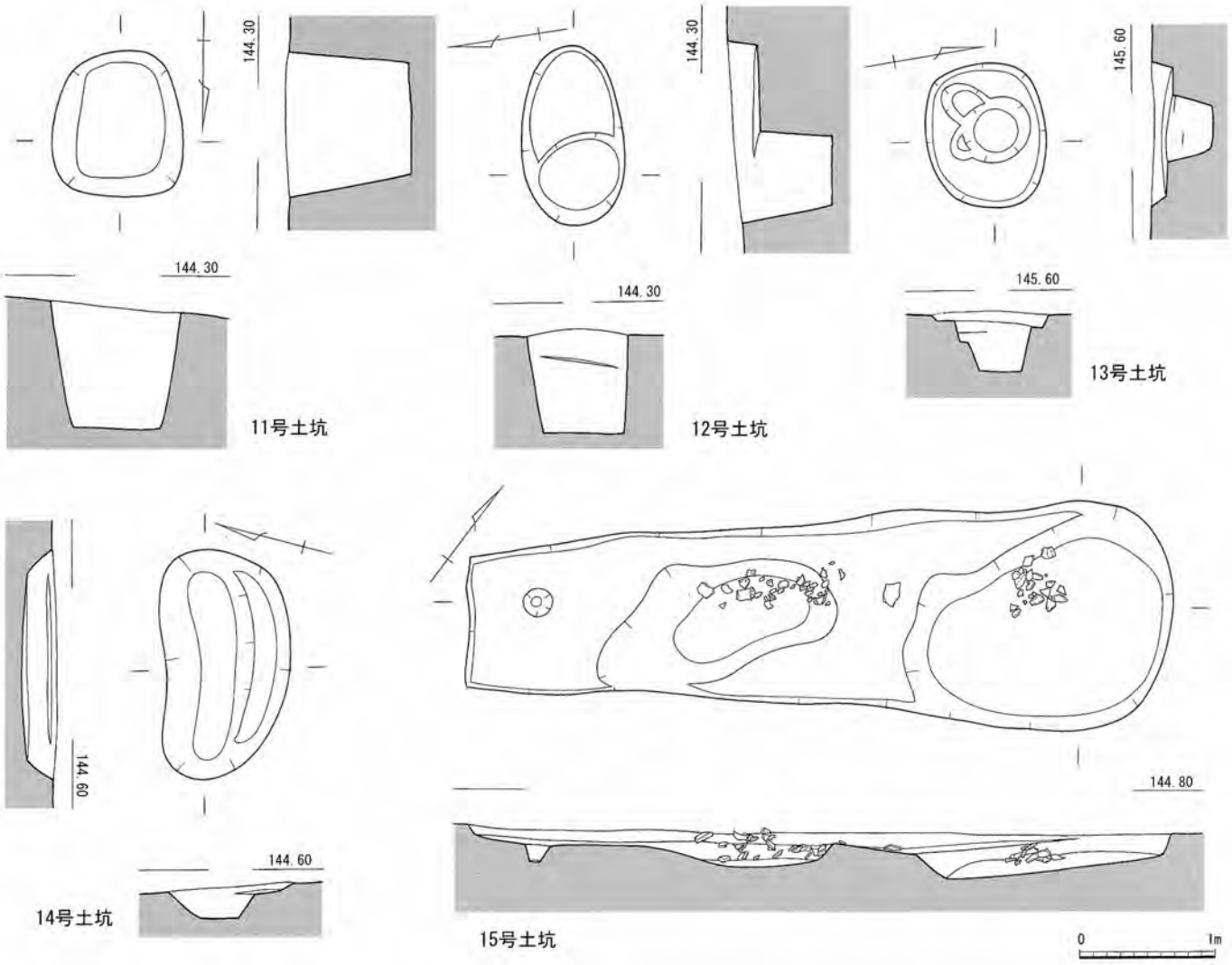
調査区南側で検出され、平面不定形プランを呈する。検出面での規模は、長軸約 1.1 m、短軸約 0.9 m、底面までの深さは約 45 cmを測る。底面中央には深いピットが掘りこまれている。

14 号土坑（第 39 図）

調査区西側で検出され、平面不定形プランを呈する。検出面での規模は、長軸約 1.7 m、短軸約 0.9 m、底面までの深さは約 25 cmを測る。掘り方は 2 段掘りとなっている。

15 号土坑（第 39 図、写真図版 18）

調査区西側で検出され、平面長方形プランを呈する。検出面での規模は、長軸約 5.1 m、短軸約 1.7 m、底面までの深さは約 30cm を測る。中央と東側には浅く幅広い掘り込みが確認された。中からは土器片が出土している。



第 39 図　11 ～ 15 号土坑実測図（1/50）

第2表　竪穴住居計測表

	形　態	長軸	長さ(m)	短軸	長さ(m)	深さ(cm)	周溝の深さ(cm)	ベッド状遺構(m)	張り出し部(m)	主柱穴の方向と数	主柱穴の深さ(cm)	炉(m)	南面土坑(m)	備考
1号竪穴住居	長方形	南北	3.4	東西	2.4+α	15	2	−	−	−	−	(0.3×0.3)	−	焼土面あり
2号竪穴住居	長方形	東西	6.0+α	南北	5.3	20	5〜8	−	−	東西2	35〜60	0.8×0.65	1.5×1.2	
3号竪穴住居	長方形	東西	5.4+α	南北	5.8	40	2〜5	1.9×1.2	−	東西?1(+1)	40	1.0×0.75	−	
4号竪穴住居	方形	南北	4.8	東西	4.2	25	−	−	−	南北2	35〜50	0.7×0.7	−	東西に土坑あり
5号竪穴住居	隅丸長方形	東西	4.3	南北	4.0	30	10〜17	住居西半　幅1.2 東隅　2.0×1.3	西隅　1.9×1.2 北隅　1.9×1.2	東西2？	5〜25	0.9×0.9	−	焼失住居か
6号竪穴住居	長方形	東西	4.0	南北	3.3	10	−	−	−	−	−	(0.3×0.3)	−	焼土面あり
7号竪穴住居	長方形	東西	5.4	南北	2.7+α	50	1〜4	2.5+α×1.1	−	東西2	35〜40	−	1.2×1.2	
8号竪穴住居	長方形	東西	2.6+α	南北	4.1	30	1〜5	−	−	東西?1(+1)	30	0.5+α×0.4	0.7×0.55	
9号竪穴住居	円形	南北	9.2	東西	8.8	15	−	−	−	円10	25〜70	1.6×1.8	−	
10号竪穴住居	円形	南北	11.5	東西	10.6	10	−	−	−	円14	20〜50	2.8×1.0+α	−	
11号竪穴住居	長方形?	東西	2.9	南北	0.4+α	20	−	−	1.6×1.1	−	−	−	−	焼土・炭あり
12号竪穴住居	長方形	東西	3.5+α	南北	4.3	35	2〜5	3.7×1.2	−	東西2	25〜30	0.8×0.7	0.8×0.7	
13号竪穴住居	長方形	東西	6.4	南北	5.9	90	1〜5	南東隅　1.8×1.1 南西隅　1.8×1.1	−	東西2	70	0.8×0.8	1.4×1.2	焼失住居か
14号竪穴住居	長方形	東西	7.0	南北	5.1	50	1〜8	−	−	東西2	40〜65	−	1.4×1.0	
15号竪穴住居	長方形	南北	4.7	東西	4.1	30	−	−	1.7×1.0	南北2	25〜30	0.8×0.7	(東) 1.0×0.9	
16号竪穴住居	円形	南北	8.2	東西	7.9	35	5〜9	−	−	円9	60〜80	1.8×1.5	−	
17号竪穴住居	方形	東西	3.3+α	南北	3.2	10	−	−	−	東西2	45〜50	0.9×0.7	−	
18号竪穴住居	長方形	東西	8.8	南北	6.2	70	2〜7	5.1×1.1	−	東西4	20〜75	0.7×0.6	1.4×1.1	
19号竪穴住居	円形	南北	10.6	東西	9.9	50	3〜15	(-)	−	円10	10〜80	1.7×1.1	−	主柱穴間に仕切り溝あり 焼失住居か
20号竪穴住居	円形	南北	8.7	東西	8.6	30	2〜12	−	−	円9	45〜60	3.0×2.1	−	
21号竪穴住居	円形	東西	8.4	南北	7.9	55	3〜5	(-)	−	円7	40〜80	1.4×1.0	−	
22号竪穴住居	方形	東西	6.2	南北	5.4	20	−	−	−	方4	60〜70	カマド1.0×0.8	−	古墳時代
23号竪穴住居	長方形	東西	5.2	南北	3.6	40	1〜3	1.7×1.0	1.6×1.1	東西2	20〜30	0.7×0.6	1.2×0.8	
24号竪穴住居	方形	東西	2.5	南北	2.3	10	−	−	−	−	−	(0.7×0.5)	−	焼土面あり
25号竪穴住居	長方形	東西	5.6	南北	4.7	70	3〜5	−	1.8×1.1	東西2	55〜60	(0.4×0.4)	1.2×1.0	焼土面あり
26号竪穴住居	不定形	南北	3.9	東西	1.4+α	60	−	−	−	−	−	−	−	古墳時代

第3表　掘立柱建物計測表

番　号	梁間	梁間長さ(m)	梁間柱間平均(m)	桁行	桁行長さ(m)	桁行柱間平均(m)	延床面積(㎡)	軸方位	柱穴掘り方規模(cm)	柱穴深さ(cm)	備考
1号掘立柱建物	1間	3.5	3.5	2間	6	3	21	N-43°-E	50〜70	45〜85	
2号掘立柱建物	1間	3.3	3.3	2間	5.4	2.7	18	N-11°-E	50〜90	60〜80	
3号掘立柱建物	1間	3.6	3.6	2間	5.3	2.7	19	N-11°-W	70〜90	60〜80	5号建物に切られる
4号掘立柱建物	3間	5.0	1.7	6間	14.0	2.3	70	N-50°-E	30〜70	40〜130	建物内部に柱3本あり
5号掘立柱建物	3間	5.2	1.7	7間	14.4	2.1	75	N-61°-W	35〜45	50〜100	3号建物を切る
6号掘立柱建物	2間	4.8	2.4	5間	9.5	1.9	46	N-69°-W	40〜90	30〜50	5号竪穴住居に切られる
7号掘立柱建物	2間	3.3	1.7	2間	4.0	2	13	N-8°-E	25〜50	15〜55	総柱建物。梁方向の両側に棟持柱あり
8号掘立柱建物	1間	3.1	3.1	1間	4.1	4.1	13	N-20°-E	35〜60	40〜50	

第4表　甕棺墓計測表

番号	形態	主軸方向	長軸（m）	短軸（m）	土坑深さ（cm）	埋置角度	備考
1号甕棺墓	単棺（石蓋）	N -85°　- E	2.2	1.5	85	35°	甕。蓋石は安山岩板石。
2号甕棺墓	単棺（蓋不明）	N -90°　- E	1.4	1.1	90	-	壺（赤塗りあり）。ほとんど割れている。
3号甕棺墓	単棺（石蓋）	N -23°　- E	1.0	0.9	35	40°	壺。蓋石は安山岩の扁平石。
4号甕棺墓	合わせ方不明	N -106°　- E	0.8	0.7	40	41°	上：壺、下：甕。
5号甕棺墓	合口（接口式）	N -82°　- W	0.8	0.5	35	25°	上：甕、下：甕。

第5表　甕棺観察表

挿図番号	遺構名	器種	法量			調整		胎土	焼成	色調		備考
			口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第37図－1	1号甕棺	甕	43.5	9.5	61.8	ハケ後ナデ？	ナデ	ABC	良好	淡黄褐色	淡黄褐色	体部下半にスス付着
第37図－2	2号甕棺	壺	26.8	9.7	36.9	ナデ	ナデ	ABCDH	良好	淡茶褐色	淡茶褐色	外面朱塗り口縁部に浮文5箇所 搬入品
第37図－3	3号甕棺	壺	26.2	7.5	52.9	剥離のため不明	頸部ハケ 体部ナデ	ABCD	良好	淡灰褐色	淡灰褐色	口縁部に浮文2箇所
第37図－4	4号甕棺上	壺	20.9	9.3	35.9	剥離のため不明	ナデ	ABCDE	良好	淡茶褐色	淡茶褐色	口縁部に浮文3箇所
第37図－5	4号甕棺下	甕	34.3	7.8	36.1	剥離のため不明、一部ハケ	ナデ	ABCD	良好	淡黄茶褐色	淡黄茶褐色	
第37図－6	5号甕棺上	鉢	28.8	8.4	21.5	剥離のため不明	ナデ	ABC	良好	淡黄茶褐色	淡黄茶褐色	
第37図－7	5号甕棺下	甕	33.0	8.9	40.8	剥離のため不明	ナデ	ABC	良好	淡黄灰褐色	淡黄灰褐色	

※単位はcm。胎土…A：角閃石　B：石英　C：長石　D：赤色粒子　E：白色粒子　F：黒色粒子　G：雲母　H：金雲母　I：砂粒

第6表　土坑計測表

番号	平面形	長軸	長さ（m）	短軸	長さ（m）	深さ（cm）	備考
1号土坑							→ 1号甕棺墓
2号土坑							→ 2号甕棺墓
3号土坑	不定形	南北	1.7	東西	1.2	60	
4号土坑	不定形	東西	1.3	南北	1.0	80	落とし穴遺構か
5号土坑	不定形	南北	2.2	東西	1.3	20	
6号土坑	不定形	南北	1.2	東西	1.1	20	
7号土坑							→ 3号甕棺墓
8号土坑	楕円形	南北	1.3	東西	1.1	35	
9号土坑	楕円形	東西	2.6	南北	1.9	15	土壙墓か
10号土坑							→ 4号甕棺墓
11号土坑	隅丸方形	南北	1.0	東西	0.9	95	
12号土坑	不定形	東西	1.3	南北	0.7	75	
13号土坑	不定形	東西	1.1	南北	0.9	45	
14号土坑	不定形	東西	1.7	南北	0.9	25	
15号土坑	長方形	東西	5.0	南北	1.7	30	
16号土坑							→ 9・10号竪穴住居内土坑
17号土坑							→ 5号甕棺墓

1 号竪穴住居

2 号竪穴住居

3 号竪穴住居

3 号竪穴住居　石庖丁出土状況

3 号竪穴住居　遺物出土状況①

3 号竪穴住居　遺物出土状況②

4 号竪穴住居

5 号竪穴住居

写真図版 2

5 号竪穴住居　張出部川原石出土状況

5 号竪穴住居　西壁川原石出土状況

5 号竪穴住居　北壁川原石出土状況

5 号竪穴住居　柱穴（炭・焼土が入っている）

5 号竪穴住居　炭化材・土器出土状況

5 号竪穴住居　袋状鉄斧出土状況

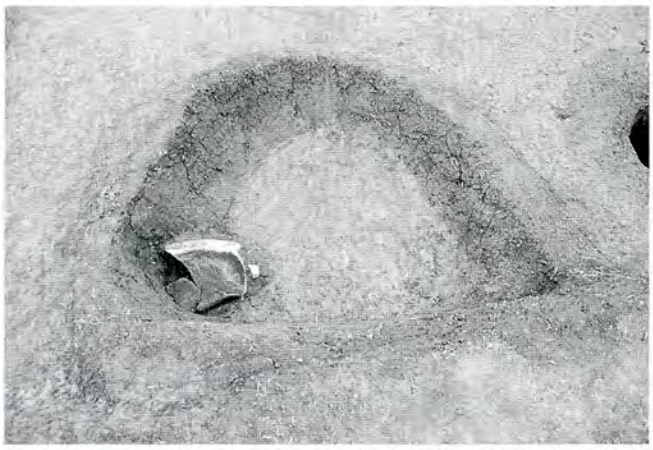
5 号竪穴住居　鉄鏃出土状況

5 号竪穴住居　炭化材出土状況

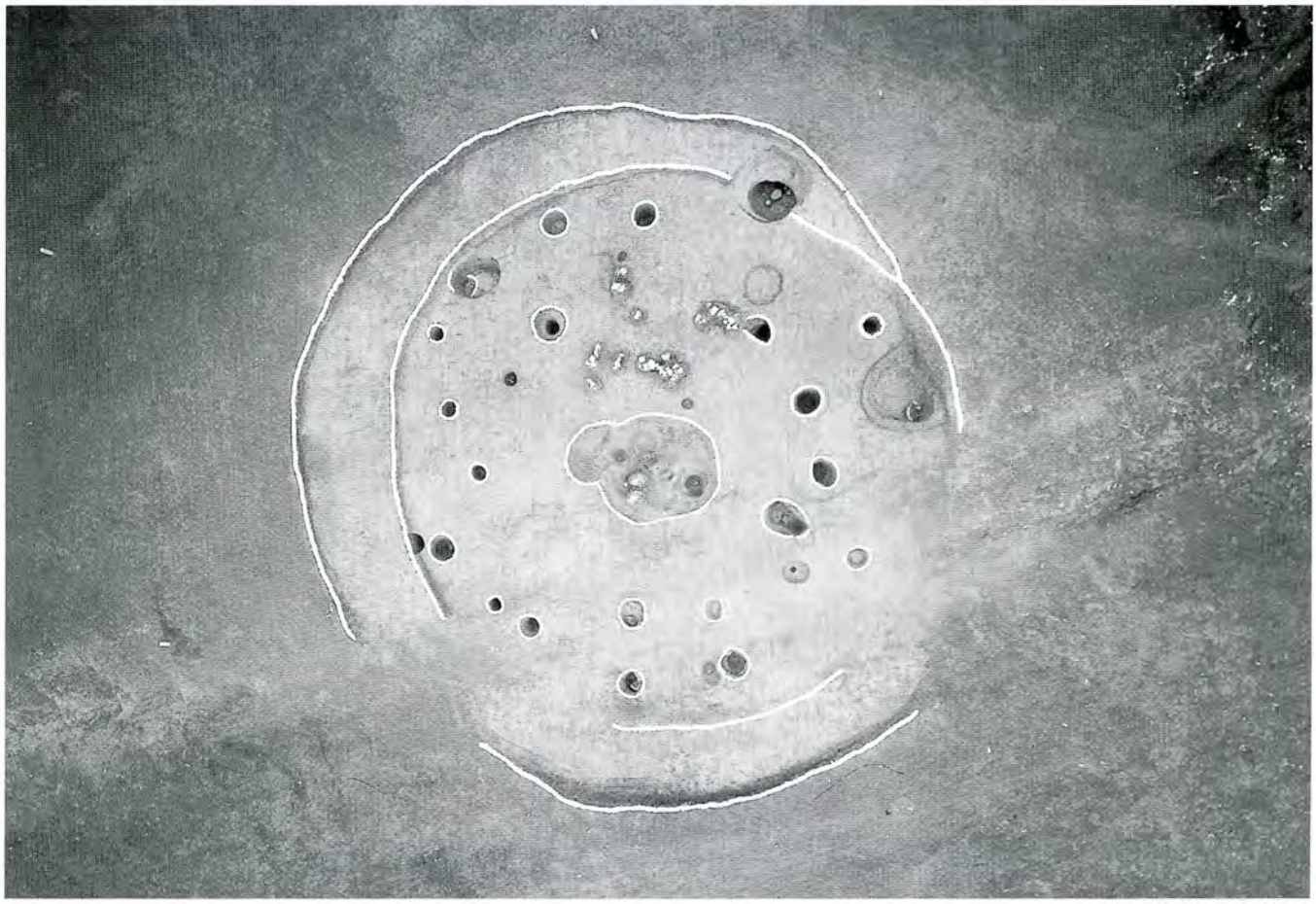
7 号竪穴住居

8 号竪穴住居

9・10 号竪穴住居



9・10 号竪穴住居内土坑　遺物出土状況



9・10 号竪穴住居

11 号竪穴住居

11 号竪穴住居　石庖丁出土状況

12 号竪穴住居

12 号竪穴住居　遺物出土状況

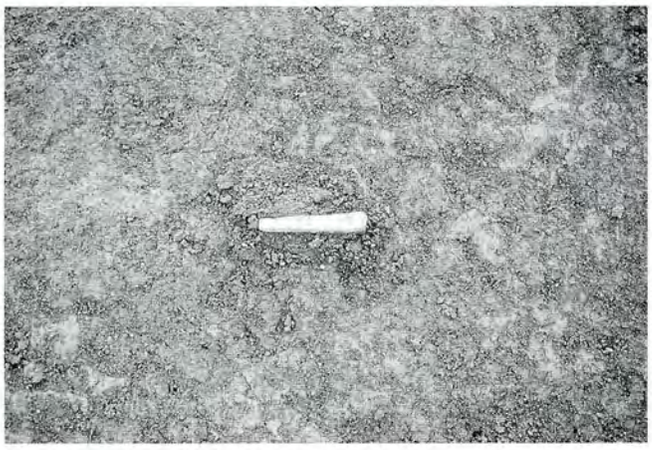
13・14 号竪穴住居

13 号竪穴住居

13 号竪穴住居　ベッド状遺構内ピット遺物出土状況

13 号竪穴住居　遺物出土状況

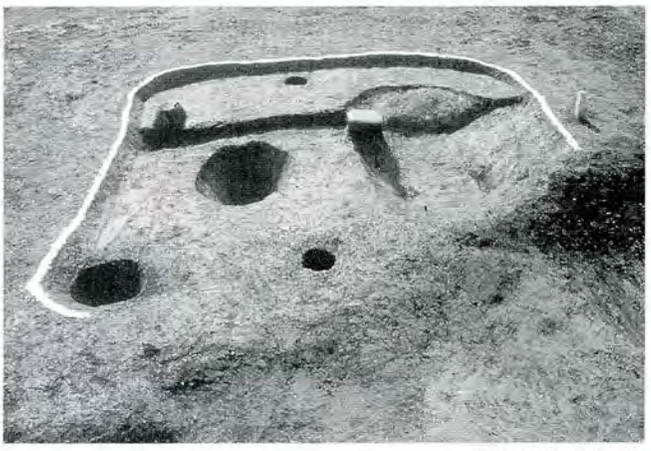
14 号竪穴住居



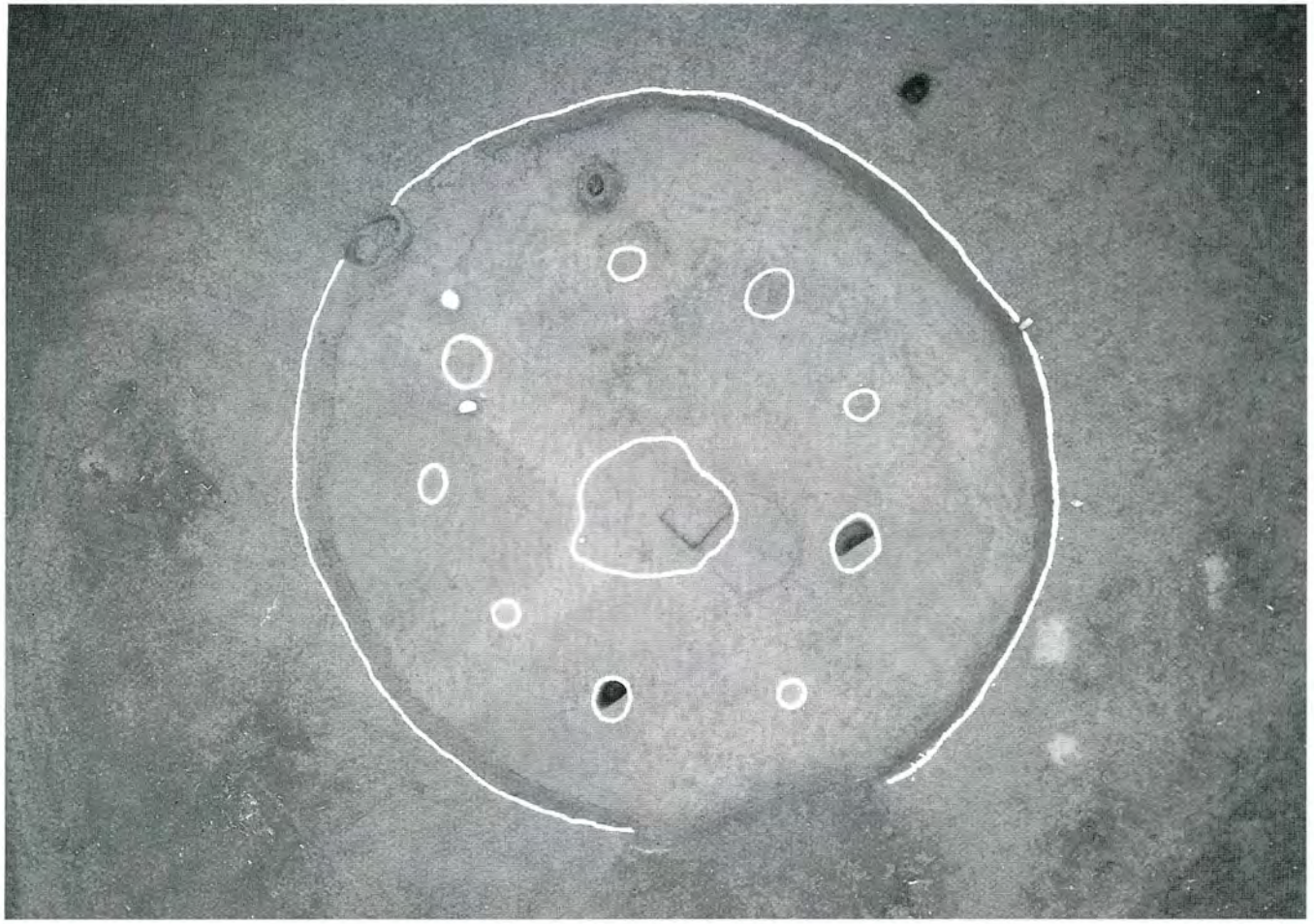
14 号竪穴住居　砥石出土状況

14 号竪穴住居　遺物出土状況

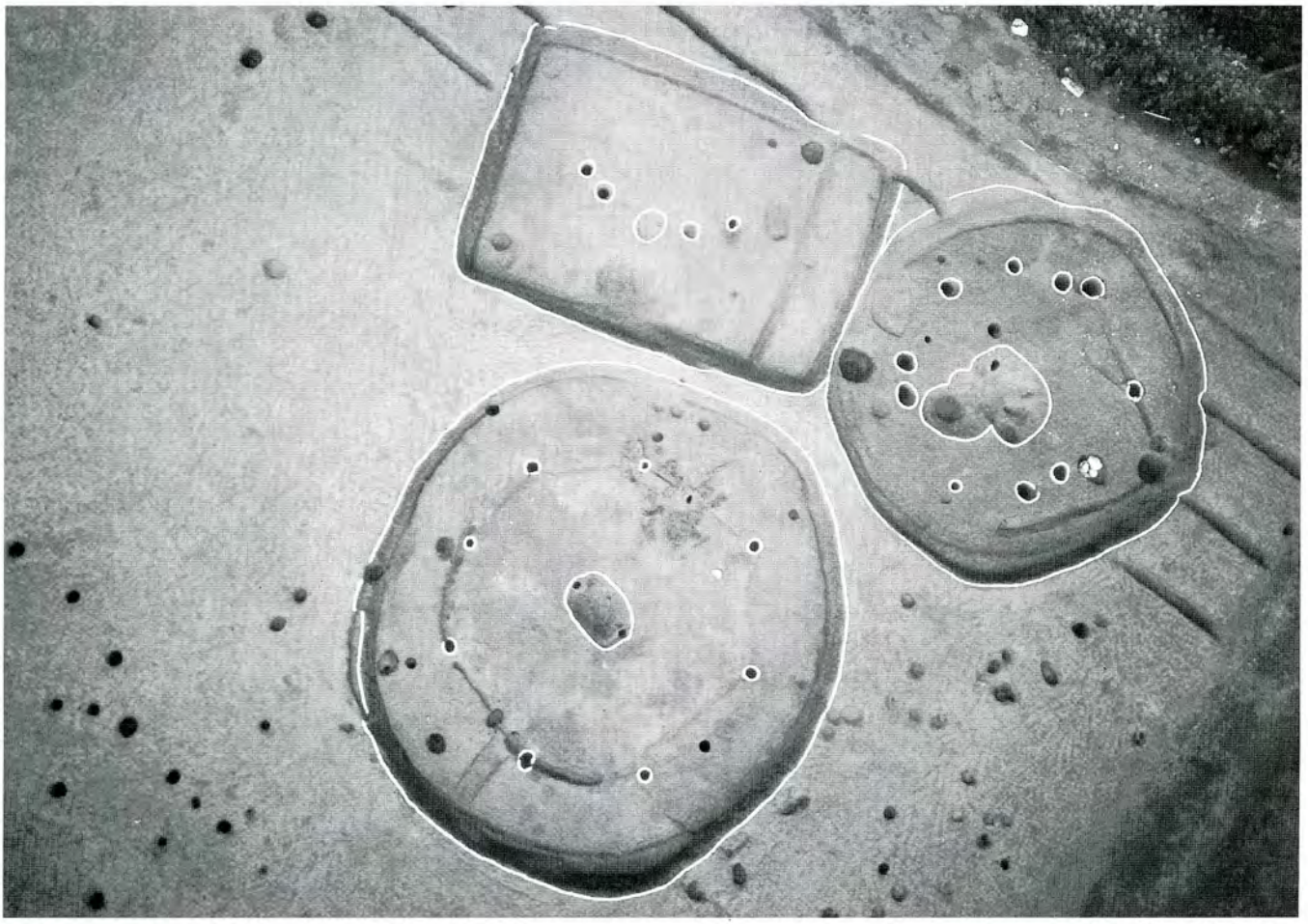
15 号竪穴住居



17 号竪穴住居



16 号竪穴住居



18 ～ 20 号竪穴住居

18 号竪穴住居居

18 号竪穴住居　遺物出土状況①

18 号竪穴住居　遺物出土状況②

19 号竪穴住居　遺物出土状況①

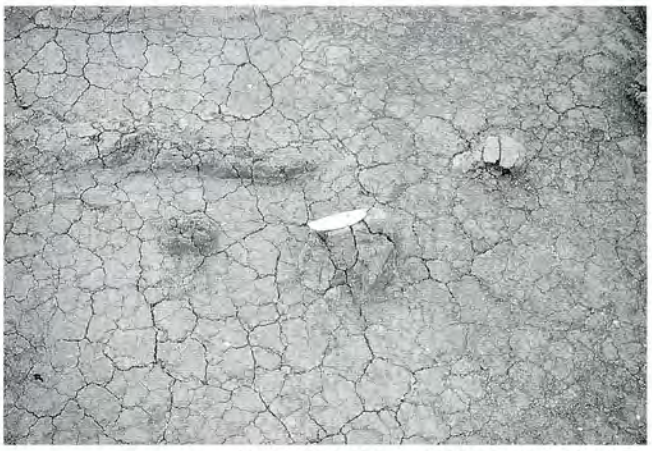
19 号竪穴住居　遺物出土状況②

19 号竪穴住居　遺物出土状況③

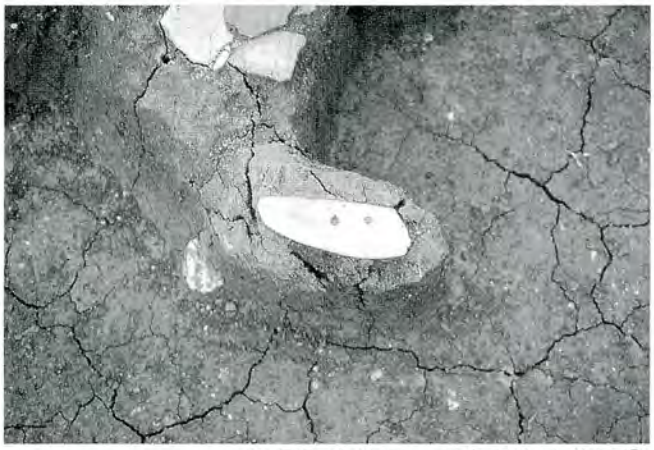
19 号竪穴住居　炭化材・遺物出土状況

19 号竪穴住居　炭化材出土状況

19 号竪穴住居　砥石出土状況



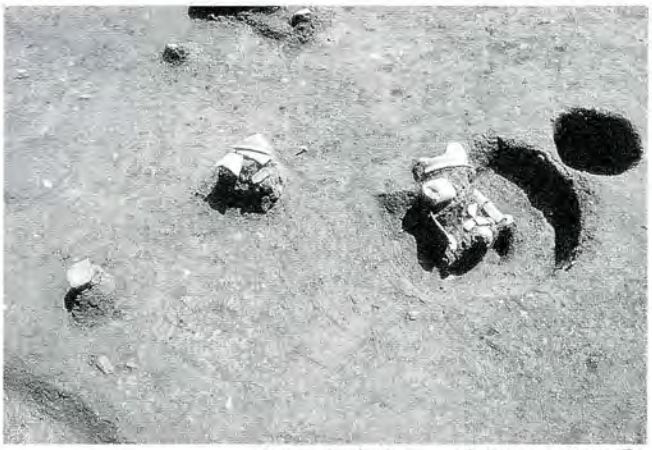
19 号竪穴住居　石庖丁出土状況①



19 号竪穴住居　石庖丁出土状況②

20 号竪穴住居

20 号竪穴住居　炉内遺物出土状況

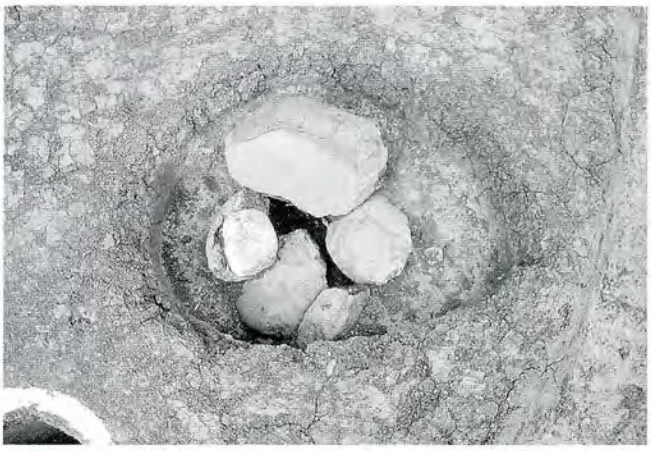


20 号竪穴住居　遺物出土状況①

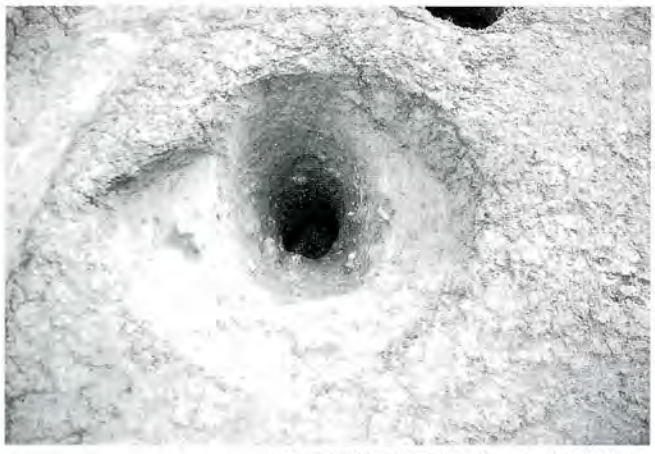
20 号竪穴住居　遺物出土状況②

20 号竪穴住居　遺物出土状況③

20 号竪穴住居　石皿・石庖丁・磨製石鏃出土状況



20 号竪穴住居内ピット　掘下げ状況



20 号竪穴住居内ピット完掘状況

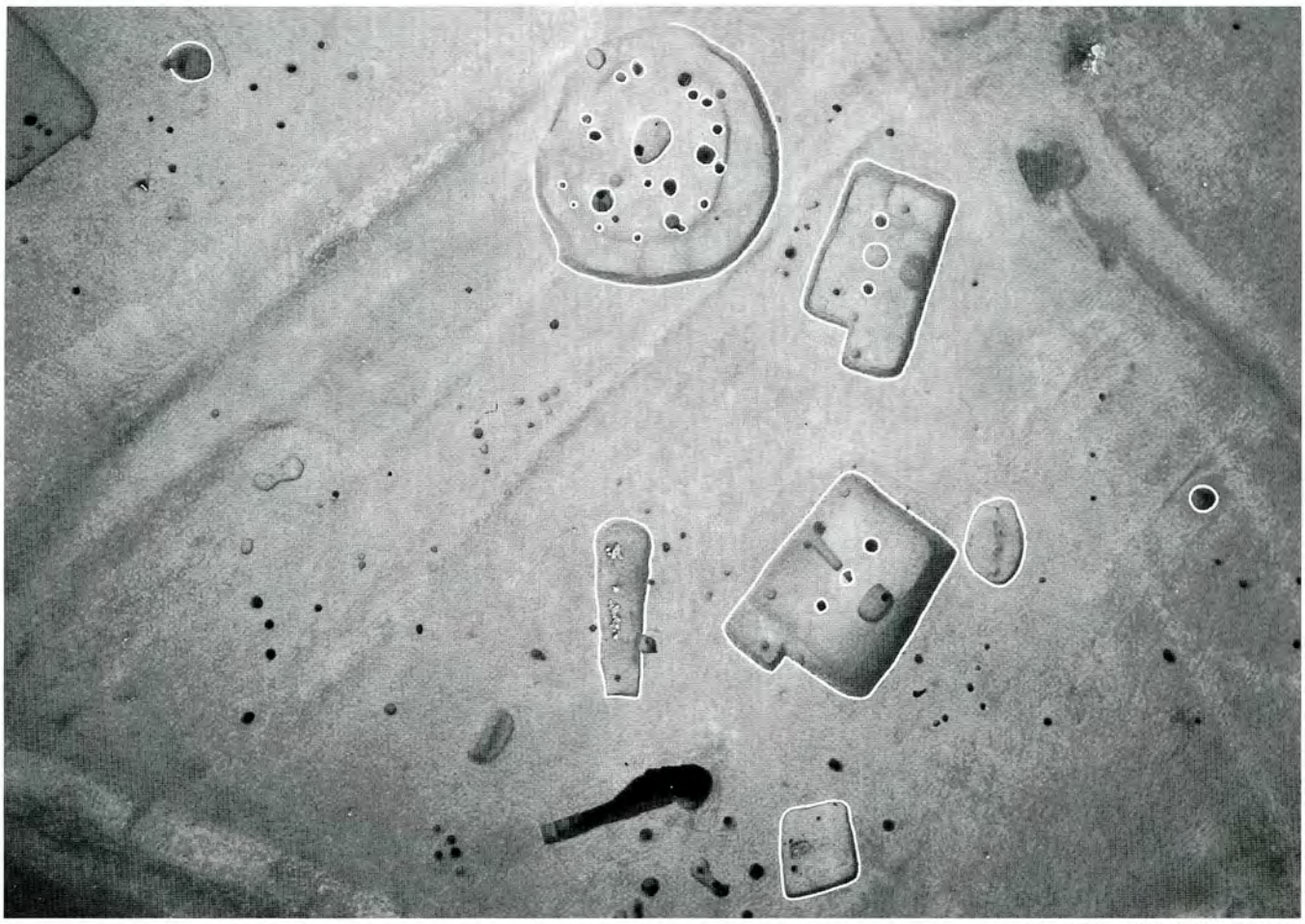
21 号竪穴住居

21 号竪穴住居　炉内遺物出土状況

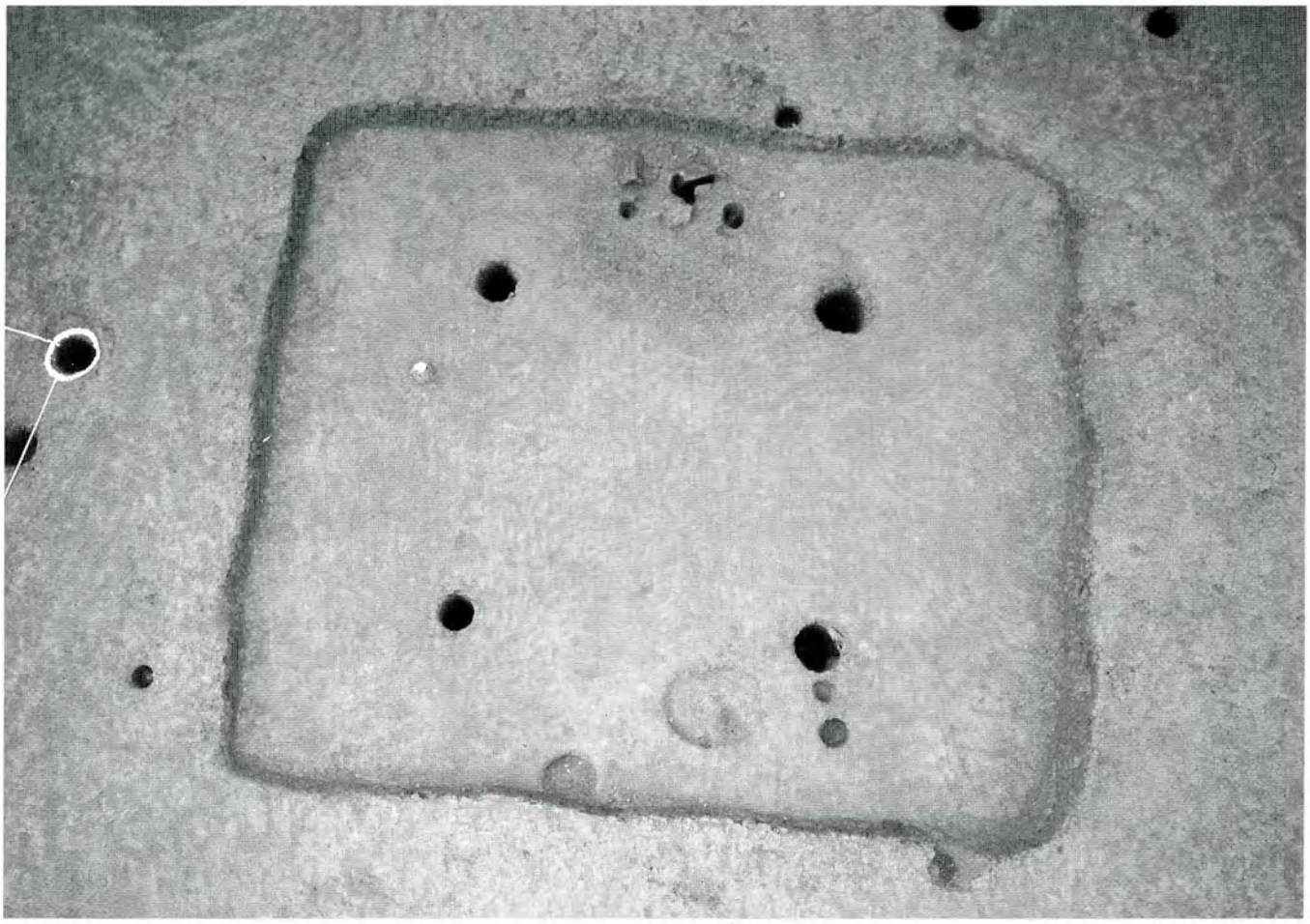
22 号竪穴住居

22 号竪穴住居　カマド掘下げ状況

22 号竪穴住居　カマド完掘状況



21・23 ～ 25 号竪穴住居

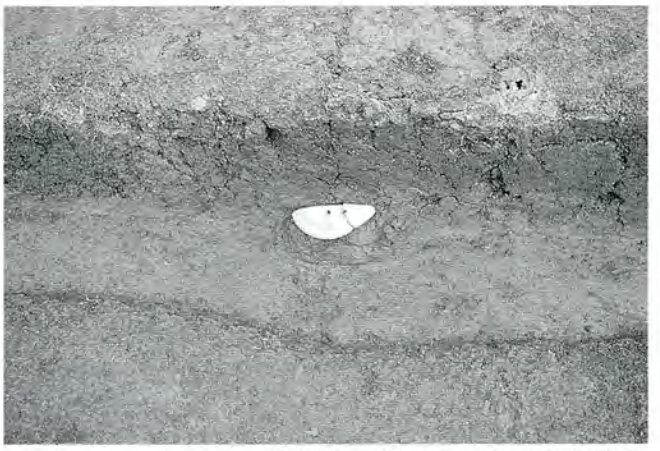


22 号竪穴住居

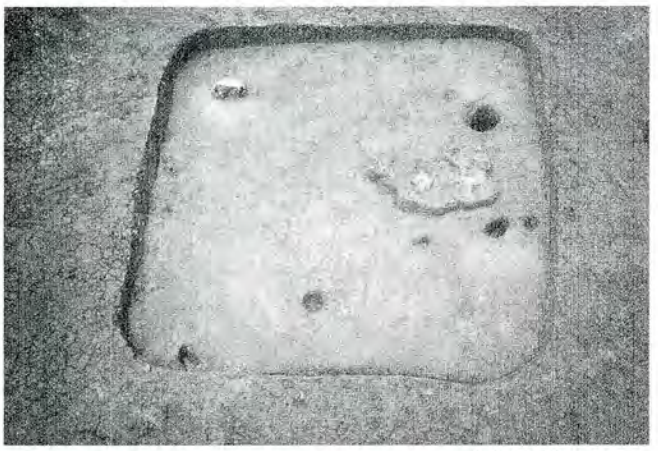
23 号竪穴住居

23 号竪穴住居内諸施設

23 号竪穴住居　遺物出土状況



23 号竪穴住居　石庖丁出土状況

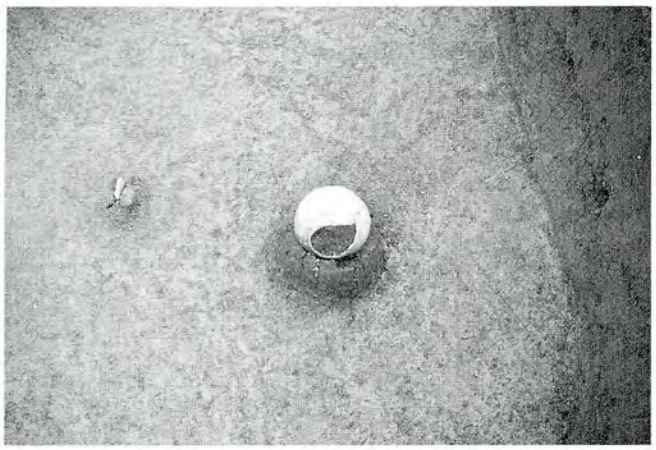


24 号竪穴住居

24 号竪穴住居　焼土検出状況

24 号竪穴住居　石庖丁出土状況

25 号竪穴住居

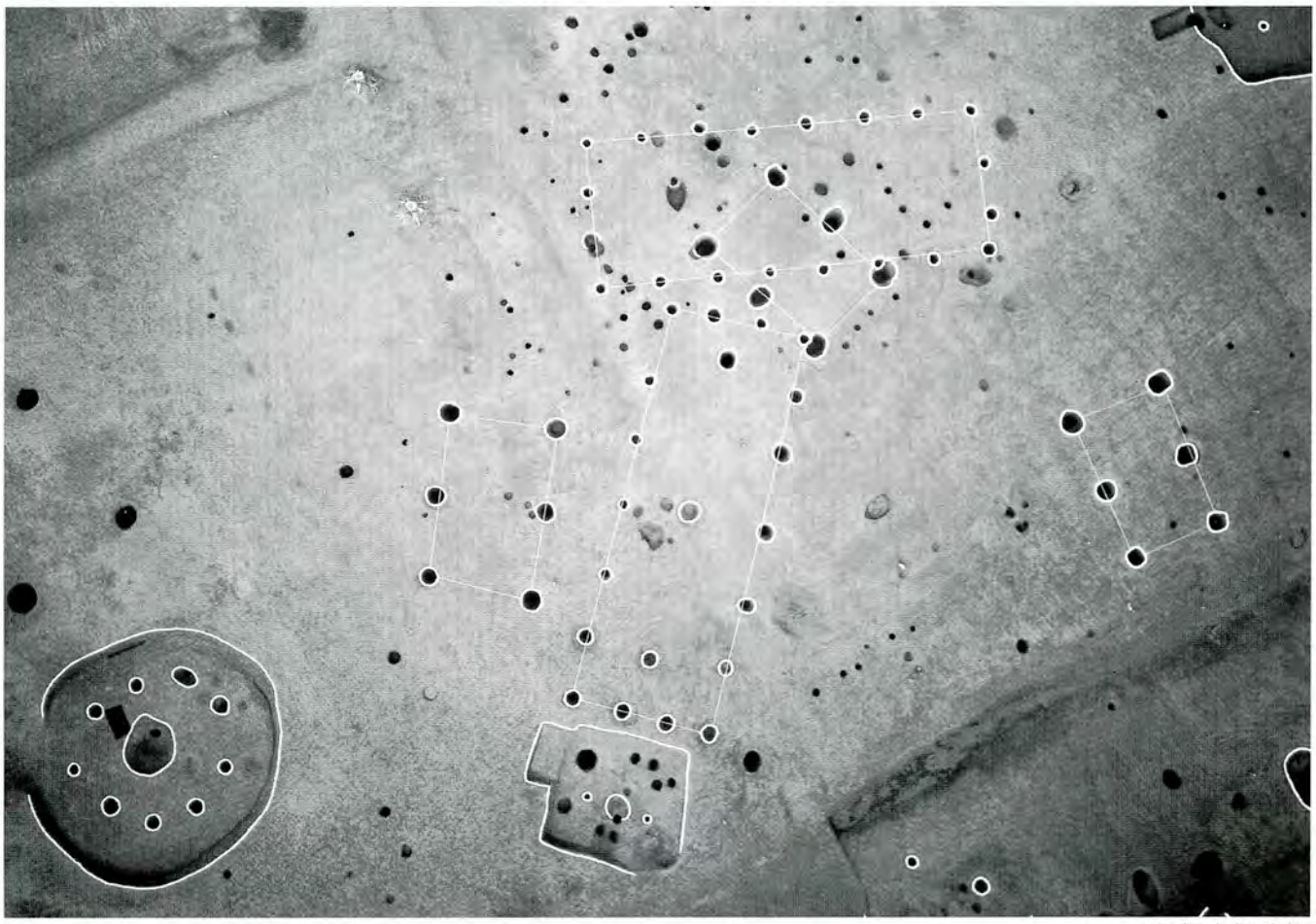


25 号竪穴住居　遺物出土状況①

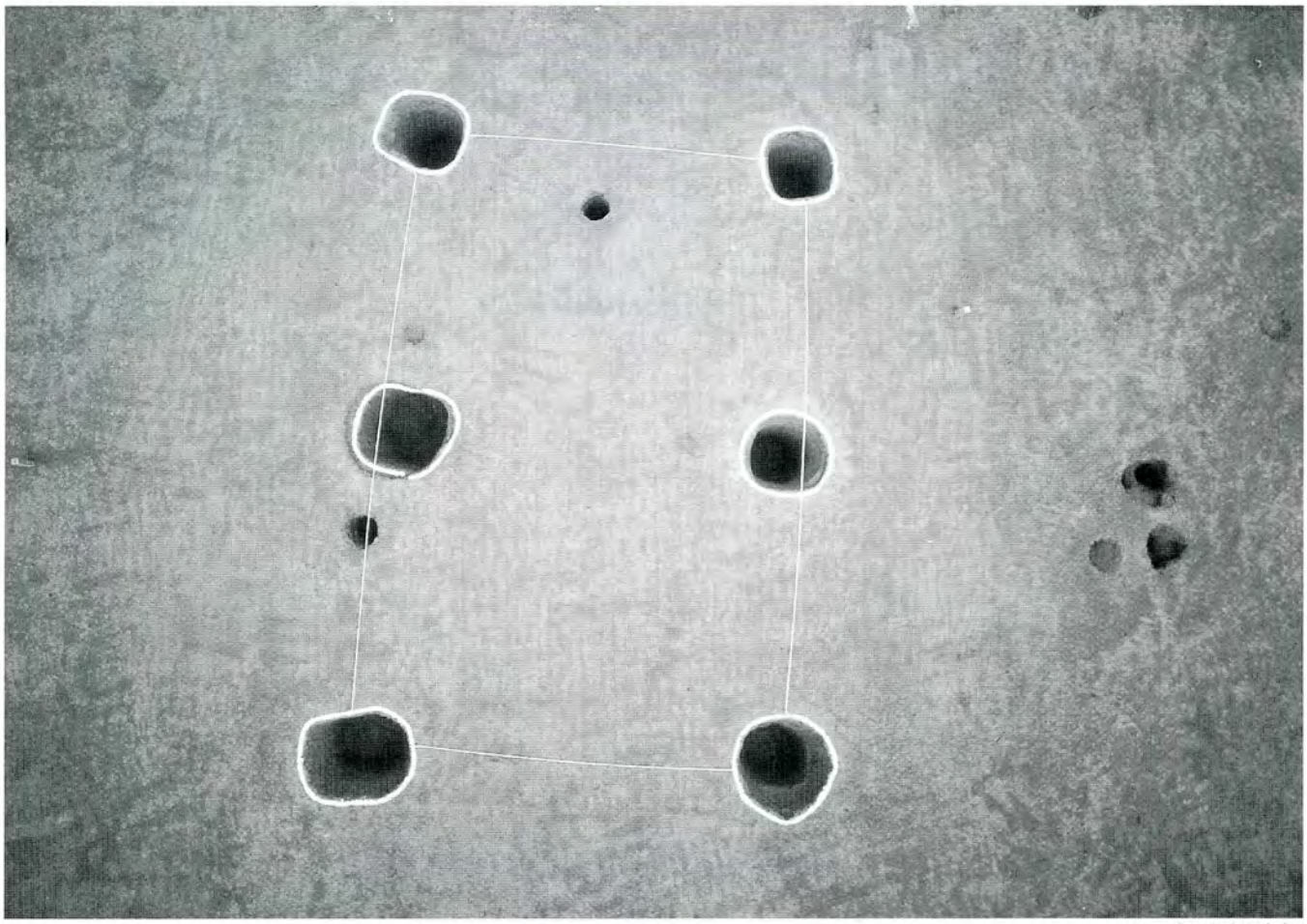
25 号竪穴住居　遺物出土状況②

25 号竪穴住居　遺物出土状況③

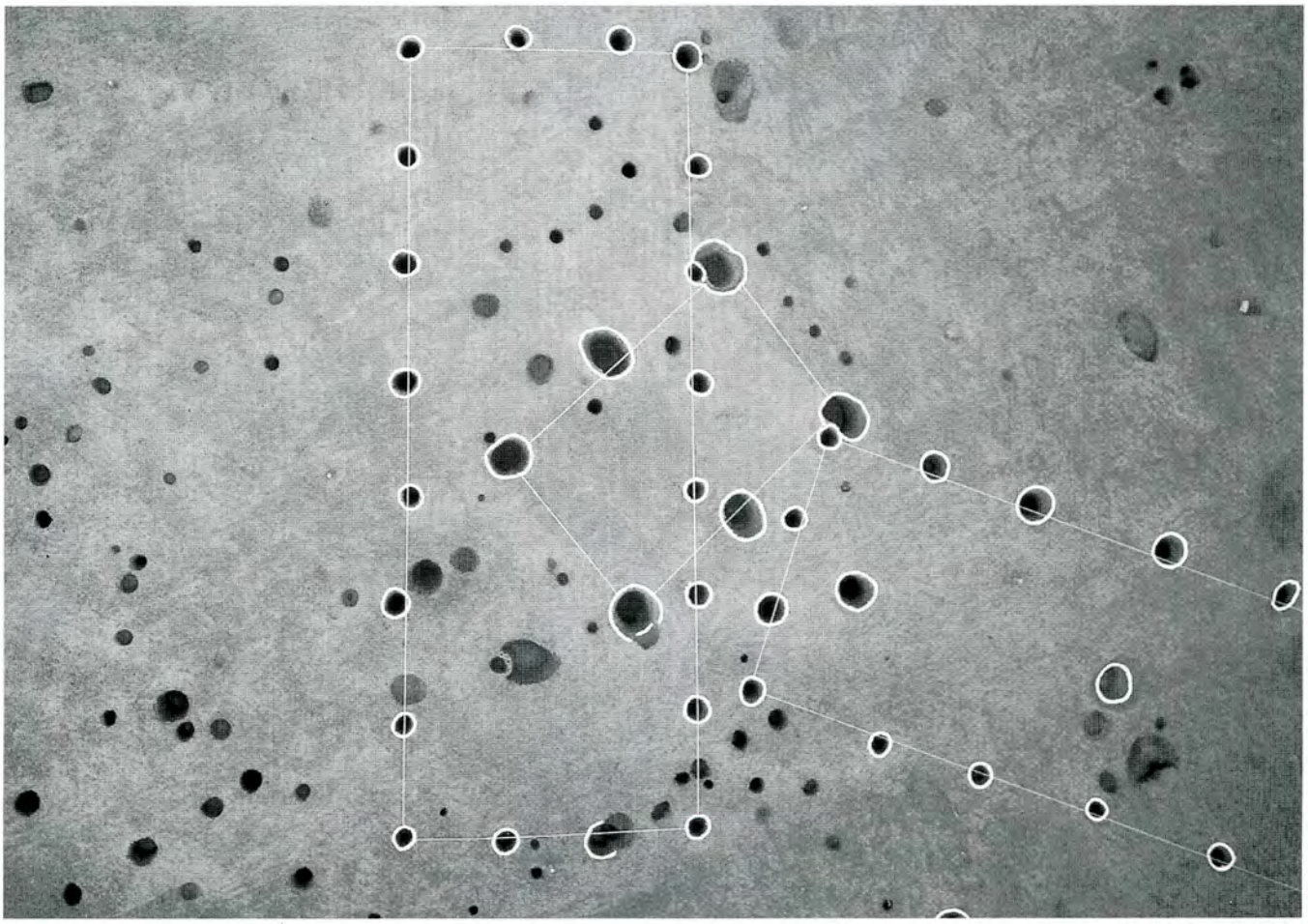
26 号竪穴住居



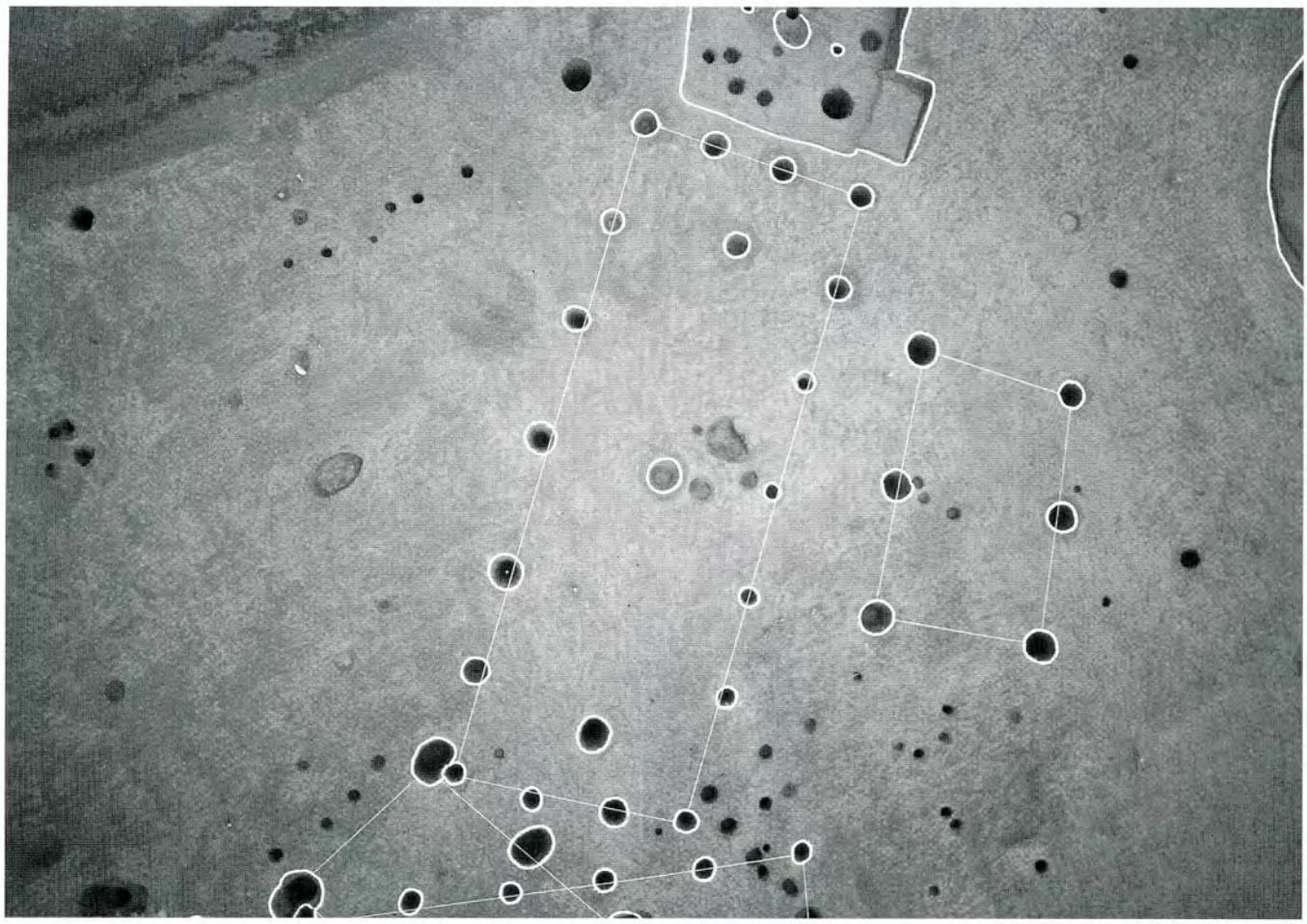
1 ～ 5 号掘立柱建物



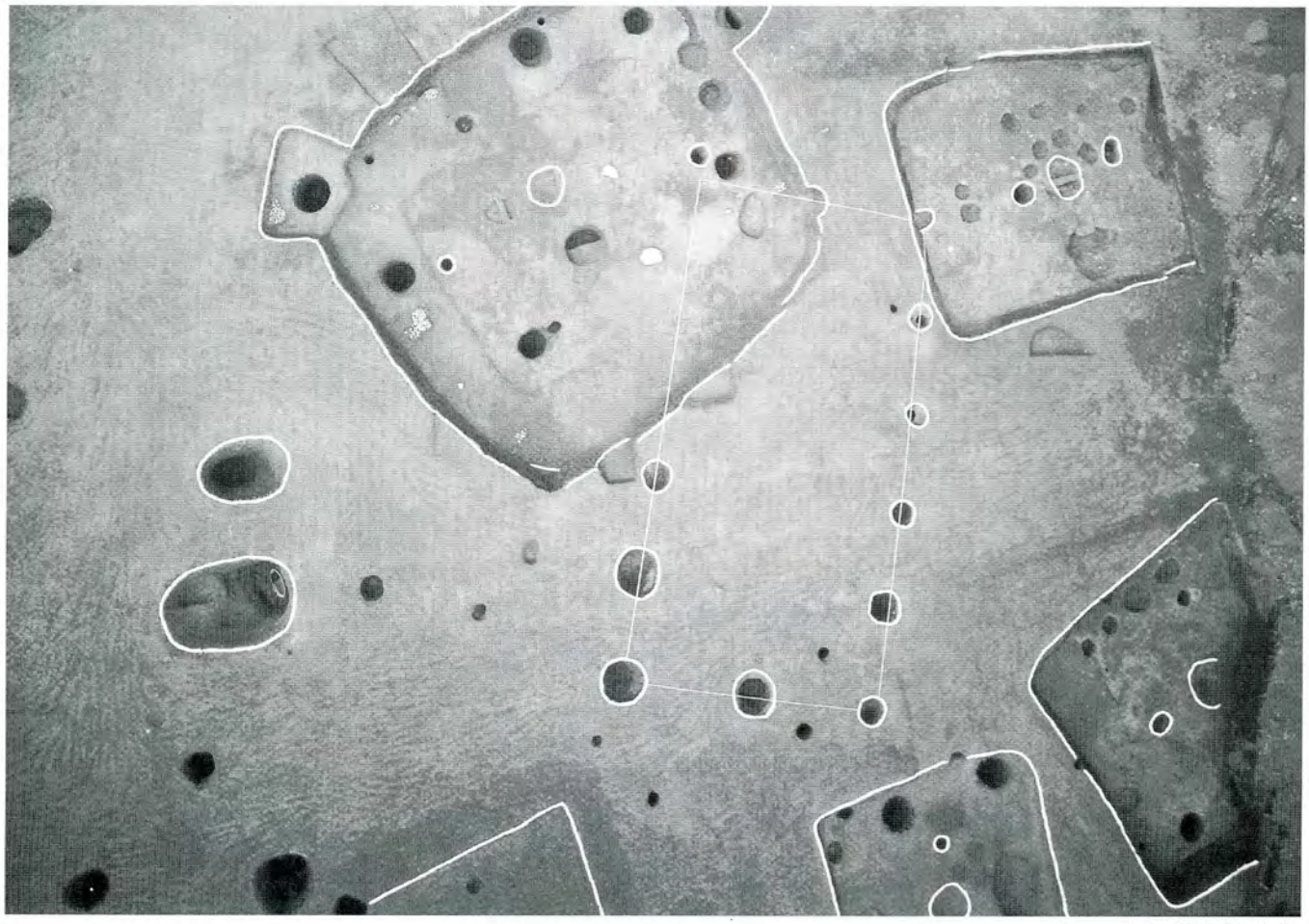
2 号掘立柱建物



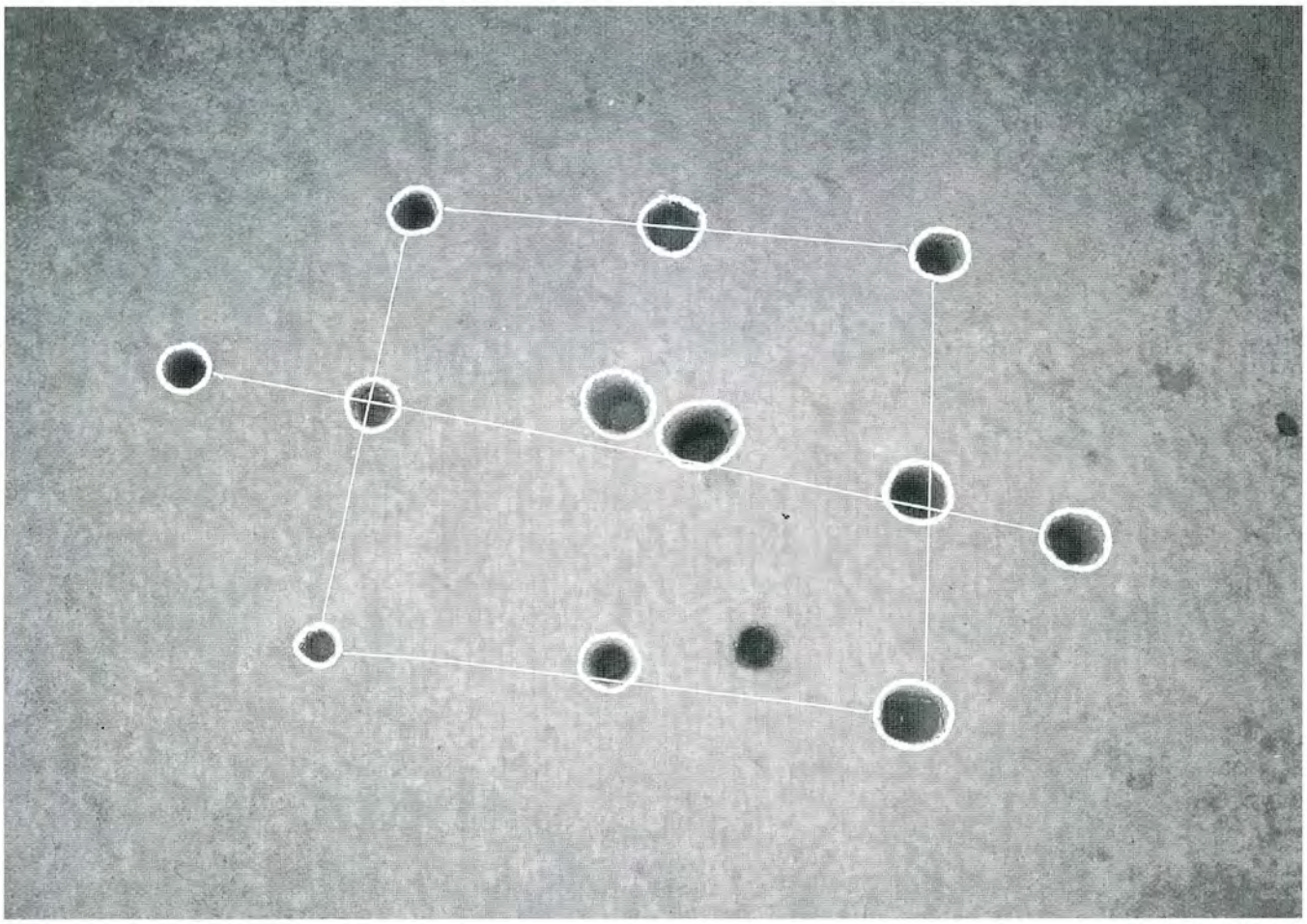
3・5 号掘立柱建物



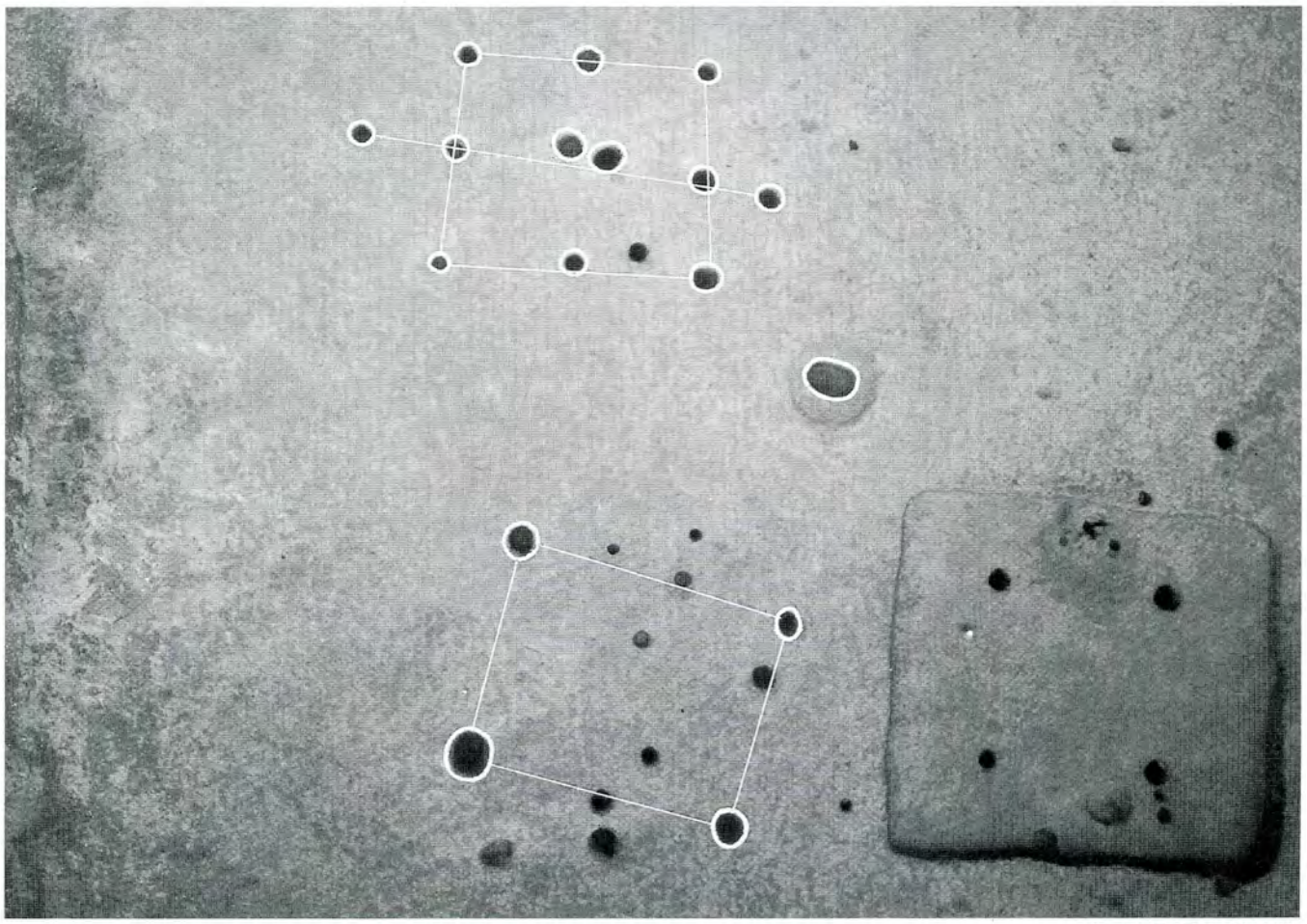
1・4 号掘立柱建物



6 号掘立柱建物



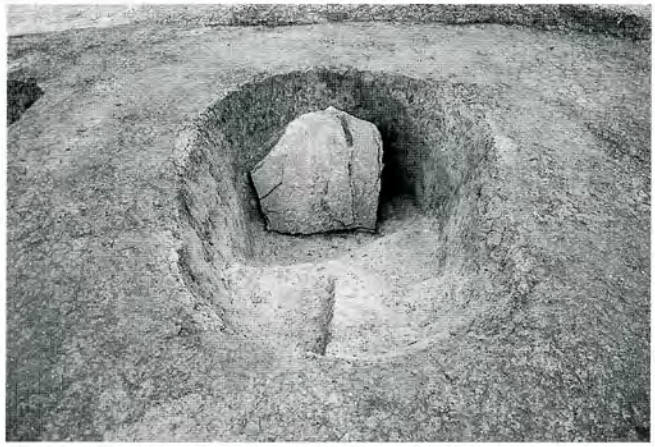
7 号掘立柱建物



7・8 号掘立柱建物

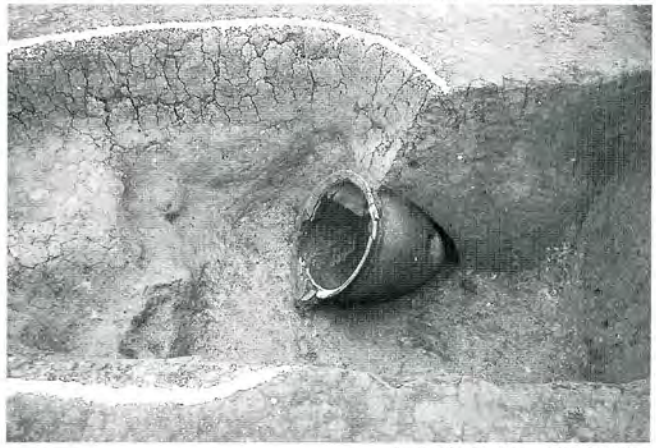
11 号竪穴住居・円形周溝遺構

1・2 号甕棺墓（西から）



1 号甕棺墓　蓋石検出状況

1 号甕棺墓　蓋石除去後



1 号甕棺墓　半裁状況

1・2 号甕棺墓（東から）

2 号甕棺墓

2 号甕棺墓　検出状況①

2 号甕棺墓　検出状況②

3 号甕棺墓検出状況（南から）

3 号甕棺墓検出状況（西から）

4 号甕棺墓（東から）

4 号甕棺墓（北から）

5 号甕棺墓　検出状況①

5 号甕棺墓　検出状況②

5 号甕棺墓（西から）

5 号甕棺墓（北から）

8 号土坑　遺物出土状況

15 号土坑（西から）

15 号土坑　遺物出土状況①

15 号土坑　遺物出土状況②

報 告 書 抄 録

ふりがな	ぎおんばるいせきⅡ
書　　名	祇園原遺跡Ⅱ
副書名	ウッドコンビナート建設推進事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	4
シリーズ名	日田市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第81集
編著者名	行時　桂子
編集機関	日田市教育委員会文化財保護課
所在地	〒877-0077　日田市南友田町516-1
発行機関	日田市教育委員会
所在地	〒877-8601　日田市田島2-6-1
発行年月日	2007年3月30日　（平成19年3月30日）

所収遺跡名	所在地	コード		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
祇園原遺跡	大分県日田市大字東有田字ギオン原	44204-6	651224	33° 18′ 43″	130° 58′ 04″	19960307 ～ 19961003	9,828 ㎡	ウッドコンビナート建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
祇園原遺跡	集落	弥生時代 古墳時代	竪穴住居24軒 掘立柱建物8棟 円形周溝遺構1基 小児用甕棺墓5基 土坑11基 竪穴住居2軒	弥生土器、石器、鉄器	完結した丘陵上に営まれた弥生時代中期～後期の集落。円形住居から隅丸方形をへて方形住居へと変遷するようすがうかがわれる。

祇園原遺跡Ⅱ
2007年3月30日

編集　日田市教育委員会 文化財保護課
877-0077　大分県日田市南友田町516-1
発行　日田市教育委員会
877-8601　大分県日田市田島2-6-1
印刷　山本印刷有限会社
877-0059　大分県日田市大日町3986-3